ISSN 1343-8832

考古学財団

研究紀要 11

かながわの考古学

2006.3

財団法人 かながわ考古学財団

研究紀要 11

かながわの考古学

2006.3

財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

今年度も、各時代の研究プロジェクトチームから提出された共同研究の成果を７本掲載することができました。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の各研究プロジェクトチームは設定したテーマの継続研究を続けております。

いずれの研究プロジェクトチームも限られた時間のなかで収集した、膨大なデータの蓄積があります。その情報を合理的にまとめ、この紀要の限られた紙面の中で反映しています。各研究課題については、それぞれの目標に沿って検討を進めています。

今後ともこうしたグループの共同研究を進めることによって、職員の資質向上が図られ、皆様にその成果が還元できるようであれば、幸いです。

また、これら研究成果を通して、私たちの郷土かながわの先人たちの足跡をたどり、歴史を学ぶ一助となることを期待して刊行の言葉とさせていただきます。

刊行にあたりまして、関係各位にご指導をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

2006年３月

財団法人 かながわ考古学財団
理事長 熊田節郎

目　次

神奈川県における旧石器時代の遺構（その5）　－L3層以降－
旧石器時代研究プロジェクトチーム …… 1

神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅷ
－後期初頭期 称名寺式土器文化期の様相 その1 主要遺跡の集成・一括出土事例－
縄文時代研究プロジェクトチーム …… 11

宮ノ台式土器の研究（5）　弥生時代研究プロジェクトチーム …… 27

考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡（3）
－通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介－
古墳時代研究プロジェクトチーム …… 41

神奈川県内における奈良・平安時代の農具
奈良・平安時代研究プロジェクトチーム …… 57

神奈川県内の「やぐら」集成（4）－「やぐら」出土の土器・陶磁器類について－
中世研究プロジェクトチーム …… 75

近世民家の集成（3）　近世研究プロジェクトチーム …… 89

例　言

1．本書は、財団法人かながわ考古学財団および神奈川県教育庁教育部生涯学習文化財課の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに計画的に共同研究を行った結果を掲載する。

2．各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである（五十音順）。

・旧石器（先土器・岩宿）時代研究プロジェクトチーム

井関文明・大塚健一・加藤勝仁・栗原伸好・鈴木次郎・砂田佳弘・畠中俊明・三瓶裕司・御堂島　正・吉田政行

・縄文時代研究プロジェクトチーム

阿部友寿・天野賢一・井澤　純・井辺一徳・岡　稔・小川岳人・恩田　勇・長岡文紀・松田光太郎

・弥生時代研究プロジェクトチーム

飯塚美保・池田　治・伊丹　徹・櫻井真貴・新開基史・谷口　肇・渡辺　外

・古墳時代研究プロジェクトチーム

上田　薫・植山英史・柏木善治・須藤智夫・谷　正秋・近野正幸

・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

大上周三・加藤久美・河野喜映・小林耕一・冨永樹之・中田　英・西谷俊廣・宮井　香・村上吉正・依田亮一・渡辺清史

・中世研究プロジェクトチーム

宍戸信悟・鈴木庸一郎・服部実喜・宮坂淳一

・近世研究プロジェクトチーム

市川正史・木村吉行・永井　淳・桝渕規彰・柳川清彦

神奈川県における旧石器時代の遺構（その５）

－Ｌ３層以下－

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトチームでは、1994年以来、県内における旧石器時代遺跡の石器群について集成・分析を実施してきた。'94年から'99年までの６回は、「･･･石器群の諸問題」と題して、出土した主な石器の特徴、器種・石材組成・石器製作工程等の検討を中心として層位ごとに集成し、各時期における石器群の様相を捉えようとした。2001年度以降は、主に旧石器時代の遺構（住居状遺構、土坑、礫群、配石、炉跡、炭化物集中、デポなど）を層位ごとに集成し、５年目の今年度は、相模野基本層序におけるＬ３層以下の層位より検出された遺構を集成し、当該期の特徴を把握しようと試みた。集成の結果、当該期の遺構数は非常に少なく、遺構種別としては、礫群、配石、炭化物集中、土坑が集成された。これらのうち打木原遺跡から発見された土坑群は特に注目される遺構として捉えられよう。今回も例年どおり、報告者の見解を優先して集成を行い、各遺構ごとにその特徴を述べる。

なお、本稿では、前年度に集成したＢ２層の遺構のうち、前号において頁数の関係で掲載できなかった柏ヶ谷長ヲサ遺跡Ｂ２層の礫群について第５表として掲載した。

Ｌ３層以下出土の遺構について

a）礫　群

対象層位からは12遺跡15文化層から34基の礫群を集成した。層位別ではＬ３層では２遺跡２文化層から２基、Ｂ３層では９遺跡10文化層で25基、Ｂ４層では２遺跡２文化層から４基、出土層位に幅のある場合、Ｂ４～Ｌ５層では１遺跡１文化層で２基、Ｌ３～Ｂ４層では１遺跡１文化層から１基である。こうしてみるとＢ３層から出土した礫群の数が圧倒的に多い。礫群の規模は最も多いＢ３層出土礫群を対象とすると、長軸平均1.64m、短軸平均1.24m（長短軸規模の判明している12基対象）、構成礫数としては平均17点（礫数の判明している23基対象）である。最大規模は台山遺跡Ⅳ文化層１号礫群の4.2×3.4mの礫群である。最小で柏ヶ谷長ヲサ遺跡ⅩⅡ文化層礫群６で0.2×0.1mである。構成礫数は古淵Ｂ遺跡４文化層20号礫群の201点が最も多く、対して県営高座渋谷団地内遺跡や代官山遺跡で出土した礫群に構成礫２点の礫群がある。出土状態は概ね散漫ないし分散しているが、比較的構成礫数の多い礫群は集中ないし密な状況で出土している。礫の遺存状態は全てが完形礫の例が若干あるが、多くは完形礫と破損礫から構成され、その比率は礫群によって様々である。礫の多くは赤化しているものの、スス等の付着は少数である。使用石材はＢ２層で特徴的な凝灰岩系石材とは異なり、安山岩・砂岩・チャートなどの石材が用いられる傾向が窺えた。

b）配　石

本遺構は柏ヶ谷長ヲサ遺跡Ｂ３層下底部、第Ⅶ文化層から３基の配石に限られる。構成礫は１点ないし２点であり、これらは石器ブロックや複数の礫群と重複して出土しているので、礫群の構成礫なのか、石器製作に伴う台石なのか、あるいは、他の機能を持った配石として単独で認定すべき遺構なのかは意見の分かれ

るところである。ここでは報文どおり配石として扱うが、今後の事例増加を待って特徴を抽出することとなろう。

c）炭化物集中

橋本遺跡Ｌ３～Ｂ４層第Ⅵ文化層から１基のみ確認され、出土事例は非常に乏しい。2.5×2.0mの範囲に炭化物が集中し、報文では礫群と部分的に重複しているが、炭化物集中として単独で扱っている。

d）土　坑

打木原遺跡Ｂ３層から11基検出されている。規模は直径１m前後が５基、1.5m未満が６基、平面形は全て円形の土坑で、深さは1.65mが最も深く、不明な１基を除き１m以上の深さを持つ土坑である。掘り込みは概ね逆台形状に掘られ、底面で径50～60cm程となる非常に規格性に富んだ形状である。これらの土坑は陥穴状土坑として報告され、検出状況では若干の規則性が見いだされている。SK01～04・09のまとまりと、SK05～08のまとまりに捉えられ、等高線にほぼ直行する南北ライン上に並んで掘られているよう見える（第１図）。これらの規模、検出状況は愛鷹山麓の土坑群と共通性が認められるが、県内においては、今後の事例増加を待ちたい。

以上、Ｌ３層以下の遺構について概観したが、礫群以外の配石、炭化物集中、土坑は、その出土事例が非常に乏しい。しかし事例数が乏しい反面、その僅少さ故に非常に重要な遺構であり、今後の事例増加における基礎資料とすべきである。

また、礫群についてもより微視的な観察に基づいた分析も必要であり、他の時期との比較検討も今後必要であろう。

（大塚健一）

引用参考文献

金山喜昭・土井永好・武藤康弘　1984　「第Ⅴ章第６節第Ⅵ文化層」　『橋本遺跡　先土器時代編』　相模原市橋本遺跡調査会

堤　隆　1997　「第Ⅻ文化層」　『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』　柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団

麻生順司　1988　「第４節第Ⅳ文化層（Ｂ３中部）」　『台山遺跡　発掘調査報告書』　玉川文化財研究所

小池　聡・細井佳浩　1994　「第２節第Ⅱ文化層」　『上和田城山遺跡　第４次調査』　大和市上和田城山遺跡調査会

砂田佳弘・上田　薫　1986　「第Ⅴ章先土器時代の遺構と遺物」　『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告11　神奈川県立埋蔵文化財センター

松井　泉　1990　「第Ⅱ章第６節第４文化層の遺構と遺物」　『古淵Ｂ遺跡』　相模原市古淵Ｂ遺跡発掘調査団

小池　聡　1995　「第７節」「第８節」　『県営高座渋谷団地内遺跡』　県営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団

麻生順司・戸田哲也・相原俊夫・河合英夫・橋本真紀夫　1987　「第Ⅲ章第２～４節」　『藤沢市根下遺跡発掘調査報告書』　玉川文化財研究所

岡根唯巳　1996　「第Ⅳ章第１節３．第Ⅱ文化層（Ｂ４層下部～Ｂ５層上部）」　『吉岡遺跡群Ⅱ』　吉岡遺跡発掘調査団

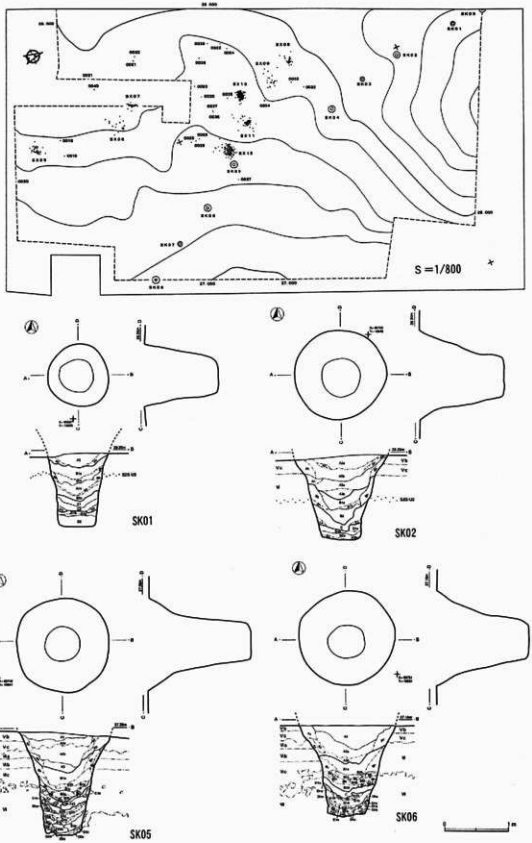
麻生順司・赤岡和重・戸田哲也　1997　「Ⅲ．検出された遺構と遺物」　『神奈川県藤沢市No48遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』　藤沢市No48遺跡発掘調査団

佐藤明生　2002　「旧石器時代の遺構と遺物（３）－姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の陥穴状土坑群－」　『打木原遺跡』　横須賀市教育委員会

佐藤明生　1990　「第Ⅳ章先土器時代の遺構と遺物」　『長井台地遺跡群』　横須賀市教育委員会

小池　聡　1997　「（６）第Ⅴ文化層」　『神明若宮地区内遺跡』　神明若宮地区内遺跡発掘調査団

鈴木忠司他　1996　「下原遺跡の陥穴状土坑とその周辺」　『下原遺跡Ⅱ』　静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書第72集



第１図　Ｌ３層～Ｂ３層の遺構（土坑：打木原遺跡Ｂ３層）

第1表　礫　群

遺跡No.	遺　跡　名	層位	文化層	遺　構　名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備　考（共伴遺物等）
55	横木遺跡	LJ~BS4	VI	礫群26	2.60	1.70	30 (27)	やや散漫	接合前（完形：6、破損24） 接合後（完形：8、破損19）赤化21	砂岩：28、チャート：（珪質）2	炭化物集中と部分的に重複か。 調査区（B4区）の全体に礫が分散する中の小礫群。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3II	XII	礫群1	1.50	1.50	19	分散	完形：3、破損：16、赤化：1		1号ブロック、礫群2、配石1・2と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3II	XII	礫群2	0.70	0.50	4	分散	完形：0、破損：4、赤化：なし		1号ブロック、礫群1、配石1・2と分布が至なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3II	XII	礫群3	1.20	0.80	9	分散	完形：4、破損：5、赤化：3		2号ブロック、礫群4・5・6、配石3と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3II	XII	礫群4	0.70	0.60	15	分散	完形：7、破損：8、赤化：1		2号ブロック、礫群3・5・6、配石3と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3II	XII	礫群5	2.50	2.00	28	集中	完形：10、破損：18、赤化：10		2号ブロック、礫群3・4・6、配石3と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3II	XII	礫群6	0.20	0.10	3	分散			2号ブロック、礫群3・4・5、配石3と分布が重なる。
84	台山	BB3en	IV	1号礫群	4.20	3.40	14	分散	完形：8、破損：6 赤化：11	砂岩：5、閃緑岩：3、安山岩：2、礫岩：1、ホルンフェルス：1、その他：2	
90	上和田城山（4次）	BB3en	II	第1号礫群			5 (1)	分散	破損：5、赤化：5		礫の石材種記述無し。
109	代官山	LJ3	VII	礫集中1～6			計46点	散漫	完形：34（3,074.66g）、破損：12（290.4g）		1地点の構成礫は10個前後に留まる。「大きな一群として把握されよう」との記載あり。
109	代官山	BB3I	IX	礫集中1			6		完形：3、破損：3		個し、礫の総点数は52点（約2.6kg）、内訳は完形：38点（2,189.26g）、破損：14点（329.3g）との記載あり。また、礫集中2～5は、大きく1地点としてまとまるとの記載もあり。
109	代官山	BB3I	IX	礫集中2			7		完形：5、破損：2		
109	代官山	BB3I	IX	礫集中3			2		完形：2、破損：0		
109	代官山	BB3I	IX	礫集中4			18		完形：16、破損：2		
109	代官山	BB3I	IX	礫集中5			2		完形：0、破損：2		
109	代官山	BB3I	IX	礫集中6			3		完形：2、破損：1		
109	代官山	BB3I	X	礫集中1					完形：3、破損：一		個し、礫の総点数は13点（約1kg）、内訳は完形：9点（895.3g）、破損：4点（113.7g）との記載あり。
109	代官山	BB3I	X	礫集中2					完形：1、破損：3		
157	古淵B遺跡	BB3m	4	21号礫群	1.20	0.90	8	比較的散漫	接合なし。 完形：3、破損：5 赤化：5、スス付着：5、タール付着：1	砂岩：4、チャート：3、安山岩：1	石器集中との重複はない。
157	古淵B遺跡	BB3m	4	26号礫群	0.90	0.50	4 (1or2)	密り	破損のみ。赤化：1	チャート：1	接合する3点はまとまって出土。
157	古淵B遺跡	BB3m	4	20号礫群	3.00	2.60	201 (200)	密	完形：99、赤化：160、スス付着：23、タール付着：6	チャート：138、安山岩20、砂岩：43	35号ユニットと重複。B3上面と中面で分離され可能性あり。 配石状の遺構も認められる。
185	県営高座渋谷団地内	L3uu	VI	第1号礫群	2.20	1.40	13	集中	破損：13、赤化：13		礫の石材種記述無し。
185	県営高座渋谷団地内	BB3u	VII	第1号礫群	3.60		2	散漫	破損：2、赤化：2		礫の石材種記述無し。
185	県営高座渋谷団地内	BB3u	VII	第2号礫群	0.50		2	散漫	破損：1（2）、赤化：2		礫の石材種記述無し。
283	横下	BB3I	II	1号礫群	1.40	0.80	18	比較的密	完形（ほぼ完形）：18。赤化：18、スス：14、タール：5。	安山岩：13、火砕岩：2、砂岩・チャート・礫岩：各1	平均長：8.8cm、平均幅：6.4cm、平均厚：4.9cm。総重量：7,679g、平均重量：427g。
283	横下	BB3u	II	2号礫群	－	－	3 (4)	散漫	完形（ほぼ完形）：3、破損：1。赤化：2、スス：1。	砂岩：2、礫岩・安山岩質凝灰岩：各1	平均長：13.0cm。平均幅：6.8cm、平均厚：5.1cm。総重量：5,116g、平均重量：1,279g。
283	横下	BB3mm	III	1号礫群	2.20	1.20	15 (11)	－	完形（ほぼ完形）：4、破損：11。赤化：6、スス：2。	火砕岩：3、砂岩・安山岩・安山岩質凝灰岩：各2、閃緑岩・その他：各1（いずれも接合後の点数）	平均長：8.2cm、平均幅：5.5cm、平均厚：3.2cm。総重量：3,810g、平均重量：532g。

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化期	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合礫数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 （共伴遺物等）
283	堤下	BB4a	Ⅳ	1号礫群	2.70	1.60	17 (14)	比較的密	完形（ほぼ完形）：9、破損：8。赤化：12。	閃緑岩：5、火砕岩：4、砂岩：3、ホルンフェルス：2（いずれも接合後）	平均長：10.0cm、平均幅：6.3cm、平均厚：4.0cm。総重量：9,050g、平均重量：330g。
345	吉岡	BB4l ～L5a	Ⅱ	第1号礫集中部	3.20	2.20	22点 (813.1g／平均：37g)	やや散漫	完形（ほぼ完形）：14、3/4・1/2：各1、1/4未満：7。風化が著しく、スズ等の黒色付着物は断定不能。	凝灰岩・安山岩：各6、結質頁岩：5、頁岩：2、凝灰質頁岩・火山礫凝灰岩・シルト岩：各1	少量の炭化物を伴う。完形（ほぼ完形）礫の平均重量は53.1g、平均長さ4.35cm。
345	吉岡	BB4l ～L5a	Ⅱ	第2号礫集中部	1.60	1.60	11点 (409.2g／平均：37.2g)	散漫	完形（ほぼ完形）：6、3/4・1/2・1/4：各1、1/4未満：2。焼成痕は断定不能。	安山岩・頁岩：各3、火山礫凝灰岩・砂岩：各2、凝灰岩：1	出土層位は第1号礫集中部より全体的に低位であり、時間的により古い可能性あり。完形（ほぼ完形）の平均重量：49.4g、平均長さ：3.97cm。
346	藤沢市No48	BB4	－	3基あり							B区より検出
348	神明若宮地区内	BB3m	Ⅴ	礫群	0.90		2	散漫	破損：2、赤化：2		礫の石材種記述無し。

第2表　配　石

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化期	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数	分布	礫の状態	石材組成	備考 （共伴遺物等）
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3Il	Ⅶ	配石1	0.2	0.2	1	単独	完形：1		1号ブロック、礫群1・2、配石2と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3Il	Ⅶ	配石2	1.3	0.2	2	分散	完形：1、破損：1		1号ブロック、礫群1・2、配石1と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3Il	Ⅶ	配石3	1.0	0.2	2	分散	完形：1、破損：1		2号ブロック、礫群3・4・5・6と分布が重なる。

第3表　炭化物集中

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化期	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	備考 （共伴遺物等）
55	領本遺跡	L3?～BB4	Ⅵ	炭化物片集中箇所	約2.5	約2.0	1箇所検出。礫群26と部分的に重複か。コナラ放射孔材？と樹種同定。

第4表　土　坑

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化期	遺構名	長軸	短軸	深さ	平面形態	断面形態	備考
347	打木原	BB3		土坑SK01	0.97	0.93	1.15	円形	逆台形	年代25,270±300
347	打木原	BB3		土坑SK02	1.42	1.39	1.35	円形	逆台形	
347	打木原	BB3		土坑SK03	1.00	0.98	1.10	円形	逆台形	年代30,780±230
347	打木原	BB3		土坑SK04	1.43	1.40	1.35	円形	逆台形	
347	打木原	BB3		土坑SK05	1.46	1.42	1.60	円形	逆台形	年代23,820±130
347	打木原	BB3		土坑SK06	1.48	1.46	1.45	円形	逆台形	
347	打木原	BB3		土坑SK07	1.04	0.95	1.20	円形	逆台形	底面やや丸い逆台形
347	打木原	BB3		土坑SK08	1.45	1.45	1.65	円形	逆台形	
347	打木原	BB3		土坑SK09	1.42	1.42	1.60	円形	逆台形	底面やや丸い逆台形、年代21,020±90
347	打木原	BB3		1号土坑	0.95	0.95	1.50	円形	逆台形	
347	打木原	BB3		2号土坑	0.86	0.62	－	－	－	

第5表　礫　群（補遺：ＢＢ２柏ヶ谷長ヲサ）

遺跡No.	遺跡名	地区層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合礫数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考（共伴遺物等）
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群１	3.10	2.00	23	集中	完形：3、破損20、赤化：21		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群２	1.60	0.80	18	集中	完形：2、破損：16、赤化：18		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群３	2.20	0.60	21	集中	完形：6、破損：15、赤化：19		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群４	2.00	0.90	17	集中	完形：7、破損：10、赤化：16		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群５	4.20	2.00	13	分散	完形：2、破損：11、赤化：13		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群６	4.60	2.80	54	集中	完形：12、破損：42、赤化：53		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群７	2.60	1.10	12	分散	完形：3、破損：9、赤化：12		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lau	Ⅵ	礫群８	2.80	1.60	18	分散	完形：0、破損：18、赤化：17		2号ブロックと重複、配石1と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群１ａ	3.60	2.40	315	集中	完形：54、破損：261、赤化：315		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群１ｂ	2.20	1.60	98	集中	完形：12、破損：86、赤化：98		1号ブロックと重複、配石1と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群２ａ	2.60	1.40	124	集中	完形：20、破損：104、赤化：124		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群２ｂ	2.20	1.40	21	集中	完形：8、破損：13、赤化：21		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群３	1.20	1.00	43	集中	完形：11、破損：32、赤化：43		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群４ａ	2.20	1.40	21	集中	完形：4、破損：17、赤化：21		1号ブロックと重複、配石3と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群４ｂ	1.60	1.40	102	集中	完形：16、破損：86、赤化：102		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群４ｃ	1.60	1.60	46	分散	完形：6、破損：38、赤化：46		1号ブロックと重複、配石2と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群５	1.60	1.20	40	集中	完形：4、破損：36、赤化：40		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群６	0.60	0.40	14	集中	完形：1、破損：13、赤化：14		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群７	1.00	0.80	18	分散	完形：2、破損：16、赤化：18		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群８	0.20	0.10	3	分散	完形：0、破損：3、赤化：3		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群９	1.20	0.80	6	分散	完形：1、破損：5、赤化：6		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群10	2.40	1.20	17	集中	完形：3、破損：14、赤化：17		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群11	1.40	0.20	6	分散	完形：3、破損：3、赤化：6		3号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群１	1.50	1.00	5	分散	完形：0、破損：5、赤化：5、スス付着：1		
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群２ａ	1.00	0.60	31	集中	完形：8、破損：23、赤化：31、スス付着：1		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群２ｂ	2.00	1.60	14	集中	完形：3、破損：11、赤化：14、スス付着：1		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群２ｃ	1.00	0.20	4	集中	完形：2、破損：2、赤化：4		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群３	4.80	2.00	44	集中	完形：5、破損：39、赤化：41、スス付着：1、タール付着：1		1号ブロックと重複、構成礫中に磨石1あり
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群４	0.40	0.30	6	集中	完形：0、破損：6、赤化：6		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群５	1.10	0.50	29	集中	完形：3、破損：26、赤化：29		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群６	1.30	0.90	28	分散	完形：1、破損：27、赤化：27、スス付着：1		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群７	1.50	0.90	89	密集	完形：5、破損：84、赤化：86		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群８	0.40	0.40	18	集中	完形：2、破損：16、赤化：7		1号ブロックと重複、配石1と重複、構成礫中に磨石1（2）あり
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群９	1.90	1.60	44	分散	完形：1、破損：43、赤化：44		1号ブロックと重複、配石2と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群10	1.60	1.00	6	分散	完形：0、破損：6、赤化：5		5号ブロックと重複

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考（共伴遺物等）
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群11	0.70	0.20	4	分散	完形：2、破損：2、赤化：4		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群12	1.20	0.70	6	分散	完形：1、破損：5、赤化：6		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群13	1.70	0.90	75	密集	完形：6、破損：69、赤化：75、スス付着：1（2）		7号ブロックと重複、配石3と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群14	2.50	1.50	38	集中	完形：5、破損：33、赤化：38		7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	Ⅶ	礫群15	0.80	0.80	16	集中	完形：2、破損：14、赤化：16	多孔質安産岩：4	7号ブロックと重複、配石4と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群1	1.00	0.60	6	分散	完形：0、破損：6、赤化：2		24号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群2	2.00	1.80	51	集中	完形：8、破損：43、赤化：51		1号ブロックと重複、配石3と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群3	2.60	1.10	20	分散	完形：4、破損：16、赤化：20		1号ブロックと重複、配石4と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群4	2.20	1.00	11	分散	完形：1、破損：10、赤化：11		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群5	2.40	0.50	7	分散	完形：2、破損：5、赤化：7		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群6	0.50	0.20	3	分散	完形：0、破損：3、赤化：3		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群7	3.00	2.00	122	集中	完形：7、破損：115、赤化：122		2号ブロックと重複、配石5と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群8	0.30	0.10	3	集中	完形：0、破損：3、赤化：3		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群9	2.30	1.30	50	集中	完形：1、破損：49、赤化：50		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群10	1.80	1.40	33	分散	完形：6、破損：26、赤化：33		3号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群11	1.50	0.90	29	集中	完形：7、破損：22、赤化：29		3号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群12a	1.70	1.00	20	分散	完形：4、破損：16、赤化：20		3・4号ブロックと重複、配石6と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群 12b	2.50	1.60	44	分散	完形：5、破損：39、赤化：44		3・4号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群12c	2.60	1.70	71	集中	完形：8、破損：63、赤化：71		3・4号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群13	0.90	0.90	18	集中	完形：2、破損：16、赤化：18		3号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群14	0.50	0.40	4	集中	完形：0、破損：4、赤化：4		号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群15	2.00	0.80	18	分散	完形：4、破損：14、赤化：18		7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群16	2.20	1.20	40	集中	完形：10、破損：30、赤化：40		7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群17	0.20	0.20	3	集中	完形：0、破損：3、赤化：3		7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群18	0.30	0.15	3	集中	完形：0、破損：3、赤化：3		4号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群19	2.30	2.40	17	分散	完形：2、破損：15、赤化：17		4・7号ブロックと重複、配石7と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群20	1.10	0.40	5	分散	完形：0、破損：5、赤化：5		7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群21	2.00	1.90	31	分散	完形：5、破損：26、赤化：31		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群22	1.90	1.50	24	分散	完形：3、破損：21、赤化：24		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群23	2.50	1.10	23	分散	完形：3、破損：20、赤化：23		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群24	1.50	0.60	10	集中	完形：0、破損：10、赤化：10		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群25	1.30	0.90	16	分散	完形：2、破損：14、赤化：16		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群26	2.50	0.90	11	分散	完形：3、破損：8、赤化：11		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群27	2.60	1.50	34	分散	完形：4、破損：30、赤化：34		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群28	3.00	0.90	22	分散	完形：2、破損：20、赤化：22		5号ブロックと重複、配石58と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群29	2.40	1.00	18	分散	完形：0、破損：18、赤化：18	安山岩：1	5号ブロックと重複、配石14と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群30	1.20	1.00	23	集中	完形：2、破損：21、赤化：23		5号ブロックと重複、配石9と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群31	2.30	1.00	19	分散	完形：4、破損：17、赤化：19	安山岩：1	5号ブロックと重複

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合礫数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考（共伴遺物等）
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群32	0.90	0.80	14	集中	完形：3、破損：11、赤化：13		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群33	2.80	2.00	34	分散	完形：6、破損：28、赤化：34		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群34	1.90	0.90	31	集中	完形：4、破損：27、赤化：30		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群35a	3.50	1.60	152	集中	完形：14、破損：138、赤化：152		5号ブロックと重複、配石11と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群35b	0.60	0.60	20	集中	完形：2、破損：18、赤化：20		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群35c	1.90	1.10	65	集中	完形：8、破損：57、赤化：65		5号ブロックと重複、配石10と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群35d	2.40	1.80	45	分散	完形：4、破損：41、赤化：45		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群36	2.10	1.30	11	分散	完形：4、破損：7、赤化：11		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群37	1.40	1.10	10	分散	完形：2、破損：8、赤化：10		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群38	1.40	1.10	17	集中	完形：4、破損：13、赤化：17		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群39	2.40	1.20	59	集中	完形：6、破損：53、赤化：59		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群40	3.40	2.60	140	集中	完形：6、破損：134、赤化：140		5号ブロックと重複、配石13・12と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群41	1.00	0.90	10	分散	完形：3、破損：7、赤化：10		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群42	3.05	1.90	37	分散	完形：10、破損：27、赤化：37		5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群43	0.70	0.70	6	分散	完形：2、破損：4、赤化：2		5号ブロックと重複、配石15と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群44	2.40	0.80	6	分散	完形：3、破損：3、赤化：6		5号ブロックと底複、配石16と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群45	0.40	0.20	10	集中	完形：3、破損：7、赤化：10		5・6号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群46	2.00	1.40	17	分散	完形：5、破損：12、赤化：17		5・6号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群47	1.75	0.80	10	分散	完形：1、破損：9、赤化：10		5・6号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群48	2.60	0.90	7	分散	完形：1、破損：6、赤化：7		7号ブロックと底複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群49	1.10	0.80	12	集中	完形：1、破損：11、赤化：12		7号ブロックと底複、配石17と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群50	0.30	0.10	3	集中	完形：1、破損：2、赤化：3		7号ブロックと底複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群51	4.10	1.50	14	分散	完形：5、破損：9、赤化：14		8号ブロックと底複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群52	2.70	1.60	38	集中	完形：7、破損：31、赤化：38		8号ブロックと重複、配石19と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群53	0.90	0.80	6	分散	完形：1、破損：5、赤化：6		8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群54	2.70	1.30	19	分散	完形：3、破損：16、赤化：19		8号ブロックと重複、配石21と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群55	1.10	0.50	5	分散	完形：3、破損：2、赤化：5		8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群56	2.30	1.20	15	分散	完形：1、破損：14、赤化：15		8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群57	0.80	0.30	12	集中	完形：5、破損：7、赤化：12		8号ブロックと底複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群58	1.90	0.70	11	分散	完形：2、破損：9、赤化：11		12号ブロックと底複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群59	3.10	1.30	16	分散	完形：10、破損：6、赤化：16		12号ブロックと底複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群60	1.80	1.20	9	分散	完形：2、破損：7、赤化：9		12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群61	2.10	1.60	45	分散	完形：8、破損：37、赤化：45		12号ブロックと重複、配石24・25と重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群62	1.10	0.30	4	分散	完形：2、破損：2、赤化：4		12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群63	2.80	2.10	59	集中	完形：8、破損：51、赤化：59		12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群64	1.10	1.00	14	分散	完形：5、破損：9、赤化：14		12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群65	0.40	0.30	3	分散	完形：1、破損：2、赤化：3		12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群66	0.70	0.30	10	集中	完形：3、破損：7、赤化：10		8号ブロックと底複
74	柏ヶ谷長ヶサ	BB2Lm	IX	礫群67	1.20	1.20	12	集中	完形：1、破損：11、赤化：12		8号ブロックと底複

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 / 接合資料数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考（共伴遺物等）
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群68	0.60	0.40	4	分散	完形：0、破損：4、赤化：4	多孔質安山岩：4	8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群69	1.70	0.90	7	分散	完形：0、破損：7、赤化：7		9・12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群70	3.10	2.00	16	集中	完形：1、破損：15、赤化：16		11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群71	6.00	3.00	34	分散	完形：4、破損：30、赤化：30		9・11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群72	0.50	0.30	3	分散	完形：1、破損：2、赤化：3		9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群73	0.90	0.50	5	分散	完形：1、破損：4、赤化：5		9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群74	1.90	0.40	12	分散	完形：1、破損：11、赤化：12		9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群75	3.50	2.70	86	集中	完形：13、破損：73、赤化：86		9号ブロックと重複、配石28と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群76	0.80	0.90	9	分散	完形：1、破損：8、赤化：9	多孔質安山岩：1	9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群77	1.70	0.90	9	分散	完形：1、破損：8、赤化：9		11号ブロックと重複、配石31が近接
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群78	0.60	0.20	5	集中	完形：0、破損：5、赤化：5	多孔質安山岩：1	11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群79	1.90	1.60	15	集中	完形：1、破損：14、赤化：14	多孔質安山岩：2	11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群80	0.60	0.50	26	密集	完形：12、破損：12、赤化：24		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群81	3.50	2.50	22	分散	完形：2、破損：20、赤化：21		10・11号ブロックと重複、配石63と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群82	4.10	2.90	64	集中	完形：13、破損：51、赤化：62		10号ブロックと重複、配石60と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群83	1.20	1.10	14	分散	完形：3、破損：11、赤化：14		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群84	1.90	1.20	16	分散	完形：0、破損：16、赤化：16		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群85	0.80	0.50	14	集中	完形：1、破損：13、赤化：14		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群86	1.30	0.80	12	集中	完形：3、破損：9、赤化：12		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群87	0.90	0.70	8	分散	完形：4、破損：4、赤化：8		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群88	0.30	0.10	3	集中	完形：0、破損：3、赤化：3		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群89	0.50	0.30	7	集中	完形：1、破損：6、赤化：7		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群90	2.00	1.20	12	分散	完形：7、破損：5、赤化：12		16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群91	2.20	1.30	17	分散	完形：6、破損：11、赤化：17	多孔質安山岩：3	16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群92	1.40	1.30	10	分散	完形：3、破損：7、赤化：10	多孔質安山岩：1	16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群93	0.70	0.30	4	分散	完形：0、破損：4、赤化：4		15・16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群94	1.90	0.60	12	分散	完形：3、破損：9、赤化：9		15・16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群95	2.20	1.10	36	集中	完形：8、破損：28、赤化：35		15号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群96	0.55	0.20	5	集中	完形：3、破損：2、赤化：5		14号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群97	1.60	0.80	9	分散	完形：1、破損：8、赤化：9		14号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群98	2.30	1.40	19	集中	完形：3、破損：16、赤化：19	多孔質安山岩：3	13号ブロックと重複、配石35と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群99	4.80	2.80	110	集中	完形：7、破損：103、赤化：110	多孔質安山岩：1	14号ブロックと重複、配石36と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群100	1.00	0.50	8	分散	完形：1、破損：7、赤化：8		14号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群101	2.00	1.20	12	分散	完形：1、破損：11、赤化：9		18号ブロックと重複、配石37に近接
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群102	2.80	1.10	8	分散	完形：3、破損：5、赤化：7		20号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群103	3.10	1.70	39	集中	完形：5、破損：34、赤化：39		20号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群104	1.30	1.40	18	集中	完形：5、破損：13、赤化：18		20号ブロックと重複、配石42と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群105	0.90	0.70	26	集中	完形：7、破損：19、赤化：25		20号ブロックと重複、配石43と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群106	2.00	1.00	17	分散	完形：7、破損：10、赤化：17		20号ブロックと重複

遺跡No.	遺跡名	種別 層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合礫数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考（共伴遺物等）
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群107	2.40	1.60	26	分散	完形：4、破損：22、赤化：26		20号ブロックと重複、配石4
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群108	0.90	0.50	9	集中	完形：1、破損：8、赤化：9		21号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群109	2.40	0.80	37	集中	完形：2、破損：35、赤化：37		21号ブロックと重複、配石46と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群110	1.80	1.10	33	集中	完形：5、破損：28、赤化：33		21号ブロックと重複、配石47と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群111	2.20	1.00	19	分散	完形：2、破損：17、赤化：19		21号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群112	1.00	0.80	12	集中	完形：2、破損：10、赤化：12		21号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群113a	1.55	0.70	20	集中	完形：1、破損：19、赤化：20		23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群113b	1.40	0.80	27	集中	完形：1、破損：26、赤化：27		23号ブロックと重複、配石48と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群113c	0.50	0.50	13	集中	完形：1、破損：12、赤化：13		23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群114	1.90	1.00	21	集中	完形：6、破損：15、赤化：21		23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群115	0.90	0.40	8	集中	完形：3、破損：5、赤化：8		23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群116	1.55	0.80	15	分散	完形：1、破損：14、赤化：15		23号ブロックと重複、配石49と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群117	0.40	0.30	6	集中	完形：0、破損：6、赤化：6		23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群118	3.55	1.10	21	分散	完形：6、破損：15、赤化：21		23号ブロックと重複、配石50と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群119	0.90	0.35	14	集中	完形：2、破損：12、赤化：14		23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群120	0.70	0.60	8	集中	完形：2、破損：6、赤化：8		23号ブロックと重複、配石52と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群121	0.50	0.45	22	密集	完形：3、破損：19、赤化：22		23号ブロックと重複、配石53と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群122	4.00	2.80	93	集中	完形：5、破損：88、赤化：93		23号ブロックと重複、配石54・55・56・57と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群123	0.60	0.20	4	集中	完形：0、破損：4、赤化：4		23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群124	1.00	0.40	10	密集	完形：1、破損：9、赤化は不明		22号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	Ⅸ	礫群125	1.90	1.30	27	分散	完形：4、破損：23、赤化は不明		22号ブロックと重複、配石59と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群1	2.60	1.20	8	分散	完形：1、破損：7、赤化：8		
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群2	1.00	0.20	4	分散	完形：1、破損：3、赤化：4		
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群3	1.40	0.40	8	分散	完形：4、破損：4、赤化：8		
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群4	1.60	0.70	17	集中	完形：1、破損：16、赤化：17		配石4と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群5	0.50	0.20	4	分散	完形：2、破損：2、赤化：4		
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群6	1.60	0.40	10	分散	完形：3、破損：7、赤化：10		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群7	1.45	0.70	10	分散	完形：4、破損：6、赤化：10		2号ブロックと重複、配石6と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群8	1.00	0.90	11	分散	完形：3、破損：8、赤化：11		2号ブロックと重複、配石7と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群9	0.95	0.35	5	分散	完形：1、破損：4、赤化：5		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群10	2.80	2.50	18	分散	完形：4、破損：14、赤化：18		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群11	2.30	1.90	12	分散	完形：0、破損：12、赤化：12		2号ブロックと重複、配石8に近接
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群12	1.30	1.20	7	分散	完形：2、破損：5、赤化：7		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群13	2.00	1.00	11	分散	完形：4、破損：7、赤化：11		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群14	1.30	0.40	6	分散	完形：2、破損：4、赤化：6		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群15	3.45	1.40	15	分散	完形：4、破損：11、赤化：15		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群16	0.80	0.55	4	分散	完形：2、破損：2、赤化：4		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Ll	X	礫群17	0.40	0.30	3	分散	完形：0、破損：3、赤化：3		1号ブロックと重複

神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅷ

－後期初頭期　称名寺式土器文化期の様相　その１－

－主要遺跡の集成・一括出土事例－

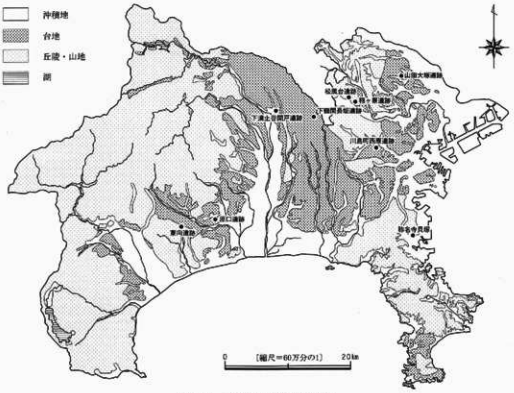
縄文時代研究プロジェクトチーム

Ⅰ．はじめに

今年度から後期初頭期・称名寺式土器文化期の様相をめぐる研究を開始した。該期を特徴づける称名寺式土器は言うまでもなく、横浜市金沢区称名寺貝塚の出土土器を基準にして1960年に設定された土器型式である（吉田格1960『横浜市称名寺貝塚』）。当初は発見例が少ないため存在を疑問視されたりもしたが、現在では関東一円に広く存在する後期初頭の土器という位置付けが定着し、数段階の変遷も認識されるに至っている。（研究史は横浜市埋蔵文化財センター1990『調査研究集録７』等に詳しく書かれている。）

今年度は該期研究の第一年目にあたる。次年度以降に予定している土器編年作業・文化要素研究の前提作業として、県内の基礎的資料の収集、データーシート・データーベースの作成を行った。その集成成果の全てを本稿に掲載することは紙面の関係上不可能であるため、称名寺式土器出土主要遺跡地名表及び参考文献を掲載すると共に、一括出土事例中で良好と思われるものを図示し、紹介することにした。（松田光太郎）

Ⅱ．一括出土事例



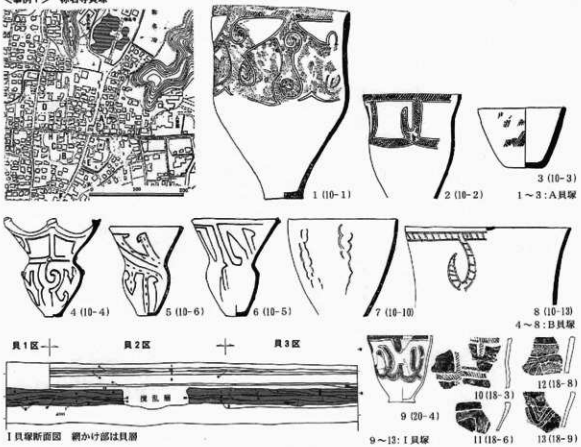
第１図　一括出土事例掲載遺跡

〈事例１〉　称名寺貝塚（第２図１～13）

横浜市金沢区称名寺境内一帯に所在する小貝塚群。標高約５ｍの砂丘上にあり、現在Ａ～Ｉ貝塚の９ヶ所の貝塚の存在が確認されている。Ａ貝塚は称名寺山門内に所在し、1932年に赤星直忠氏、1951年に日本考古学協会縄文部会（吉田格氏）が調査した地点、Ｂ貝塚はＡ貝塚の南西70～80ｍ付近に所在し、1951年に前出の縄文部会、1957年に武蔵野文化協会（吉田氏）が調査した地点、Ｃ貝塚はＢ貝塚の北西30ｍ付近に所在し、1957年に武蔵野文化協会（吉田氏）が調査した地点である。Ｄ貝塚は1963年に横浜市立大学（和島誠一氏）、1966年に武蔵野文化協会が調査した地点、Ｅ貝塚は薬王寺内に所在し1947年に赤星氏が調査した地点、Ｈ貝塚は1977年、Ｉ貝塚（称名寺参道）は1983年にそれぞれ横浜市埋蔵文化財調査委員会が調査した地点である。Ｆ貝塚は1956年に横浜市史編纂室が調査した中世の貝塚、Ｇ貝塚は1957年に調査された近世の貝塚である。

第２図１～８は1951・1957年の吉田氏発掘資料で、称名寺式土器の型式提唱の基準になった資料である。第２図１～３はＡ貝塚資料。報告書で称名寺式土器第一群土器、加曽利Ｅ式直後とされた土器である。１・２とも太い沈線でＪ字状文を描き、沈線間に縄文を施文している。同図４～８はＢ貝塚資料で、称名寺式土器第二群土器、堀之内式へ続くとされた土器である。４～６は縄文をもたず沈線でＪ字状文等を描いたもので、５は列点をもっている。本地点は堀之内１式土器も出土している。同図９～13はＩ貝塚資料。貝１・２区は貝層上部（ａ・ｂ層）で９・10を含む太沈線の土器が出土し、下部（ｃ-ｉ層）で加曽利Ｅ式第Ⅳ段階が出土した。貝３・４区は貝層上で列点をもつ土器（13）が出土。貝層上部（ａ-ｍ層）では11・12のような土器が主体をなし、下部（ｎ・ｏ層）は太沈線の土器と加曽利Ｅ式第Ⅳ段階が主体をなすようである。

（松田光太郎）



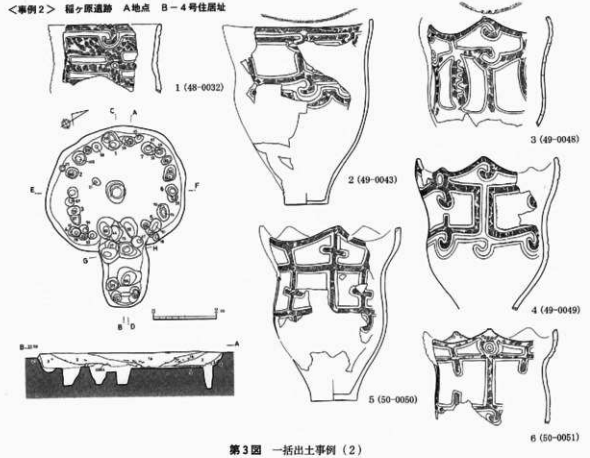
第２図　一括出土事例（１）

〈事例２〉稲ヶ原遺跡　Ａ地点　Ｂ－４号住居址（第３図）

稲ヶ原遺跡は横浜市緑区（現在青葉区）さつきが丘８の３番地外に所在する。この付近は、多摩丘陵の一部に含まれ、鶴見川の支流である恩田川・谷本川・早渕川により開析された丘陵地形を形成している。本遺跡は、恩田川・谷本川に挟まれ、小支谷により開析された、一段低位の台地の西辺部に位置している。小学校建設に伴う発掘調査で、縄文時代の竪穴住居址・土坑・炉穴・集石・配石遺構・ピットなどが検出されており、縄文時代中期末～後期初頭の遺構としては、竪穴住居址・土坑・集石遺構がある。

Ｂ－４号住居址は、調査区の南側に位置している。ローム層を掘り込んだ楕円形のプランを呈しており、床面には大型の礫が敷かれた敷石住居址である。本住居址の時期は、加曽利Ｅ式第Ⅳ段階であるが覆土の最上層から称名寺式の最も古い時期と見られる土器が多量に出土している。住居址出土土器として図示した６点は、すべて覆土最上層からの出土土器である。１は深鉢で口唇部に刻みが施される。沈線により長方形・円形区画を形成する。地文にはＬＲの縄文が施文されている。２は口唇部に縄文を施した深鉢である。平行する沈線によりＪ字状の文様や懸垂文等を描き、沈線間の帯状部にＬＲの縄文を充填している。３は５単位の波状口縁を有する深鉢である。口唇部には縄文が施され、波状口縁の波頭部には刻みを有する。沈線によりＪ字状の文様や懸垂文・枝錘文等が施され、ＬＲの縄文を充填している。４は大小４対の波状口縁を有する深鉢である。沈線によりＪ字状の文様や懸垂文等が描かれ、ＲＬの縄文を充填している。５は５単位の波状口縁を有する深鉢である。沈線区画を巡らし、Ｊ字状の文様等を施文し、ＬＲの縄文が充填される。６は５単位の波状口縁の深鉢で、波頭部に刻みや刺突文が施される。沈線によりＪ字状の文様や懸垂文等が描かれ、ＬＲの縄文を充填している。

（岡　稔）



第３図　一括出土事例（２）

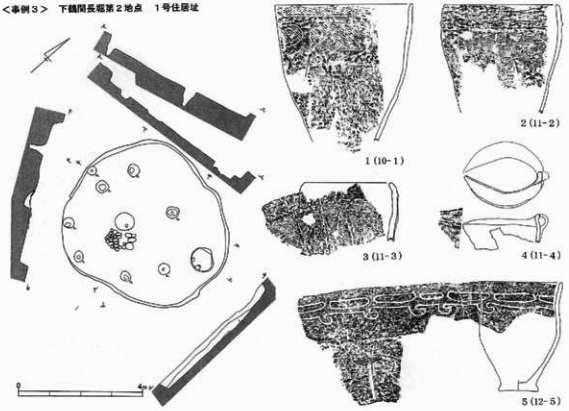
〈事例３〉 下鶴間長堀遺跡 第２地点 第１号住居址（第４図１～５）

下鶴間長堀遺跡は相模野台地の東側に位置し、台地東縁を流れる境川に向けて開口する長堀と呼称される奥行き2.5kmほどの支谷に接する痩せ尾根上に立地している。調査面積はごく小さく、竪穴住居址１軒、土坑１基が検出されたにとどまっている。

第１号住居址は富士黒土層下部で検出された不整楕円形の住居址である。８本の柱穴が円形にめぐり、出土遺物がこの範囲に集中することから、壁際に柱穴をめぐらす柄鏡形住居であったと想定されている。床面上には礫が配されているが、配石炉なのか、敬石の一部であるのか判然とはしない。

住居址出土土器としては図示した５点が報告されている。１は深鉢で、口縁直下に沈線をめぐらせ区画し、また沈線で楕円形区画を描いて、ともに区画内に縄文を施している。胴下半には、楕円形区画文の接点になる位置を頂点にあてる山形に沈線を描きその頂部にのみ縄文を施す。報告者は牛蛭式の要素を持つ加曽利Ｅ系の土器としている。２と３は口縁部に無文帯と断面三角の微隆起線を有する加曽利Ｅ系の深鉢である。３は口縁部の微隆起線から、胴部にむけて同様の微隆起線を垂下させ、一部微隆起線間を磨り消して無文化しているが、無文部の配置は規則的ではなく、微隆起線間が必ずしも磨り消されるわけではない。４は２・３同様の加曽利Ｅ系の鉢で、把手を有し、その対になる部分が注ぎ口状になる。口縁を内側に屈曲させ、無文帯を形成している。５は口縁部に楕円形の枠状区画を配し、さらにＪ字のモチーフを垂下させ、枠状区画内に縄文を充填した深鉢である。同じく沈線を使用した１の土器が、口縁部の楕円形区画内に縄文を充填するのに対し、枠状区画に縄文を施している点で異なり、また沈線は深くしっかりしている。報告者は中津式系の称名寺式土器としている。

（小川岳人）



第４図 一括出土事例（３）

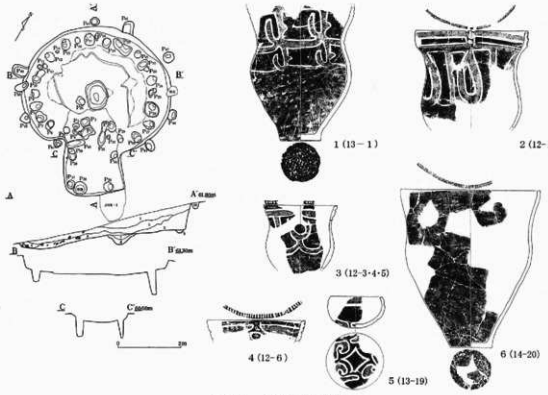
〈事例４〉 松風台遺跡　ＪＴ－３（第５図）

松風台遺跡は横浜市緑区（現在青葉区）松風台23－１番地外に所在する。遺跡の南約１kmを鶴見川の支流である恩田川が東流し、南西約0.7kmでは恩田川と、恩田川の支流である奈良川が合流している。恩田・奈良の両河川の合流点付近から北東へ入り込む谷と、東急田園都市線青葉台駅付近から北西に延びる谷によって挟まれるように北東～南西方向に延びる丘陵頂部から南東向き斜面にかけて遺跡は立地している。宅地造成に伴う発掘調査で、縄文時代の竪穴住居址・土坑・集石・屋外埋甕などが検出されている。該期の遺構としては、竪穴住居址１軒がある。

ＪＴ－３は遺跡中央部に位置するＣ区西側の南東向き斜面で見つかった。プランは4.8×3.8mの楕円形に近い主体部に幅1.75m、長さ1.6mの張出し部が接続する柄鏡形である。壁際と張出し部には石が置かれる、いわゆる柄鏡形の敷石住居である。張出し部の先端には埋甕が設置されていた。

住居址出土土器として６点を図示した。１は口縁部を欠く埋甕の深鉢である。体部上半には突起のあるＪ字状の文様を２段施し、上端の区画とＪ字状の文様の間には縄文帯、下位には沈線が施される。下位の沈線はＪ字の部分で開放している。２は口唇部に縄文が施された深鉢である。口縁部文様帯は長方形の区画文で、区画文間には縦位に２箇所の押圧が加えられる。胴部には結節文と懸垂文が交互に繰り返される。３は口唇部に刻みが施される深鉢である。胴部には懸垂文が施され玉抱文が見られる。４は口唇部に刻みを施し口縁部の区画文間に竹管による刺突が施される。５は小形の鉢で沈線によりＪ字状の文様が施される。６は粗製の深鉢で口唇部には縄文が施される。口縁部には縄文帯を巡らし、ここから縦に縄文を約５cm間隔で施文している。

（岡　稔）



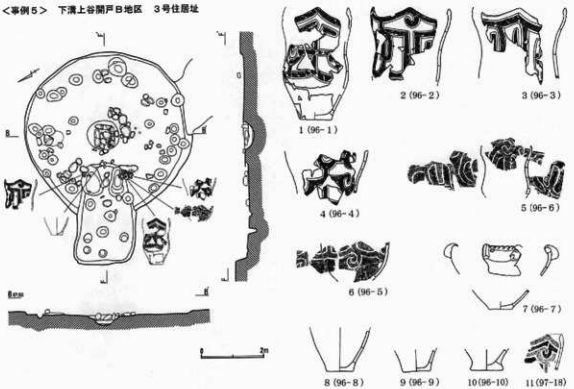
第５図　一括出土事例（４）

〈事例５〉 下溝上谷開戸遺跡　Ｂ地区　第３号住居址（第６図１～11）

下溝上谷開戸遺跡は相模野台地の西縁、田原面の段丘上に位置する。遺跡の直下では、鳩川が南東側にかけて大きく蛇行して南下し、鳩川に向けて張り出した舌状の地形を形成している。

Ｂ地区第３号住居址（以下第３号住居址）は上述した舌状の地形の基部で検出されている。柄鏡形を呈する住居址で、炉は石囲炉となり、床面上には部分的に敷石が施されていた。

出土土器のうち破片を含め73点が報告され、このうち11点を図示した。１～５は波状口縁を呈する深鉢である。沈線による区画内に縄文を充填した帯縄文で、文様モチーフを描く。１は口縁に沿って帯縄文を施すもので、文様はＪ字文を上下二段に配し、Ｊ字文は無文部で描出する。Ｊ字文は上段を波状口縁の波頂部に対応させ、下段は波底部に配する。またＪ字文に沿う帯縄文を縦横に連結させている。２は口縁に沿った帯縄文から直接Ｊ字文を垂下させる。文様は二段構成をとり、上段は波頂部にＪ字文、波底部には下段の文様と縦に繋ぐ帯縄文が施される。下段は、上段に比較して幅広にとられ、波底に対応した角張った縦長のＪ字文が配される。３は口縁直下が無文となり、文様の構成は一段となる。口縁に並行する帯縄文から縦長のＪ字文が波頂部から波底部に対応して配される。４も波状口縁に沿って帯縄文を施す。文様は二段で構成し、波頂部下に無文部でＪ字文を描出する。波底部には口縁部の帯縄文から円形の帯縄文を垂下させる。下段は波頂部に対応して帯縄文を十字に、波底部に対応して上段同様のＪ字文を配する。５は文様が不規則で、他のような二段構成をとらない。波頂部にＪ字文、波底部に円形文を配する。胴部には縦位に弧状の帯縄文を施す。６は深鉢の胴下半部で、帯縄文を二段に配するものと想定される。７は鉢形土器、８～10は深鉢の底部である。11は１同様の波状口縁深鉢の破片である。　（小川岳人）



第６図　一括出土事例（５）

〈事例６〉　山田大塚遺跡　21号住居址・27号土壙（第７図）

山田大塚遺跡は港北ニュータウン地域内の北端に位置し、下末吉台地西部に相当する台地上にある。遺跡の北に横浜市と川崎市の市境近くを流れる有間川により形成された沖積地を望む。同じ港北ニュータウン地域内に後期前葉を中心とする川和向原遺跡がある。

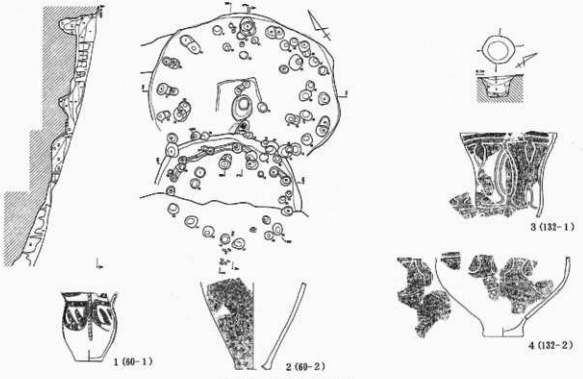
山田大塚遺跡で発見された縄文時代の遺構は住居址44軒、掘立柱建物８棟、炉穴164基、土壙85基を数え、このうち称名寺式期に帰属する遺構は住居址２軒、土壙15基である。21号住居址および27号土壙から該期の復元土器が複数個体出土している。

21号住居址は隣接する19号住居址（堀之内１式）に切られる。斜面に構築されているため半分ほどが流出しており、炉の発見もなかった。もともと炉がなかった可能性があるという。復元個体のほかに少量の土器片を除いて出土遺物はない。報告書に床面出土の復元図２点が掲載されている（第７図１・２）。１は頸部以下の完存するもので、垂下する縦位の隆帯により区画された中に上下二段の方形基調の区画文が施される。２は細かな単節ＬＲ縄文の施された粗製深鉢胴下半部である。

27号土壙は楕円形に近い平面形を呈し、壁に若干の傾きを有す貯蔵穴である。覆土中にかなり多量の土器片が含まれるが、いずれも称名寺式であるという。報告書には復元図２点、破片図８点が掲載されている（第７図３・４）。３は深鉢胴部下半を欠損するもので、強く深めに施され裏面に顕著に突出した沈線で、縦位の紡垂文や縦長のスペード文が配される。縄文は無節Ｒの充填手法をとる。４は胴部下半部のみをのこし、二段構成の文様帯の下半部分で、その下端も単一沈線によって連結されている。３と異なり沈線による裏側への突出はみとめられない。

（阿部友寿）

＜事例６＞　山田大塚遺跡　21号住居址・27号土壙



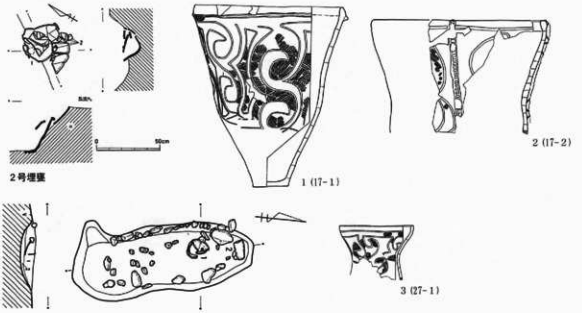
第７図　一括出土事例（６）

〈事例７〉 川島町西原遺跡　２号埋甕・配石遺構（第８図１～３）

川島町西原遺跡は横浜市保土ヶ谷区川島町1,505番地他、帷子川中流域右岸の台地上に所在する。市営住宅建て替えに伴う発掘調査で、縄文時代の土坑・集石・埋甕・焼土址・ピット・配石遺構などが検出されており、該期の遺構としては、土坑・埋甕・配石遺構がある。

２号埋甕は調査区北側で見つかったもので、広がりは約42×38cm、高さ35cmの規模をもつ。西半分は土坑が重複し、欠損している。大形の深鉢形土器１個体（１）が正位の状態で埋設されており、その中に深鉢形土器の大きめの破片（２）が口縁部を上にして入っていた。その他明らかに時期の異なる堀之内１式土器の小破片が１点入っていたらしい。埋甕の周りには明確な掘り込みは認められなかった。１・２は２号埋甕出土土器。１は深鉢形土器で、器体の約1/2が残存する。口径39.1cm、器高47.5cm、底径9.2cm。口縁部下に１条の隆帯を水平に巡らし、以下に２条の平行する沈線で上下に連なるＪ字状の文様を数個垂下させ、Ｊ字状文間にはＪ字状文に平行してＪ字状文にかみ合うようなＳ字状の文様を描き出している。そしてＳ字状文部分は縄文（ＬＲ、ＲＬ）を施文し、隣のＪ字状文部分は無文のまま、というように、２条の線で挟まれた帯状部が互い違いに縄文部と無文部となるよう縄文を充填し、文様のコントラストをつけている。２は口縁下に単沈線を水平に巡らし、刻み付隆線を垂下させている。垂下隆線で分割された器面には２条の沈線で緩に連なるＪ字状の文様を垂下させ、２条の沈線間の帯状部に縄文（ＬＲ）を充填している。

配石遺構は調査区南側で検出された。配石は約1.5×0.6mの範囲で広がっており、西側の配石は規則的に並ぶが、東側の配石は散在している。長軸線上やや北寄りに、深鉢形土器（３）がほぼ正位の状態で埋置され、更に北側隅で石棒の基部破片が出土している。配石下には掘り込みがあり、その規模は2.0×0.7m、深さは0.21mであった。３は胴部下半を欠損する深鉢形土器。口径19.2cm、器高14.5cm（現存）。口縁下に２条の沈線と充填縄文ＬＲによる縄文帯を水平に巡らし、以下に単沈線によるＪ字状文様を数個垂下させ、Ｊ字状文内には文様の走行方向に合わせるようにして、縄文ＬＲが充填施文されている。本資料では土器は１個体のみであるが、先の２号埋甕と同じ遺跡から出土しているので掲載した。　（松田光太郎）



第８図　一括出土事例（７）

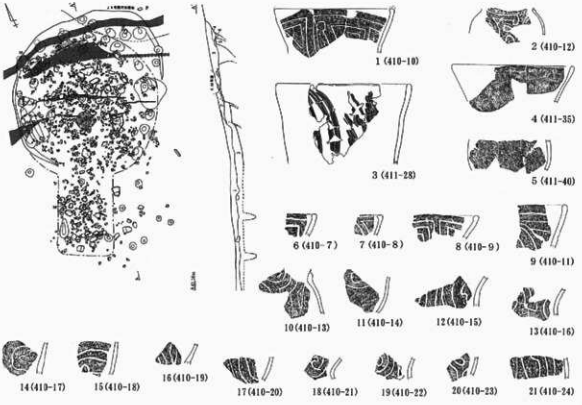
〈事例８〉 原口遺跡 Ｊ２号敷石住居址（第９図）

原口遺跡は北に金目川流域を望む大磯丘陵の北端に位置する。加曽利Ｂ式期の集落址として金目川をはさんだ北金目台地に王子ノ台遺跡、秦野盆地に曽根吹上遺跡、同じく秦野盆地で称名寺式期の住居址が発見された東向遺跡がある。

原口遺跡では縄文時代中期末～後期初頭を中心とした遺構が発見され、縄文時代の竪穴住居址68軒中１軒、敷石住居址９軒中２軒、掘設土器33基中２基が称名寺式期に帰属する。該期の復元土器を複数個体出土する遺構としてＪ１号敷石住居址、Ｊ２号敷石住居址がある。Ｊ１号敷石住居址で出土した復元個体には、縄文帯による渦巻文をもつもの（復元図２個体）と列点を配した沈線帯でＪ字状文を描くもの（復元図４個体）が、床面から浮いた状態で一緒に出土している。そのため一括性が乏しいと判断し今回の集成からはずした。

Ｊ２号敷石住居址からは早期中葉から後期の土器411点が出土し、うち称名寺式が17.3％を占める。本遺構から出土した土器として、報告書に復元図４点、破片図15点が掲載されている（第９図１～21）。１は、緩い波状口縁をなし、波頂部口唇に上方から円形刺突が施される。縄文帯でＪ字状文のモチーフを描く。２は、頸部に屈曲をもつ鉢形土器と思われ、胴部にやはり縄文帯によるＪ字状文もしくは渦巻文が施される。３は櫛歯状文、４は単節ＲＬ縄文、５は無節Ｌ縄文が施された粗製土器である。６～21は縄文帯でＪ字状文等のモチーフが描かれる。５割程が中期末から後期の縄文や櫛歯状文をもつ粗製土器であること、縄文帯によるＪ字状文をモチーフとした大型破片が目立つことから、本住居はいわゆる称名寺１式期に帰属するとされる。住居は地割れにより床面に多くの段差が生じている。（阿部友寿）

〈事例８〉 原口遺跡 Ｊ２号敷石住居址



第９図 一括出土事例（８）

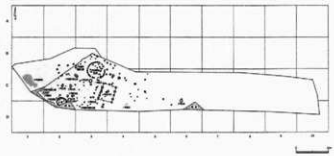
〈事例９〉　東向遺跡　３号屋外埋設土器（第10図）

東向遺跡は、足柄上郡中井町に所在する遺跡で、中村川水系藤沢川の右岸に展開する丘陵上に立地している。遺跡の立地している丘陵は大磯丘陵北西部にあたり、遺跡立地面は標高140m程の緩斜面となっている。第一東海自動車道改築工事に伴う発掘調査が実施され、中期末～後期初頭期を主体とする集落址であることが明らかになった。該期の遺構は、住居址２軒、配石遺構１基、焼土址１基、土坑２基、屋外埋設土器３基が検出されているが、このうち、該期の深鉢２個体が併置された３号屋外埋設土器を事例として取り上げた。

３号屋外埋設土器は居住域と目される区域の南東端に占地するもので、正位で埋設された深鉢２個体が接した状態で検出されたものである。土器を埋設するための掘り込みは検出されていないが、本来は掘り方を有していたものと推察されている。検出時の状態は深鉢２個体が併置された様相を呈しているが、報告書では、第10図に掲載した２の土器を埋設する際に１の土器を破壊しているため、新旧２基の切り合いとされている。従って、本事例は、一括出土事例というよりも重複事例として捉えた方が良いだろう。

埋設されていた土器は、いずれも口縁部と底部を欠損する深鉢で、底部は埋設時に意図的に打ち欠かれたものと推測されている。第10図１は先に埋設されていたとされる個体である。胴部中位に緩やかな括れを有し、口縁部にむかってやや窄まりをみせる弧状のプロポーションをとるもので、注口土器の可能性があると指摘されている。文様は縦位基調の沈線のみで描出されている。懸垂文のモチーフは丁字・逆丁字・クランク状等を基調とするが、間隙に施された弧状の側線が重複施文されており、やや入り組んだ様相を呈している。２は後に埋設されたとされる個体で、胴部中位に緩やかな括れを有し、口縁部にむかって直線的にひらくプロポーションを呈している。文様は縦位基調の沈線のみで描出されている。幾分崩れた逆丁字状懸垂文が胴部上位から下位まで貫かれたかたちで配されており、モチーフの下端はすべて開放されている。各々のモチーフが重複せず、独立して配されており、１にみられたような入り組んだ様相は認められない。（井辺一憲）

＜事例９＞　東向遺跡　３号屋外埋設土器



1（41-1）

2（41-2）

第10図　一括出土事例（９）

神奈川県内　後期初頭土器出土主要遺跡地名表

(1)この表は、神奈川県内における縄文時代後期初頭の主要な遺跡をまとめたものである。掲載にあたっては、当該期の遺構（住居址・土坑・埋設土器など）が発見された遺跡の他、遺物包含層などから土器の出土が報告されている遺跡を対象とした。なお、以下の場合は都合によりデータから除外している。①遺跡台帳や遺跡地図で後期初頭土器の出土が記載されているのみの遺跡。②県史・市区町村史、年報・概要集などで後期初頭土器の出土が僅じられているが、まとまった出土量が見込まれない遺跡。③正確な位置や内容が把握できない遺跡。

(2)この表は、土器編年の基礎資料を集成するためにまとめたものであり、時期細分などについては次年度以降明らかにする予定である。

(3)作成にあたっては分担して集成し、データベース化した。なお、表の編集は天野が担当した。

No.	遺跡名	所在地	文献No
横浜市青葉区			
1	受地だいやま遺跡	奈良町270他	56
2	岡野池遺跡	荏田町	127
横浜市旭区			
3	小池遺跡	上白根町	46
横浜市泉区			
4	中村宮ノ谷遺跡	岡津町字宮ノ谷2598他	87
横浜市神奈川区			
5	日向根遺跡	菅田町	6
横浜市金沢区			
6	金沢文庫遺跡	金沢町142他	62
7	称名寺貝塚	金沢町213	47
8	室ノ木遺跡	六浦町室ノ木77-3-4	11
横浜市港南区			
9	港南台（榎戸第１遺跡）	日野町榎戸	14
横浜市港北区			
10	公団篠原団地内貝塚	篠原町72他	63
11	市営菅田住宅地内遺跡	小机町325他	64
12	篠原大原遺跡	篠原町72-2他	212
13	鳥屋の上遺跡	新吉田町	128
14	新羽第９遺跡	新羽34550他	7
15	師岡打越遺跡	師岡町265他	74
16	山田大塚遺跡	東山田町2015他	75
横浜市戸塚区			
17	上倉田遺跡第Ⅱ遺跡	上倉田	35
18	細田遺跡	汲沢字細田	28
19	長尾台遺跡	長尾台町	23
横浜市緑区			
20	池辺第４遺跡	池辺町734他	12
横浜市都筑区			
21	上の山遺跡	大熊町892他	88
22	大熊仲町遺跡	仲町台3丁目16	179
23	折本第13遺跡（折本見塚）	折本町1170他	8
24	折本第16遺跡（鍛冶山遺跡）	折本町2030他	7
25	折本西原遺跡	折本町	24
26	川和向原遺跡	川和台25	111
27	北川貝塚南遺跡	早渕3丁目	128
28	華蔵台南遺跡	荏田南1丁目20	97
29	小丸遺跡	大丸11	160
30	三の丸遺跡	川和町2047他	43
31	花見山遺跡	花見山15～35	112
32	原出口遺跡	川和台33	111
33	水窪遺跡	中川町1529他	52
34	荻根不動原遺跡	茶	27
横浜市保土ヶ谷区			
35	帷子峯遺跡	峰沢町358-1他	29-48
36	川島町西原遺跡	川島町1,505他	70
37	常盤台遺跡	常盤台横浜国立大学構内	36
38	仏向遺跡	仏向町1352他	89
39	南原遺跡	川島町973他	197-198
横浜市南区			
40	稲荷山貝塚	山谷56他	199
41	横浜市道２号線№４試掘遺跡	南太田３丁目320-1	25
42	横浜市道２号線№６-１遺跡	南太田４丁目	30
横浜市緑区			
43	稲ヶ原遺跡A地点	さつきが丘8の3番地外	90
44	大熊第５遺跡	大熊町924他	9
45	大熊第４遺跡	大熊町907他	10
46	宿根南遺跡	東本郷6丁目1193-1他	161
47	長津田遺跡群住撰遺跡	長津田町字住撰	118
48	長津田遺跡群宮之前遺跡	長津田町字宮ノ前	162

No.	遺跡名	所在地	文献No
49	長津田遺跡群宮之前南遺跡	長津田町字宮ノ前	145
50	恵之谷大谷遺跡	三保町西之谷337-1他	65
51	修見堂遺跡	佐江戸町876他	129
52	東耕地遺跡	東本郷町1035他	57
53	松風台遺跡	松風台23-1番地外	76
川崎市麻生区			
54	岡上№４遺跡第２地点	岡上字栗畑745他	191
55	黒川地区遺跡群№10遺跡	〃	130
56	黒川地区遺跡群宮添遺跡	黒川92他	130
57	弥巻遺跡	高石3-25他	13
川崎市中原区			
58	井田中原遺跡Ｂ地点	井田1485-1	207
川崎市高津区			
59	新作小高台遺跡	新作字池ノ谷	44
60	新作八幡台遺跡	新作1323他	3
61	薬師院裏遺跡	新作3-1282	119
川崎市多摩区			
62	下原遺跡	長尾7-12	180-193
63	西菅遺跡第３地点	菅仙谷2-5他	15
川崎市宮前区			
64	菅生水沢遺跡	菅生1-1他	37
横須賀市			
65	上吉井北遺跡	吉井字上吉井67-1他	131
66	上吉井南遺跡	吉井字上吉井117他	131
67	田戸遺跡	田戸台90-4	101
68	三足谷遺跡	池田町1-35-1他	131
69	吉井城山遺跡	吉井字下吉井735他	163
平塚市			
70	王子ノ台遺跡		82
71	大久保遺跡		102
72	片岡遺跡	片岡字宮ノ前1250番地他	66
73	上吉沢市場地区遺跡群Ａ地区	上吉沢市場1530-1他	181
74	上ノ入Ａ遺跡	岡崎	19
75	相模岡崎城跡	岡崎字城山5416番地他	49
76	真田・北金目遺跡群15Ｄ区	北金目字入谷戸1523外	268
77	真田・北金目遺跡群６区	北金目字大久保	209
78	真田大原遺跡	真田521－1他	77
79	山王久保遺跡	岡崎字山王久保3652	78
80	高間原遺跡	高間原947番1号他	4
81	根岸Ｂ遺跡	万田鳴子谷戸402番外地	164
82	原口遺跡	上吉沢1617番地外	200
83	日向岡遺跡	日向岡2丁目9-1	59
84	万田遺跡	万田331－3番地先	180-201
85	水尻遺跡	北金目字水尻1085番地外	132
86	御屋遺跡	上吉沢字向井屋	91
鎌倉市			
87	関谷鳥ノ神西遺跡	関谷字鳥ノ神1524番1他	53
藤沢市			
88	西部208地点遺跡	大庭字丸山5909番	31
89	西部209地点遺跡	大庭字二番構5686他	83
90	遠藤貝塚（西部217地点）		98
91	西部225地点遺跡	大庭字羽根沢5119-1他	84
92	善行遺跡	善行1－6－1他	103
93	代官山遺跡	長後1894他	58
94	西富貝塚（藤沢市№46遺跡）	西富字光勝467他	210
95	藤沢市№322遺跡	用田字御手洗水738他	165
96	藤沢市№431遺跡	白旗3-2580-2他	182
97	南鍛冶山遺跡	石川205番地	113
98	用田鳥居前遺跡	用田655他	202
小田原市			
99	御組長屋遺跡	南町1丁目	194

No.	遺跡名	所在地	文献No.
100	久野一本松遺跡	久野1282他	203
101	久野丘陵	久野1267	54
102	久野諏訪ノ原清掃工場建設予定地遺跡	久野諏訪ノ原3768	32
103	森上遺跡第Ⅰ地点	久野字森上1654番地7他	146
茅ヶ崎市			
104	臼久保遺跡	芹沢字臼久保4222他	166
105	遠藤貝塚（西部217地点）	堤79－4	98
106	芹沢配水池関連遺跡群大島仲ノ谷遺跡	堤3573他	133
逗子市			
107	池子遺跡群No.1-A地点	池子	167
108	池子遺跡群No.1-A東地点	池子	168
109	池子遺跡群No.1-B地点	池子	104
110	池子遺跡群No.1-C地点	池子	120
111	池子遺跡群No.6地点	池子	134
112	池子遺跡群No.7地点東地区	池子	134
113	桜山うつき野遺跡	桜山8丁目2038他	213
相模原市			
114	相原八幡前遺跡	相原4-176-1他	205
115	東原遺跡	当麻1358番地他	92
116	勝坂遺跡	磯部字勝坂1667-1他	33·34·104·121
117	上中丸遺跡	下溝字上中丸406他	106
118	相模原市No.76遺跡	古淵4	169
119	塩田遺跡	田名字下塩田	21
120	下中丸遺跡（A地区）	下溝字下中丸661他	93
121	下溝上谷開戸遺跡	下溝1266-1	147
122	下溝鳩川遺跡	下溝字溝開戸737-1他	107
123	新戸遺跡	新戸2607番2他	67
124	当麻遺跡	田名ヶ谷1045他	17
125	当麻亀ノ甲・西原遺跡	当麻490-2ほか	205
126	田名花ヶ谷戸遺跡	田名花ヶ谷戸10456-1他	99
127	四ッ谷、作ノ口遺跡	上溝4392他	68
三浦市			
128	油壺遺跡	三崎町小網代字戸張1201-1他	214
129	間口東洞穴	南下浦町松輪	135
秦野市			
130	今泉峰遺跡	秦野市今泉877番地	148
131	今泉峰台遺跡	今泉953番地	148
132	今泉向原遺跡	今泉822番地	148
133	寺山金目原遺跡	寺山字金目原11番	183
134	小南遺跡（No.28）	南矢名字小南上2155-1他	136
135	下大槻峯遺跡（No.30）	下大槻664他	137
136	砂田台遺跡	南矢名165-1	71
137	曽屋吹上遺跡	曽谷字浄屋682番	216
138	秦野市No.143地点	渋沢町486-1他	72
139	秦野市No.19寺山遺跡	寺山485番地外	122
140	波多野城址		85
141	平沢同明遺跡	平沢1168番地	6·38
厚木市			
142	御屋敷添遺跡	愛甲275－5外	149·152
143	恩名沖原遺跡	恩名字沖原1582－3他	184
144	下荻野山中遺跡	下荻野字山中249-5番地外	151
145	子ノ神遺跡	戸室字子ノ神	152
146	東谷戸遺跡	上荻野430番地他	108
大和市			
147	相ノ原遺跡第Ⅴ地点（No.207遺跡）	つきみ野3-28-2	79·114·136
148	下鶴間甲一号遺跡	下鶴間甲一号100-1他	86
149	下鶴間浅間社遺跡	つきみ野8丁目14番地	26
150	下鶴間長堀遺跡	下鶴間2839-1	100
151	台山遺跡	下鶴間乙三号2047-9	69
152	目黒川東岸遺跡	つきみ野3丁目	50
153	大和市No.2地点遺跡	下鶴間2563	39
伊勢原市			
154	池端・椿山遺跡	池端242他	214
155	伊勢原上粕屋団地内遺跡	上粕屋369－1外	123
156	粕上原遺跡	東大竹字粕上原946－1他	170
157	上粕屋・上尾崎遺跡（No.10）	上粕屋字上尾崎656他	171
158	上粕屋・川上遺跡（No.5）	上粕屋字川上161他	153
159	上粕屋・〆引北遺跡（No.11）	上粕屋字北〆引907他	171
160	神成松遺跡	上粕屋字神成松2825-1他	115

No.	遺跡名	所在地	文献No.
161	三ノ宮・下谷戸遺跡（No.14）	三ノ宮字下谷戸1100他	185
162	下北原遺跡	日向字下北原	20
163	咳止橋遺跡	上粕屋字咳止橋	154
164	田中・万代遺跡	田中字万代431-1他	195
165	坪ノ内・宮ノ前遺跡（No.17）	坪ノ内字宮ノ前87他	186
166	長竹遺跡	西富岡982－5外	94
167	No.160遺跡	西富岡11・73～80	187
168	日向南新田遺跡	日向字南新田469他	60
海老名市			
169	上浜田遺跡	大谷字上打越他	22
170	望地遺跡	望地1丁目4-2番地他	155·172
座間市			
171	上栗原D遺跡	栗原3029-1番地	40
172	鈴鹿神社遺跡		2
173	中原・加知久保遺跡	栗原4274番地他	51
174	山ノ上遺跡		73
南足柄市			
175	塚田遺跡		173
綾瀬市			
176	早川天神森遺跡	早川字天神森655-5他	45
177	宮久保遺跡	早川字新堀淵2031番地他	61
178	吉岡遺跡群 A地点	吉岡字蟹ヶ谷858他	139
179	吉岡遺跡群 B地点	吉岡字蟹ヶ谷887他	139
大磯町			
180	石神台遺跡		95
181	大磯小学校遺跡	東小磯3番地	16
182	城山遺跡	西小磯	41·55
中井町			
183	東向遺跡（No.33）	境字東向1620-1他	156
184	松本大久保台遺跡	松本字大久保台	174
大井町			
185	矢頭遺跡（No.35）	柳字下矢頭396-1他	140
山北町			
186	尾崎遺跡	神尾田	18
愛川町			
187	臼ケ谷遺跡	半原字臼ケ谷3831番地2	215
188	半原屈中原遺跡	半原5371-1他	188
189	半原向原遺跡	5434他	196
清川村			
190	煤ケ谷原遺跡	煤ケ谷2251番4他	80
191	宮ケ瀬遺跡群馬場（No.3）遺跡	宮が瀬字馬場1447他	124
192	宮ヶ瀬遺跡群上原（No.13）遺跡	宮ヶ瀬字大和台900他	141
193	宮ヶ瀬遺跡群上村（No.1）遺跡	宮ヶ瀬字上村66他	81
194	宮ヶ瀬遺跡群表の屋敷（No.8）遺跡	宮ヶ瀬字馬場1370他	142
195	宮ヶ瀬遺跡群北原（No.9）遺跡	宮ヶ瀬字北原1159他	109
196	宮ヶ瀬遺跡群北原（No.11）遺跡	宮ヶ瀬字北原1080他	109
197	宮ヶ瀬遺跡群北原（No.10・11北）遺跡	宮ヶ瀬字北原1078他	157
198	宮ヶ瀬遺跡群久保ノ坂（No.4）遺跡	宮ヶ瀬字馬場1280他	158
199	宮ヶ瀬遺跡群馬場（No.6）遺跡	宮ヶ瀬字馬場1330他	116·175
200	宮ヶ瀬遺跡群馬場（No.7）遺跡	宮ヶ瀬字馬場1380他	143
201	宮ヶ瀬遺跡群南（No.2）遺跡	宮ヶ瀬字馬場1500他	125
城山町			
202	風間遺跡	川尻字風間5294他	216
203	川尻遺跡※	川尻字谷ヶ原792-2他	96·175·189
204	川尻石器時代遺跡	川尻小字谷ヶ原769-1	190
205	中村遺跡	向原2丁目1225-1他	126
津久井町			
206	青根上野田遺跡	青根字上野田1770他	110
207	青野原バイパス関連遺跡群 明日庭遺跡	青野原字明日庭3150他	117
208	青野原バイパス関連遺跡群 大地開戸遺跡	青野原字大地開戸3284他	117
209	青山開戸遺跡	青山3179-3	144
210	県営三ヶ木団地内遺跡		177
211	道志導水路関連遺跡青根引山遺跡	青根字上野1729-7他	178
212	道志導水路関連遺跡青根馬渡No.2遺跡	青根字馬渡1676-1他	178
213	道志導水路関連遺跡青根馬渡No.3遺跡	青根字馬渡1698-1他	178
214	道志導水路関連遺跡青根馬渡No.5遺跡	青根字馬渡1632-2他	178
相模湖町			
215	寸嵐一号遺跡	寸嵐字寸沢嵐980-1他	42
216	寸嵐二号遺跡	寸嵐字寸沢嵐871-1	159

文献目録（文献№は表中文献№と一致）

1 1960 吉田格『横浜市称名寺貝塚』
2 1966 寺村光晴『蟹ケ澤 鈴鹿遺跡－座間における1962・64年の考古学的調査－』神奈川県座間町文化財調査報告 第二集 座間町文化財保護委員会
3 1967 伊東秀吉ほか『川崎市末長遺跡発掘調査報告』川崎市教育委員会
4 1996 秋田かな子「東海大学校地内遺跡調査団報告」6 東海大学校地内遺跡調査団
5 1969 杉山博久ほか「神奈川県秦野市平沢同明遺跡の調査」『古代』第52号
6 1971 井上義弘「横浜市金沢区富岡町長昌寺前横穴群発掘調査報告、横浜市神奈川区菅町日向根遺跡発掘調査報告」『昭和46年度 横浜市埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）』横浜市埋蔵文化財調査委員会
7 1971 伊藤郭ほか「早淵川南岸地域における埋蔵文化財の予備調査」『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文化財調査報告（Ⅰ）』横浜市埋蔵文化財調査委員会
8 1971 坂上克弘ほか「早淵川北岸地域および周辺地域における埋蔵文化財の予備調査」『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文 化財調査報告Ⅱ』横浜市埋蔵文化財調査委員会
9 1971 坂上克弘ほか「早淵川北岸地域および周辺地域における埋蔵文化財の予備調査」『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文化財調査報告Ⅱ』横浜市埋蔵文化財調査委員会
10 1971 伊藤郭ほか「早淵川南岸地域における埋蔵文化財の予備調査」『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文化財調査報告（Ⅰ）』横浜市埋蔵文化財調査委員会
11 1973 赤星直忠ほか『横浜市室ノ木遺跡』横須賀考古学会
12 1973 坂本彰ほか『東方第7遺跡・東方第9遺跡・池辺第4遺跡・荏田第10遺跡』港北ニュータウン地域内文化財調査報告 Ⅳ 港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
13 1975 伊東秀吉ほか「川崎市多摩区高石字弦巻遺跡発掘調査報告」川崎市文化財調査集録 第10集 川崎市教育委員会
14 1976 川上久夫ほか『港南台横浜市港南台土地区画整理事業に伴う調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 9 神奈川県教育委員会
15 1976 持田春吉ほか『西菅遺跡第三地点発掘調査報告』日本住宅公団西菅地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査 日本住宅公団首都圏宅地開発本部
16 1976 鈴木一男『大磯小学校遺跡』大磯町文化財発掘調査報告書 第1集 大磯町教育委員会
17 1977 白石浩之ほか『当麻遺跡・上依知遺跡 一般国道129号線改良工事にともなう調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 12 神奈川県教育委員会
18 1977 岡本孝之ほか『尾崎遺跡 酒匂川総合開発事業にともなう調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 13 神奈川県教育委員会
19 1978 小島弘義ほか『上ノ入A遺跡発掘調査報告』平塚市博物館資料 №10 平塚市博物館
20 1978 鈴木保彦ほか『下北原遺跡 伊勢原市下北原所在の縄文時代配石遺構の調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 14 神奈川県教育委員会
21 1979 青木豊ほか『下塩田遺跡』下塩田遺跡調査団
22 1979 國平健三ほか『上浜田遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告 15 神奈川県教育委員会
23 1980 平子順一ほか『昭和55年度 長尾台遺跡調査報告書』文化財シリーズ 55－2 横浜市教育委員会
24 1980 石井寛ほか『折本西原遺跡第2次・3次調査 横浜市都市計画道路新横浜元石川線 折本地区埋蔵文化財発掘調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
25 1980 岡田威夫ほか『横浜市道高速2号線埋蔵文化財試掘報告書』横浜市道高速2号線埋蔵文化財試掘調査団
26 1980 伊東秀吉ほか『大和市文化財調査報告書』第4集 大和市教育委員会
27 1981 須山幸雄ほか『葛根不動原遺跡発掘調査報告』市立都田西小学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 横浜市埋蔵文化財調査委員会
28 1981 白石浩之ほか『細田遺跡 県立汲沢高等学校建設にともなう調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 23 神奈川県教育委員会
29 1981 佐々木藤雄ほか『帷子峯遺跡 横浜新道三ツ沢ジャンクション建設予定地内遺跡第1次発掘調査報告書』横浜新道三ツ沢ジャンクション遺跡試掘調査団／横浜新道三ツ沢ジャンクション遺跡調査会
30 1981 岡田威夫ほか『横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書 №6遺跡－Ⅰ 1980年度』横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査団
31 1981 寺田兼方ほか『西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書（1977～1980）』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
32 1981 山内昭二「小田原市久野諏訪ノ原清掃工場建設予定地遺跡発掘調査報告書』小田原市文化財調査報告書 第11集 小田原市教育委員会
33 1981 江藤昭ほか『勝坂遺跡範囲確認緊急調査報告書』勝坂遺跡第21次発掘調査団
34 1981 青木豊ほか『勝坂遺跡』相模原市教育委員会
35 1982 高杉博章ほか『横浜市上倉田遺跡』高杉博章／明治学院大学上倉田遺跡調査団
36 1982 岡本勇『常盤台遺跡 横浜国立大学構内における埋蔵文化財発掘調査の概報』横浜国立大学
37 1982 竹石健二ほか「川崎市高津区菅生水沢遺跡発掘調査報告書 川崎市中央卸売市場北部市場建設に伴う調査』竹石健二／日本大学文理学部史学研究室
38 1982 杉山博久ほか『秦野市同明遺跡』秦野市教育委員会
39 1982 相田薫ほか『大和市文化財調査報告書』第10集 大和市教育委員会
40 1982 金子皓彦ほか『上栗原D遺跡調査報告書』座間市文化財調査報告書 第8集 座間市教育委員会
41 1982 鈴木一男『城山・北ノ端 中堰・坊地 大磯町における沖積段丘上の遺跡発掘調査報告書』大磯町文化財調査報告書 第23集 大磯町教育委員会
42 1982 田中悟道『寸嵐一号遺跡調査報告書』相模湖町教育委員会
43 1983 倉沢和子ほか『三の丸遺跡発掘調査報告書』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 Ⅵ 横浜市埋蔵文化財調査委員会
44 1983 増子章二ほか『新作小高台遺跡発掘調査報告書 本編・論考編』川崎市教育委員会
45 1983 岡本孝之ほか『早川天神森遺跡 都市計画道路早川本蓼川線建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 2 神奈川県立埋蔵文化財センター
46 1984 國平健三『小池遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 7 神奈川県立埋蔵文化財センター
47 1984 岡本勇ほか『称名寺Ⅰ貝塚発掘調査報告』称名寺貝塚発掘調査団／横浜市埋蔵文化財調査委員会
48 1984 佐々木藤雄ほか『帷子峯遺跡 横浜新道三ツ沢ジャンクション建設予定地区遺跡発掘調査報告書』横浜新道三ツ沢ジャンクション遺跡調査団／同調査会
49 1984 中村康二郎ほか『相模岡崎城跡 遺跡詳細分布確認調査概要報告書』平塚市教育委員会
50 1984 村澤正弘『大和市文化財調査報告書』第16集 大和市教育委員会
51 1984 金子皓彦・浅野寛『中原・加知久保遺跡発掘調査報告書』座間市文化財調査報告書 第10集 座間市教育委員会／中原・加知久保遺跡調査会
52 1985 石井寛ほか『水窪遺跡 茅ケ崎町遺跡群』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 Ⅶ 港北ニュータウン埋蔵文化財調査団／横浜市埋蔵文化財調査委員会
53 1985 永井正憲『関谷鳥ノ神西遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
54 1985 田尾誠敏ほか『久野丘陵詳細分布調査報告書』小田原市文化財調査報告書 第17集 小田原市教育委員会
55 1985 鈴木一男『城山遺跡Ⅱ』大磯町文化財調査報告書 第26集 大磯町教育委員会
56 1986 重久淳一ほか「№11地点 受地だいやま遺跡」『奈良地区遺跡群Ⅰ発掘調査報告』奈良地区遺跡調査団

57 1986 山本暉久ほか『東耕地遺跡 県立みどり養護学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 14 神奈川県立埋蔵文化財センター
58 1986 上田薫ほか『代官山遺跡 県立長後高等学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 11 神奈川県立埋蔵文化財センター
59 1987 青地俊郎ほか『日向岡遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ 5 平塚市教育委員会
60 1987 服部実喜ほか『日向南新田遺跡 神奈川能力開発センター建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 16 神奈川県立埋蔵文化財センター
61 1987 長岡文紀「宮久保遺跡Ⅰ 県立綾瀬西高等学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 15 神奈川県立埋蔵文化財センター
62 1988 山本暉久ほか「金沢文庫遺跡 県立金沢文庫新築予定地内遺跡（国指定史跡「称名寺境内」）の調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 19 神奈川県立埋蔵文化財センター
63 1988 中村若枝『公団篠原団地内貝塚資料 横浜市港北区』中村若枝
64 1988 橋本昌幸「市営菅田住宅地内遺跡発掘調査報告 市営菅田住宅建替に伴う埋蔵文化財調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
65 1988 林原利明ほか「西之谷大谷遺跡 東洋英和女学院横浜校地造成にかかる発掘調査概要報告書』相武考古学研究所
66 1988 青地俊郎『昭和61年度発掘調査 高林寺遺跡ほか8ヶ所』平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書 1 平塚市教育委員会
67 1988 御堂島正ほか『新戸遺跡 県立新磯高校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 17 神奈川県立埋蔵文化財センター
68 1988 江藤昭ほか『四ッ谷、作ノ口遺跡』相模原市四ッ谷、作ノ口遺跡調査団
69 1988 戸田哲也ほか『台山遺跡発掘調査報告書』台山遺跡発掘調査団
70 1989 橋本昌幸「川島町西原遺跡発掘調査報告 市営西原住宅建替に伴う埋蔵文化財調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
71 1989 宍戸信悟ほか『砂田台遺跡Ⅰ 県立秦野精華園建替えに伴う調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 20 神奈川県立埋蔵文化財センター
72 1989 江藤昭『秦野市No.143地点』神奈川県秦野市No.143遺跡調査団
73 1989 大上周三「山ノ上遺跡Ⅰ」 神奈川県文化財調査報告書 第48集 神奈川県教育庁
74 1990 戸田哲也ほか『師岡打越遺跡発掘調査報告書 横浜市港北区』（仮称）大倉山マンション建設用地内遺跡発掘調査団／玉川文化財研究所
75 1990 石井寛ほか『山田大塚遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XI 横浜市埋蔵文化財センター
76 1990 渡辺務『横浜市緑区 松風台遺跡』日本窯業史研究所
77 1990 秋田かな子『真田大原遺跡』東海大学校地内遺跡調査団
78 1990 青地俊郎「山王久保遺跡 岡崎76号線道路建設に伴う発掘調査』平塚市埋蔵文化財シリーズ 17 平塚市
79 1990 西田泰民ほか『月見野遺跡群相ノ原遺跡』大和市文化財調査報告書 第38集 大和市教育委員会
80 1990 近藤英夫『煤ケ谷原遺跡』煤ケ谷原遺跡発掘調査団
81 1990 鈴木次郎ほか『宮ケ瀬遺跡群Ⅰ 上村遺跡・半原向原遺跡 宮ケ瀬ダム建設に伴う発掘調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 21 神奈川県立埋蔵文化財センター
82 1991 秋田かな子「王子ノ台遺跡」 東海大学校地内遺跡調査団報告 2 東海大学校地内遺跡調査団
83 1991 寺田兼方ほか「西部209地点遺跡」『西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
84 1991 寺田兼方ほか「西部225地点遺跡」『西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
85 1991 石丸熙「波多野城址発掘調査報告書 第一次調査から第七次調査までの記録』秦野の文化財 第27集 秦野市教育委員会
86 1991 高杉博章『下鶴間甲一号遺跡』下鶴間甲一号遺跡調査団
87 1992 呉地英夫ほか『中村宮ノ谷遺跡発掘調査報告書 横浜市泉区』中村宮ノ谷遺跡発掘調査団／相模鉄道（株）
88 1992 坂上克弘ほか『上の山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XII 横浜市埋蔵文化財センター
89 1992 岡本勇ほか『仏向遺跡 横浜市保土ケ谷区所在の縄文時代遺跡』（財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
90 1992 平子順一ほか『稲ヶ原遺跡A地点 発掘調査報告－横浜市さつきが丘小学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告－』財団法人横浜ふるさと歴史財団
91 1992 長岡文紀『向原遺跡Ⅱ（3次） 県企業庁平塚配水池建設に伴う平塚市上吉沢所在遺跡の調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 25 神奈川県立埋蔵文化財センター ※
92 1992 三ツ橋勝『神奈川県相模原市東原遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
93 1992 岡本勇ほか『神奈川県相模原市下中丸遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
94 1992 高杉博章ほか『神奈川県伊勢原市 長竹遺跡 一般県道上粕屋厚木線交通安全施設等整備工事にともなう調査』上粕屋厚木線発掘調査団
95 1992 鈴木一男『石神台』大磯町教育委員会
96 1992 御堂島正ほか『川尻遺跡 県道相模原津久井線川尻バイパス建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 23 神奈川県立埋蔵文化財センター
97 1993 石井寛『牛ケ谷遺跡・華蔵台南遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XIV （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
98 1993 寺田兼方ほか『遠藤貝塚（西部217地点）』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
99 1993 滝澤亮ほか『田名塩田原地区遺跡群 田名花ヶ谷戸遺跡』田名塩田原地区埋蔵文化財調査団
100 1993 相田薫ほか『下鶴間長堀遺跡第2地点』大和市文化財調査報告書 第57集 大和市教育委員会
101 1994 野内秀明「田戸遺跡 海上自衛隊2号宿舎建設に伴う事前調査』横須賀市埋蔵文化財調査報告書 第4集 横須賀市教育委員会
102 1994 田尾誠敏「大久保遺跡」「東海大学校地内遺跡調査団報告』4 東海大学校地内遺跡調査団
103 1994 戸田哲也ほか『沓行遺跡発掘調査報告書』沓行遺跡調査団
104 1994 山本暉久ほか『池子遺跡群Ⅰ No.2地点・No.1－B地点 池子米軍家族住宅建設に伴う調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 27 神奈川県立埋蔵文化財センター
105 1994 土井永好『勝坂遺跡の調査～その回顧と展望～』相模原市教育委員会
106 1994 岡本勇ほか『神奈川県相模原市上中丸遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
107 1994 戸田哲也ほか『下溝鳩川遺跡発掘調査報告書』下溝鳩川遺跡調査団
108 1994 迫和幸ほか『神奈川県厚木市東谷戸遺跡発掘調査報告書』上荻野東部土地区画整理事業区域内遺跡発掘調査団
109 1994 市川正史ほか『宮ケ瀬遺跡群Ⅳ 北原（No.9）遺跡（2）、北原（No.11）遺跡 宮ケ瀬ダム建設に伴う発掘調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 21 神奈川県立埋蔵文化財センター
110 1994 河野喜映ほか「青根上野田遺跡 国道413号線青根バイパス搬入路建設に伴う調査』かながわ考古学財団調査報告 2 （財）かながわ考古学財団
111 1995 石井寛『川和向原遺跡 原出口遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XV （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
112 1995 坂本彰ほか『花見山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XV （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
113 1995 小林謙一ほか『南鍛冶山遺跡発掘調査報告書』藤沢市教育委員会
114 1995 滝澤亮ほか「月見野遺跡群相ノ原遺跡第Ⅴ地点」『大和市文化財調査報告書』第61集 大和市教育委員会
115 1995 小林義典ほか『神奈川県伊勢原市 神成松遺跡発掘調査報告書』神成松遺跡発掘調査団

116 1995 鈴木次郎ほか「宮ケ瀬遺跡群Ⅴ　馬場（№６）遺跡　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査」かながわ考古学財団調査報告　4　(財)かながわ考古学財団
117 1995 井澤純ほか「明日庭遺跡・大地開戸遺跡」「青野原バイパス関連遺跡　国道413号線青野原バイパス建設に伴う調査」かながわ考古学財団調査報告　5　(財)かながわ考古学財団
118 1996 井澤純ほか『長津田遺跡群Ⅱ　住撰遺跡　長津田地区特定土地区画整理事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　12　(財)かながわ考古学財団
119 1996 碓井三子ほか「川崎市高津区 薬師院裏遺跡 発掘調査報告書」薬師院裏遺跡発掘調査団
120 1996 桝渕規彰ほか「池子遺跡群Ⅲ №１－Ｃ地点（１）　池子米軍家族住宅建設にともなう調査」かながわ考古学財団調査報告　11　(財)かながわ考古学財団
121 1996 吉田寿ほか『勝坂遺跡第47次調査』相模原市市道磯部30号ほか１道路改良事業地内遺跡調査団
122 1996 後藤喜八郎『秦野市№19寺山遺跡発掘調査報告書』№19寺山遺跡発掘調査団
123 1996 高杉博章ほか「神奈川県伊勢原市　伊勢原上粕屋団地内遺跡」伊勢原上粕屋団地内遺跡調査団
124 1996 冨永樹之『宮ケ瀬遺跡群Ⅷ 馬場（№３）遺跡　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　※　(財)かながわ考古学財団
125 1996 近野正幸ほか『宮ケ瀬遺跡群Ⅷ 南（№２）遺跡・馬場（№５）遺跡　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　10　(財)かながわ考古学財団
126 1996 吉田浩明ほか「神奈川県城山町　中村遺跡発掘調査報告書」城山町№６遺跡発掘調査団
127 1997 田村良照ほか『横浜市観福寺北遺跡群関耕地遺跡発掘調査報告書』観福寺北遺跡発掘調査団
128 1997 鈴木重信ほか『権屋の上遺跡・西谷戸の上遺跡・北川貝塚南遺跡　第三京浜道路（改築）新港北インターチェンジ（仮称）埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
129 1997 小宮恒雄「能見堂遺跡」港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告22 (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
130 1997 碓井三子ほか「宮添遺跡・№10遺跡（縄文編）」『川崎市麻生区 黒川地区遺跡群報告書』Ⅶ　黒川地区遺跡調査団
131 1997 玉口時雄ほか『吉井・池田地区遺跡群Ⅰ　吉井池田土地区画整理事業に伴う調査報告書　三足谷遺跡・青池遺跡・上吉井北遺跡・上吉井南遺跡・西谷遺跡・№33地点』吉井・池田地区埋蔵文化財発掘調査団
132 1997 田尾誠敏「水尻遺跡」東海大学校地内遺跡調査団
133 1997 阿部友寿ほか「芹沢配水池関連遺跡群 行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木坂遺跡　芹沢配水池送水管埋設に伴う発掘調査」かながわ考古学財団調査報告　28　(財)かながわ考古学財団
134 1997 山本暉久ほか『池子遺跡群Ⅳ №６地点・№７地点東地区・№７地点西地区・№15地点・№16地点・№17地点・№18地点　池子米軍家族住宅建設にともなう調査』かながわ考古学財団調査報告　26　(財)かながわ考古学財団
135 1997 川上久夫／野内秀明／蜷持輝久／木募慶明『神奈川県三浦市松輪　間口東洞穴遺跡－急傾斜防災工事にともなう緊急調査－』松輪間口東海蝕洞穴遺跡調査団
136 1997 村上吉正ほか『小南遺跡（№28）・東北久保・鳥居松遺跡（№29）　第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告　1　秦野市内』かながわ考古学財団調査報告　23　(財)かながわ考古学財団
137 1997 大上周三ほか『下大槻峯遺跡（№30）Ⅰ　第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告２　秦野市内』かながわ考古学財団調査報告　24　(財)かながわ考古学財団
138 1997 村澤正弘ほか「相ノ原遺跡第Ｖ地点第４次調査（大和市№207遺跡）　大和市文化財調査報告書　第65集　大和市教育委員会
139 1997 砂田佳弘ほか「吉岡遺跡群Ⅲ 旧石器時代２ Ｂ２・Ｌ２層の石器文化・縄文時代１ 早期～後期　綾瀬浄水場建設にともなう発掘調査」かながわ考古学財団調査報告　20　(財)かながわ考古学財団
140 1997 西川修一ほか『宮畑（№34）遺跡・矢頭（№35）遺跡・大久保（№36）遺跡　第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告　3　大井町内』かながわ考古学財団調査報告　25　(財)かながわ考古学財団
141 1997 鈴木次郎ほか『宮ケ瀬遺跡群Ⅻ　上原（№13）遺跡　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　18　(財)かながわ考古学財団
142 1997 近野正幸ほか『宮ケ瀬遺跡群ⅩⅢ 第２分冊 縄文時代終末～弥生時代・縄文時代・付編　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　19　(財)かながわ考古学財団
143 1997 市川正史ほか「宮ケ瀬遺跡群Ⅺ 馬場（№７）遺跡　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査」かながわ考古学財団調査報告　17　(財)かながわ考古学財団
144 1997 服部実喜ほか『青山開戸遺跡　宮ケ瀬ダム・津久井導水路管理用道路建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　29　(財)かながわ考古学財団
145 1998 伊丹徹ほか「長津田遺跡群Ⅳ　宮之前遺跡　長津田地区特定土地区画整理事業に伴う発掘調査」かながわ考古学財団調査報告　37　(財)かながわ考古学財団
146 1998 小林義典『神奈川県小田原市　森上遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ地点発掘調査報告書』小田原市№114遺跡発掘調査団
147 1998 滝澤亮ほか『下溝上谷開戸遺跡』相模原市下溝上谷開戸
148 1998 増田精一『今泉遺跡　秦野市今泉台特定土地区画整理事業に伴う今泉地区遺跡群発掘調査報告書』今泉地区遺跡群発掘調査団
149 1998 相原俊夫ほか『神奈川県厚木市　御屋敷添遺跡第１地点発掘調査報告書』愛甲御屋敷添遺跡発掘調査団
150 1998 西川修一ほか『御屋敷添遺跡第３地点（№１）・第４地点（№２）・第５地点（№44）・高森・一ノ崎遺跡（№37）､高森・窪谷遺跡（№３）　第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告７ 厚木・伊勢原市内』かながわ考古学財団調査報告　33　(財)かながわ考古学財団
151 1998 香村紘一「下荻野山中遺跡　神奈川県厚木市一般国道412号本厚木・上荻野バイパス事業に伴う発掘調査報告書」Ⅸ　国道412号線遺跡発掘調査団
152 1998 山田不二郎ほか「子ノ神（Ⅳ）厚木市戸室所在子ノ神遺跡の調査」厚木市教育委員会
153 1998 宍戸信悟ほか『東富岡・杉戸遺跡（№38）・東富岡・北三間遺跡（№４）・上粕屋・川上遺跡（№５・６）・上粕屋・三本松遺跡（№７）・上粕屋・川上西遺跡（№８）　第一東海自動車道（東名高速道路）厚木～大井松田間拡幅工事に伴う調査８ 伊勢原市内』かながわ考古学財団調査報告　34　(財)かながわ考古学財団
154 1998 高杉博章『神奈川県伊勢原市　咳止橋遺跡県道63号（相模原大磯線）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』伊勢原市№128遺跡調査団
155 1998 伊東秀吉／碓井三子／長澤邦夫／相川薫／笹浪真理子／小林克利／守屋照代『神奈川県海老名市　望地遺跡－第４次調査－　国分尼寺北方遺跡－第12次調査－発掘報告書』望地遺跡発掘調査団／国分尼寺北方遺跡調査団／海老名市遺跡調査会
156 1998 村上吉正ほか『東向遺跡（№33）　第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告５　中井町内』かながわ考古学財団調査報告　31　(財)かながわ考古学財団
157 1998 市川正史ほか「宮ケ瀬遺跡群ⅩⅤ 北原（№10・11北）遺跡　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査」かながわ考古学財団調査報告　41　(財)かながわ考古学財団
158 1998 恩田勇ほか『宮ケ瀬遺跡群ⅩⅥ 久保ノ坂（№４）遺跡　宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　42　(財)かながわ考古学財団
159 1998 吉田浩明ほか「寸嵐二号遺跡発掘調査報告書」相模湖町№６遺跡発掘調査団
160 1999 石井寛「小丸遺跡」港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告　25　(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
161 1999 中山豊ほか『宿根南遺跡発掘調査報告書』宿根南遺跡発掘調査団
162 1999 伊丹徹ほか『長津田遺跡群Ⅴ 宮之前遺跡　長津田地区特定土地区画整理事業に伴なう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告　58　(財)かながわ考古学財団
163 1999 野内秀明ほか『吉井城山神奈川県指定史跡「吉井貝塚を中心とした遺跡」史跡整備事業に伴う確認調査の記録』横須賀市埋蔵文化財調査報告書　第34集　横須賀市教育委員会

164 1999 後藤喜八郎『平塚市No86根岸B遺跡発掘調査報告書』平塚市No86根岸B遺跡発掘調査団

165 1999 中村哲也『藤沢市No322遺跡発掘調査報告書』藤沢市No322遺跡発掘調査団

166 1999 松田光太郎ほか『臼久保遺跡　芹沢配水池建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 60 (財)かながわ考古学財団

167 1999 山本暉久ほか『池子遺跡群Ⅸ No1－A地点　池子米軍家族住宅建設にともなう調査』第二分冊　かながわ考古学財団調査報告 46 (財)かながわ考古学財団

168 1999 山本暉久ほか『池子遺跡群Ⅸ No1－A東地点・No1－A南地点　池子米軍家族住宅建設にともなう調査』第一分冊　かながわ考古学財団調査報告 45 (財)かながわ考古学財団

169 1999 境雅仁『相模原市No76遺跡』相模原市遺跡調査会調査報告 1 相模原市遺跡調査会

170 1999 林原利明ほか『神奈川県伊勢原市粕上原遺跡発掘調査報告書』粕上原土地区画整理事業区域内遺跡埋蔵文化財発掘調査団

171 1999 宍戸信悟ほか『上粕屋・上尾崎遺跡（No10）・上粕屋・〆引北遺跡（No11）・上粕屋〆引西遺跡（No12東）　第一東海自動車道（東名高速道路）厚木～大井松田間拡幅工事に伴う調査報告14　伊勢原市内』かながわ考古学財団調査報告 56 (財)かながわ考古学財団

172 1999 碓井三子ほか『海老名市望地遺跡－第6次調査－発掘調査報告書』望地遺跡発掘調査団

173 1999 南足柄市郷土資料館『南足柄の縄紋時代－塚田遺跡を中心に－』郷土資料館調査報告書　第9集　南足柄市郷土資料館

174 1999 高杉博章『神奈川県中井町松本大久保台遺跡』松本大久保台遺跡調査団

175 1999 鈴木次郎ほか『宮ケ瀬遺跡群XⅦ　馬場（No6）遺跡（2）・北原（No9）（3）　宮ケ瀬ダム建設にともなう調査』かながわ考古学財団調査報告 51 (財)かながわ考古学財団

176 1999 吉田浩明ほか『神奈川県城山町川尻遺跡（城山町No1遺跡）発掘調査報告書』城山町No1遺跡発掘調査団

177 1999 北平朗久ほか『県営三ケ木団地内遺跡発掘調査報告書』県営三ケ木団地内遺跡発掘調査団

178 1999 平野裕久ほか『道志導水路関連遺跡　青根馬渡No1・2・3・4・5遺跡・青根引山遺跡　宮ヶ瀬ダム関連事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 59 (財)かながわ考古学財団

179 2000 坂上克弘ほか『大熊仲町遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 26 (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

180 2000 浜田晋介ほか『下原遺跡　縄文時代晩期､弥生時代後期､古墳時代前期の集落址の調査』川崎市市民ミュージアム

181 2000 高杉博章ほか『神奈川県平塚市上吉沢市場地区遺跡群発掘調査報告』平塚市※

182 2000 寺田兼方ほか「藤沢市No431遺跡」『藤沢市文化財調査報告書』第35集　藤沢市教育委員会

183 2000 霧出俊浩『秦野の文化財』第36集

184 2000 迫和幸ほか『神奈川県厚木市恩名沖原遺跡発掘調査報告書』恩名沖原遺跡発掘調査団

185 2000 宍戸信悟ほか『三ノ宮・下谷戸遺跡（No14）Ⅱ　第一東海自動車道厚木・大井松田間拡幅工事に伴う調査報告 17 伊勢原市内』かながわ考古学財団調査報告 76 (財)かながわ考古学財団

186 2000 宍戸信悟ほか『坪ノ内・宮ノ前遺跡（No16・17）　第一東海自動車道厚木・大井松田間拡幅工事に伴う調査報告 18 伊勢原市内』かながわ考古学財団調査報告 77 (財)かながわ考古学財団

187 2000 後藤喜八郎『伊勢原市No160遺跡発掘調査報告書 県道63号（相模原大磯線）道路改良工事に伴う事前調査』伊勢原市No160遺跡発掘調査団

188 2000 三瓶裕司ほか『半原屈中原遺跡　都市計画公園事業 あいかわ公園整備工事に伴う調査報告』かながわ考古学財団調査報告 95 (財)かながわ考古学財団

189 2000 加藤勝仁ほか『川尻遺跡Ⅱ　谷ケ原浄水場内事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 69 (財)かながわ考古学財団

190 2000 山本暉久ほか『国指定史跡川尻石器時代遺跡範囲確認調査報告書』神奈川県教育委員会・城山町教育委員会・(財)かながわ考古学財団

191 2001 呉地英夫『神奈川県川崎市麻生区岡上－4遺跡第2地点発掘調査報告書』岡上－4遺跡発掘調査団

192 2001 浜田晋介ほか『下原遺跡Ⅱ』川崎市市民ミュージアム

193 2001 中村哲也ほか『神奈川県平塚市万田遺跡第6地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所

194 2001 小林義典ほか『神奈川県小田原市御組長屋遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ地点発掘調査報告書』都市計画道路小田原早川線改良工事遺跡発掘調査団

195 2001 恩田勇ほか『田中・万代遺跡　伊勢原郵便局庁舎増築その他工事に伴う調査報告』かながわ考古学財団調査報告 103 (財)かながわ考古学財団

196 2001 新開基史ほか『半原向原遺跡・半原屈中原遺跡　都市計画公園事業 あいかわ公園整備工事に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 123 (財)かながわ考古学財団

197 2002 小川岳人ほか『南原遺跡　県営南原団地建設に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 129 (財)かながわ考古学財団

198 2002 中山豊ほか『横浜市保土ケ谷区 南原遺跡発掘調査報告書』県営南原団地内遺跡発掘調査団

199 2002 松田光太郎ほか『稲荷山貝塚　根岸米軍（11）法面整備工事に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 131 (財)かながわ考古学財団

200 2002 長岡文紀『原口遺跡Ⅲ縄文時代（第1分冊 本編1）　農業総合研究所建設に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 134 (財)かながわ考古学財団

201 2002 大野悟ほか『万田遺跡・構之内遺跡　平成11・12年度公共下水道建設に伴う発掘調査』平塚市埋蔵文化財シリーズ 37 平塚市

202 2002 栗原伸好ほか『用田鳥居前遺跡　県道22号（横浜伊勢原）線道路改良事業（用田バイパス建設）に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 128 (財)かながわ考古学財団

203 2002 戸田哲也ほか『久野諏訪ノ原遺跡群Ⅰ久野一本松・久野天野薮・久野坂下窪遺跡－市道0036号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査－』小田原文化財調査報告　第101集　小田原市教育委員会

204 2002 香村紘一『相ノ原八幡前遺跡』相模原市相原地区遺跡調査団

205 2002 大貫秀明『当麻亀ノ甲・西原遺跡』相模原市埋蔵文化財調査報告 26 相模原市教育委員会

206 2002 北原實徳ほか『神奈川県秦野市曽屋吹上遺跡－200102地点－』曽屋吹上遺跡発掘調査団

207 2003 今泉克巳ほか『神奈川県川崎市井田中原遺跡B地点』井田中原遺跡B地点発掘調査団

208 2003 河合英夫ほか『神奈川県平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書4　10・15D・19~23・27・30B・31・33（A・D）区』平塚都市計画事業真田・北金目特定土地区画整理事業に伴う調査報告　都市基盤整備公団

209 2003 若林勝司ほか『神奈川県平塚市　平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3　6（D～K）・8（A～D）・13・14・15（A～C）・25・28A区　第1分冊』平塚都市計画事業真田・北金目特定土地区画整理事業に伴う調査報告　都市基盤整備公団

210 2003 寺田兼方ほか「西富貝塚（藤沢市No46遺跡）」『藤沢市文化財調査報告書』第38集　藤沢市教育委員会

211 2003 須田英一ほか『油壺遺跡－個人専用住宅新築工事に伴う発掘調査－』三浦市埋蔵文化財調査報告書　第11集　三浦市教育委員会

212 2004 天野賢一ほか『篠原大原遺跡　篠原団地（先工区）建て替え事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 175 (財)かながわ考古学財団

213 2004 阿部友寿ほか『桜山うつき野遺跡　県道311号（鎌倉葉山線）道路改良事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告163 (財)かながわ考古学財団

214 2004 小川岳人ほか『池端・椿山遺跡　緊急地方道路整備事業（主要地方道路横浜・伊勢原線）に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 165 (財)かながわ考古学財団

215 2004 相原俊夫『神奈川県愛甲郡愛川町臼ケ谷遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所

216 2005 松田光太郎ほか『鳳岡北遺跡・風間遺跡　県道48号（鍛冶谷相模原線）緊急地方道整備事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 178 (財)かながわ考古学財団

宮ノ台式土器の研究（5）

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

前回は神奈川県内の宮ノ台式土器の段階設定基準資料について出土状態の検討、資料の一括性の検討を行ったのであるが、今回は従来の基準資料以外について、供伴事例の蓄積を目的として出土状態を検討し一括性の確認を行った。

集成の対象は、神奈川県内の発掘調査報告書掲載資料で、竪穴住居址床面出土事例を基本として各種遺構の覆土中出土であっても遺物集中出土など複数の土器がまとまって出土している事例を含むこととした。集成の条件は、出土状況を確認できる図と説明があることを前提とし、器形がわかる実測個体が複数器種あることを条件とした。

本稿では、集成事例の中から供伴資料として良好な事例を提示する。従って、資料の時期的な偏りや対象遺跡の分布については考慮していない。提示した事例は5遺跡10遺構である。図版は、遺物出土状況等の遺構図と供伴事例と判断した遺物の図で遺構ごとに作成した。図の縮尺は、遺構図を1/120、遺物図を1/8で統一した。遺物番号は新たに付け直したため、出典の各報告書とは異なっている。

事例集成および図版作成等は当財団勤務のメンバーで分担して行った。原稿執筆は分担して行い、各文末に文責を記した。編集は伊丹が行った。（池田　治）

1．各住居の時期について

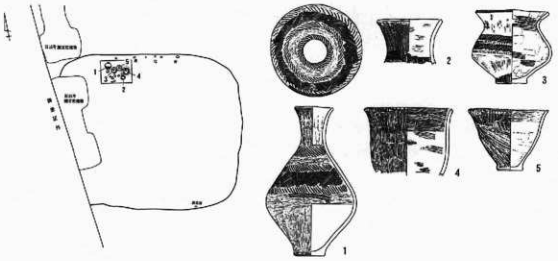
今回提示した資料は、県西部から横浜市域にかけての集落遺跡から竪穴住居址10軒を抽出した。いずれも宮ノ台式土器の中では中段階以降、従前の当弥生時代研究プロジェクトチームが提示した変遷案のうちⅢ～Ⅴ段階に属する（弥生時代研究プロジェクトチーム2001～04）。宮ノ台式の後半の様相は、壺・甕・鉢・高坏等の器種組成が確立し、全体的に無文化・簡素化し地域性が強まる傾向が指摘されている（安藤1990・91）。

壺は法量の幅が広がり、縄文帯を文様要素の基調としたものや、器面全体をハケおよびミガキで整形のみのものなど、簡素な土器が増加する。甕は台付甕がよく見られるようになり、全体をハケ整形するものが多くなる。また一部には器面にミガキを施されたものや、壺と同様に羽状縄文帯を頸部に巡らせたものも存在する。鉢は出土する量が最も少なく、器形は個体毎のばらつきが激しい。高坏はⅡ段階からみられる東海西部地域の系譜をひく鋳付のものが見られるが、鉢と同様に個体差が大きい。（渡辺　外）

2．遺物の出土状況

①下寺尾西方A遺跡Y1号住居址（第1図　井澤ほか2003）

この住居址は平面形確認のみ行い掘削調査をせずに埋設保存する予定のものであったが、精査した段階で覆土中に完形土器が確認されたため、遺物保護の観点からその部分のみ掘削調査を実施した。このため、炉・周溝・柱穴などの住居址内施設については詳らかでない。平面形は東西に長い、隅丸長方形を呈するとみられる。規模は5.55×4.90mを測るが、西壁付近を古代の掘立柱建物に切られ、一部は調査区外へ延びている。北壁際からは直立していると見られる炭化材が規則的に確認された。材の間隔は14～50cm、直径は1



第1図　下寺尾西方A遺跡Y1号住居址　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

～10cmとばらつきがある。確認状況から見て壁体の可能性が高い。図示した5点の土器はいずれも北壁際の床面からまとまって出土している。1・3・5は完形である。1の壺は横位で、他の4点は口縁部を下にした倒置状態で出土した。また、3の広口壺には二次的な強い被熱痕がある。

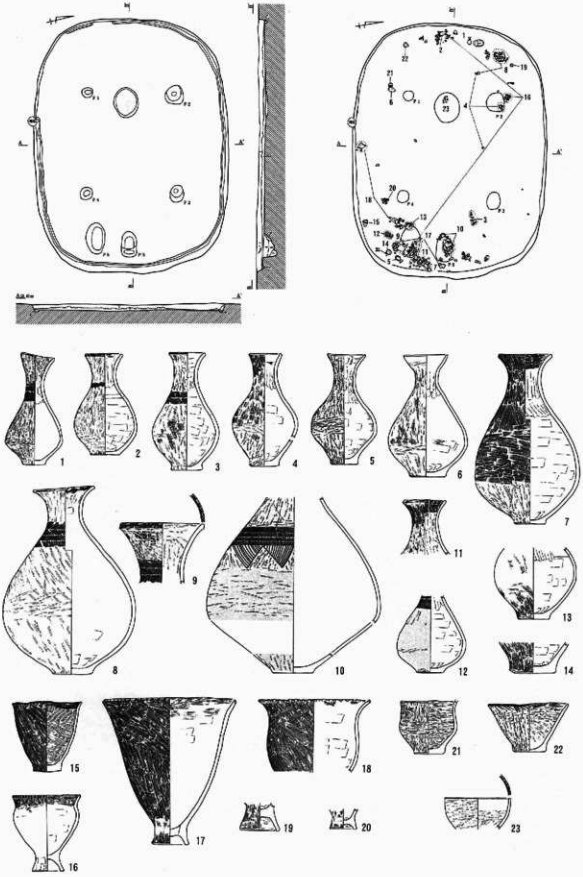
これらの点から、この住居址は焼失住居であると考えられ、出土位置・状態から一括遺棄された蓋然性が非常に高いものと考えられる。　（桜井真貴）

②下寺尾西方A遺跡Y5号住居址（第2図　井澤ほか2003）

6.14×8.08mのやや大形の住居址であるが、遺構確認面から床面までの深さが19cmほどしか残っていない。しかしながら、床面直上に多くの土器が遺存していた。覆土は基本的に上下2層に分けられ、床面上の第2層からほとんどの土器が出土している。他の弥生時代遺構との重複はない。報告書記載の土器26点のうち、床面直上および床面相当の屋内土坑上から22点、炉から1点が出土している。床面出土土器の器種および数量は壺14点、甕2点、台付甕4点、鉢2点、高坏1点である。土器の出土位置は壁際が多く、西壁（奥壁）際の床面から完形の壺2個体を含む7点（1・2・6・8・19・21・22）が、いわゆる貯蔵穴と思われる屋内土坑周辺の東壁際から12点（3・5・7・9～15・17・20）が出土している。2箇所の纏まりはそれぞれ一括性が高いものと考えられ、また同時性のある資料とも考えられるものである。これに炉上面出土土器2 3とそのほかの床面出土土器を含めて、住居廃絶時前後の供伴資料と考えられる土器を第2図に掲載した。小形壺8個体と中形壺、大形壺があり、甕は深鉢形のほかに脚台が付くものがある。脚台の破片も出土している。この他の器種として鉢と高坏があり、器種は盤宕である。壺は無文のものと肩部（もしくは頸部）に文様帯が1箇所施文されるものからなる。大形壺は図上復元であり胴部下半の形状および口縁部～頸部の形状は明確ではない。高坏は坏部のみであり、脚台の形状は不明である。　（池田）

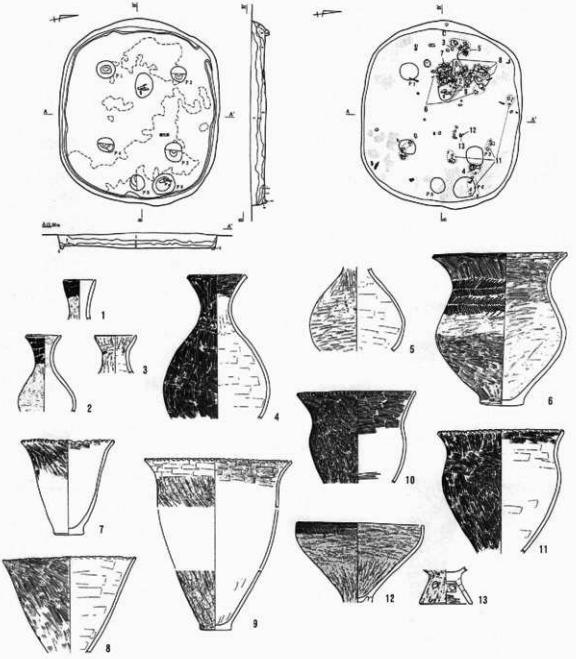
③下寺尾西方A遺跡Y9号住居址　（第3図　井澤ほか2003）

この住居址は柱穴1本（P1）と浅い皿状の土坑（P6）を全掘調査し、他の柱穴（P2～4）と出入り口施設と見られるピット（P5）は半截による土層観察にとどめている。炉址は中央奥壁寄りに存在するが、掘削調査は行っていない。また、周溝は北西部で一部欠けたものが1条、平面確認された。確認のみで掘削



第2図　下寺尾西方A遺跡Y5号住居址　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

調査は行っていない。住居址の規模は5.74×5.00mの隅丸長方形で、確認面からの掘り込みは51cmを測る。覆土中には住居の壁付近から中心に向かって流れ込むように焼土（3′層）の堆積が認められ、柱穴の外側で床面に達している。焼土の存在や、遺物出土状況から見て焼失住居である可能性が高い。遺物は炉址や出入り口付近では床面から、その他の場所では比較的高い位置で出土している。ただし、焼土の上下で出土した遺物も接合している。平面的には炉址の周辺およびその西側に多く分布している。図示した土器のうち壺（1）・広口壺（6）・甕（7～10）は炉址付近の床面から、壺（4）・甕（11）・台付鉢（12）・高坏（13）は、その他の位置の床面から出土している。出土状況は狭い範囲に同一個体の破片がまとまっていることが多く、原位置でつぶれた状況が看取できるが、8・9・11は割れて比較的離れたところの破片同士が接合している。壺（2・3・5）は床面から6～7cmほど浮いて出土している。



第3図　下寺尾西方A遺跡Y9号住居址　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

このような出土状況から、少なくとも4・6・7・10・12・13は一括性が保証され、その他のものも高い一括性が認められると言えよう。（桜井）

④下寺尾西方A遺跡Y12号竪穴住居　（第4図　井澤ほか2003）

この住居址は柱穴だけでなく周溝についても確認をしたのみで掘り下げをしていない。それにもかかわらず多量の土器が床面から出土していることが判明した。今回の調査地区では最大規模の住居址で8.89×7.72mを測る。炉が2基あり、周溝・柱穴の確認状況から数次の拡張をしたことが想定されている。壺（1～14）、甕（15～21）、鉢（22）のほか環状石斧や板状鉄斧の出土も見られる（18は壺の、20は台付鉢の可能性もある）。炉からは8・11・16のほか大形壺（宮ノ台式末期に通有の羽縄文・沈線区画・並行直線充填の櫛歯文をもち、赤彩を施されたもの）の胴部上位破片がみられる。梯子穴と考えられるピット上面から12が、その周辺から住居址の東半に土器は集中して出土した。床面に張り付いて出土したものは1・4・5・10・12・14・17・19・21である。その場で潰れたような状態で検出されたものが多いが、21はやや離れたところのものが接合し、床から8cm浮いた状態で出土した15は壁際から流れ込んだような状況を示す。17は底部を欠いたまま倒置されていた。21のような台付甕が確実に伴うことからも宮ノ台式でも末葉の様相を示すことが伺われる。また、13にみられる貝田町式土器に淵源をたどることのできる土器の出土は注意されよう。このような器形は千葉県常代遺跡でも知られているが、むしろ見晴台式から山中式にかけて認められる台付鉢に重ね合わせたほうがよいのかもしれない（永井・村木2002）。ただしこれは7cmほど浮いての出土である。

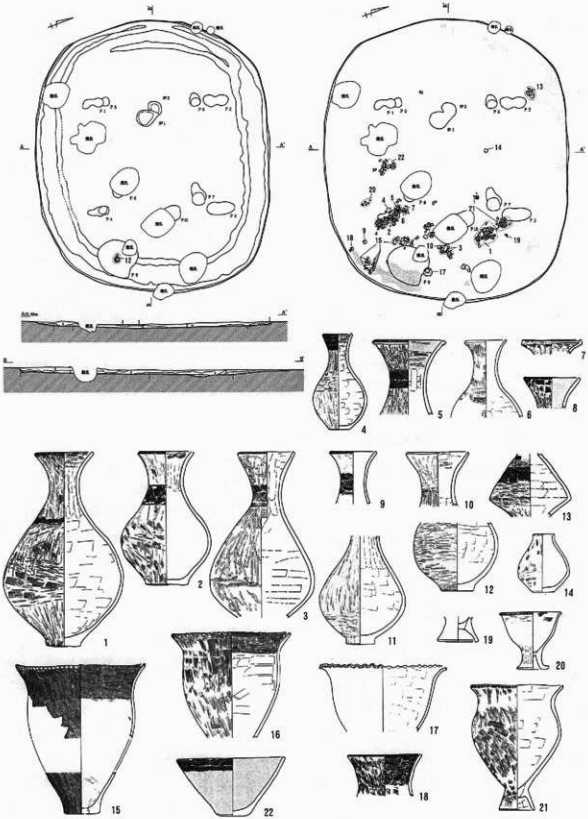
本住居址出土遺物は、確認面から床面までの深さが12cmとわずかということもあり、ほとんどの遺物がこの住居に伴うものである蓋然性が高く、この一括性は高く保証されよう。（伊丹　徹）

⑤赤坂遺跡第8次調査地点7号住居址　（第5・6図　中村・諸橋2001）

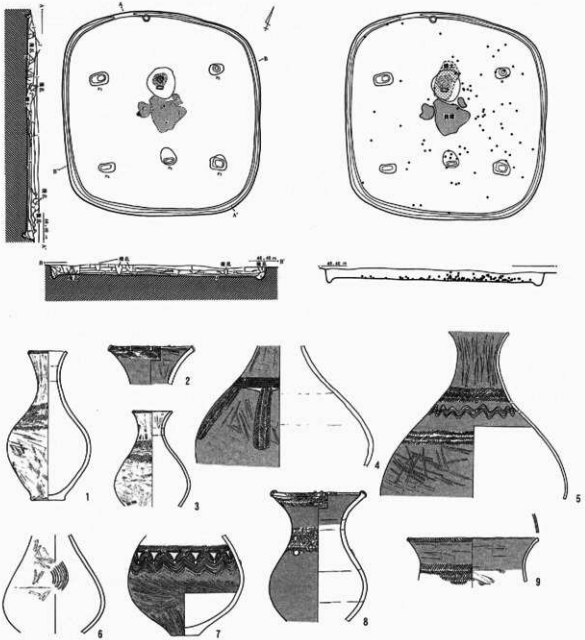
この住居址の規模はさほど大きなわけではなく、赤坂遺跡でも中形の6.52×6.34mのものである。また、覆土の堆積も最厚で40cmと深いわけでもないが、テンパコにして100箱分もの土器が出土したという。そして炉から住居址中央部にかけて魚骨・獣骨を多量に含む貝層も検出された。土器の分布は床面直上のものが多く、住居の東側にやや偏るようである。器種は壺（1～9）、甕（10～24）、鉢（25～30）のほか高坏（31）も認められる。甕が異様に多く、大形品も少なくない。特に10は県内でも最大級のものである。また壺にも大形のものが認められるが完形品には恵まれない。

テンパコ100箱分の土器が全て復元されたことを想像するまでもなく、これらの土器が本来の機能をこの住居址内で果たしていたとは到底考えることができない。報告者も述べているようにこれらの遺物は祭祀という行為での一括性、つまり廃棄の一括性の担保とはなりえるものの、使用の一括性・組合せを保証する限りではない。報告者は4細分した土層への帰属をできるだけ詳細に記載しており、今回提示した資料で床面直上出土のものは1・4・6・10～12・15・22・27・29～31、最下層の4層出土は21・25・26である。主体を占める甕のバリエーションは豊かで、口縁部の作りや胴部の調整、器形も様々なものがある。破片では櫛目鎮状文やヘラによる横走羽状文も微量ながら認められるが、脚台は全く見られない。無文の壺も一定量あるが、懸垂文（4）や結紐文（7）をモチーフとしたものや無区画の縄文帯を重ねるものなど意匠は様々である。ある程度の時間幅を考えたほうがよいであろう。脚部の裾に透かしを入れ、肥厚する口縁をもつ深い坏部の特異な高坏（31）は、壺底部に同様の細工を加えるものを含めても類例は少ない。近畿地方ではⅣ様

式の高坏や台付鉢などの脚台部に意匠を加えることがよくみられるがその影響だろうか。また、南関東では宮ノ台式に顕著な記号文をもつ壺（6）もみられる。



第4図　下寺尾西方A遺跡Y12号竪穴住居　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

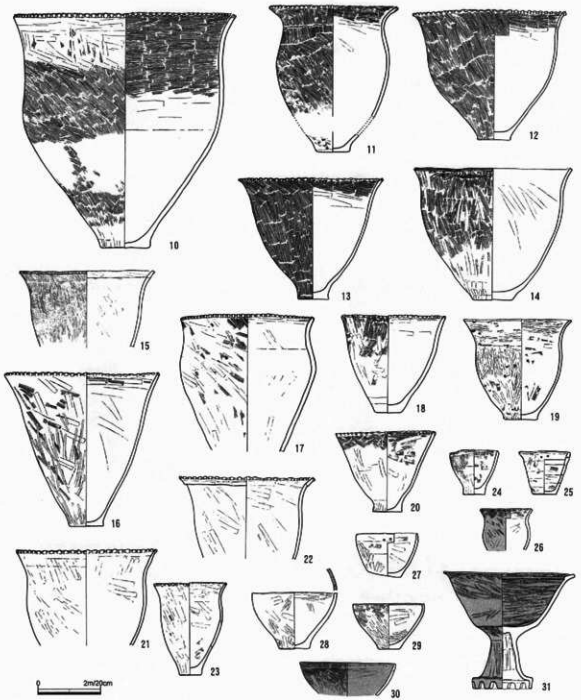


第5図　赤坂遺跡第8次調査地点7号住居址（1）　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

貝層における鹿角製弁およびベンケイガイ製貝輪といった非日常性を示す遺物の存在は、いっそう祭祀による一括性の可能性を高めるものではなかろうか。　（伊丹）

⑥大塚遺跡Y51号住居址（第7図　伊藤ほか1991・小宮ほか1994）

本住居址は、楕円形を呈し、4本の主柱穴と梯子穴、それに主軸上の奥寄りに地床炉、入口付近に貯蔵穴を一つ掘り込むという、ごく一般的な形態をとる住居址である。7.43×6.50mを測り、規模の点からも本遺跡の中でごく平均的といえる。主柱穴や周溝が重複して掘られていることから少なくとも2回の建て替えが想定される。本住居址は焼失住居と考えられ、床面上に炭化材などとともに遺物も多く残った状態で検出された。



第6図 赤坂遺跡第8次調査地点7号住居址（2） 〔遺物S：1/8〕

器種としては、壺（1～4）、甕（5～8）が中心となる。壺は単純に外反する口縁部をもつ。頸部から胴部にかけては、斜縄文や舌状文を施す例と無文の例とがある。甕は口縁部にキザミをもつものと指頭押捺をもつものとがある。9は、本来は台付甕であり、胴部が欠損した後に割れ口を磨いて台付鉢として再利用したものと考えられる。10は器形的には甕であるが、外面はハケの後磨かれている。また、LRの縄文帯の上に波状文を施文している。口縁内面にも縄文帯と波状文を施し、内外面ともに赤彩されており、鉢などと捉えた方が良いかもしれない。土器は全面に広がりをみせるが、なかでも炉址内と南西コーナー付近に遺物の集中が認められる。炉からは2・8・10が出土している。南西コーナー付近の遺物の集中部分で検出され

第7図　大塚遺跡Y51号住居址〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

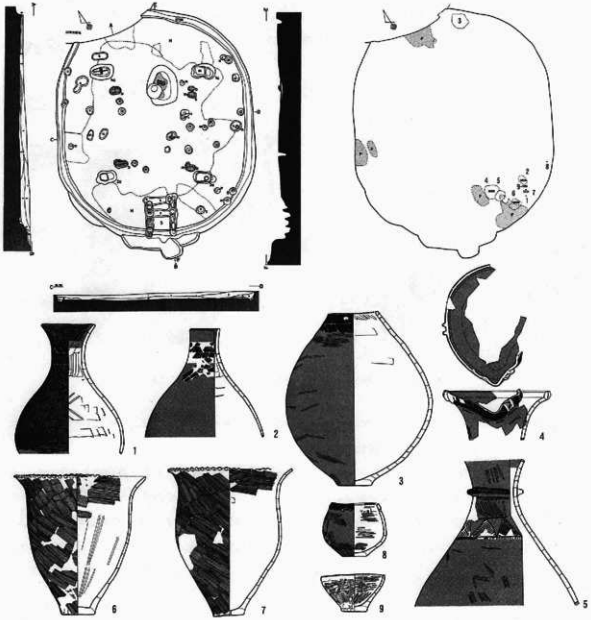
たものは、3・7の他に小形の甕（口縁部にキザミをもつ外面ハケ調整のもの）がある。いずれもその場で潰れたかのような様相を示すものが多く、離れての接合は認められない。

本住居址は、堆積過程に堆積した層から出土した土器が床面上で検出されたものと接合することから、火災後に人為的に埋め戻すといった行為が推定されるという。従って、短期間での埋没が考えられる。なかでも、炉内で検出された個体と床面直上で検出された個体は、火災時に放置されたままである可能性が高く、この住居に伴うものと思われる。これらのことから、炉内と床面直上で検出された個体は、一括性が高いと考えられる。（飯塚美保）

⑦観福寺北遺跡21号住居址（第8図　平子・鹿島1989）

本住居址は、楕円形を呈し、4本の主柱穴と梯子穴、それに主軸上の奥寄りに地床炉を掘り込むという一般的な形態をとる。特徴的なこととしては、ピットが列なった形の出入り口施設をもつことがあげられる。10.68×8.43mを測り、本遺跡のなかでは比較的規模が大きい住居である。主柱穴の内側に、上面に貼り床がされたピットが存在することから、少なくとも2回以上の柱の移動を伴う建て替えがあったことが推測される。また、覆土中には、壁際を中心として焼土が厚く堆積していることから、本住居址は焼失住居である可能性が高いと考えられる。

掲載した土器は、いずれも床面上より出土したものである。器種としては壺（1～5）、甕（6・7）が中心であり、無頸壺とされた8や、椀とされた9などのようなものも出土している。壺は、頸部から胴部にかけては、羽状縄文を施文した個体、羽状縄文と沈線区画の鋸歯文を施文した個体などがある。3は口縁部から頸部が欠損した後、欠損部を擦って再利用したものである。掲載した壺はいずれも赤彩が施されていた。甕は6・7ともに口縁部は指頭押捺、外面はハケ調整されている。内面はハケもしくはヘラナデであるが、一



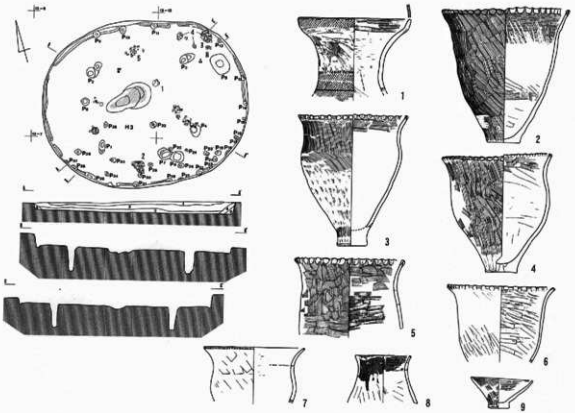
第8図　観福寺北遺跡21号住居址　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

部ミガキがなされる個体もある。報告書に掲載された本住居址出土の壺は、いずれも指頭による押捺であり、キザミは認められなかった。これらの床面直上より検出した土器は、住居址の南東コーナー付近と炉の北側に集中する傾向が認められる。3は炉の北側から出土し、それ以外は南東コーナー付近からの出土である。

焼土や遺物の出土状態から、床面上から出土した土器はこの住居に伴うものと思われ、一括性が高いと考えられる。（飯塚）

⑧折本西原-Ⅰ遺跡3号住居址（第9図　岡田・水澤編1988）

本住居址は他遺構との重複はなく、6.7×5.2mの小判形を呈する。炉は新旧の2基確認されている。壺（1）、甕（2～8）、鉢（9）があり、甕が多い。土器以外には床面から出土した土製円盤が2点、扁平な礫を利用した扁平片刃石斧1点などがある。覆土は最厚で37cm程度であり、自然堆積と判断される。遺物は覆土か

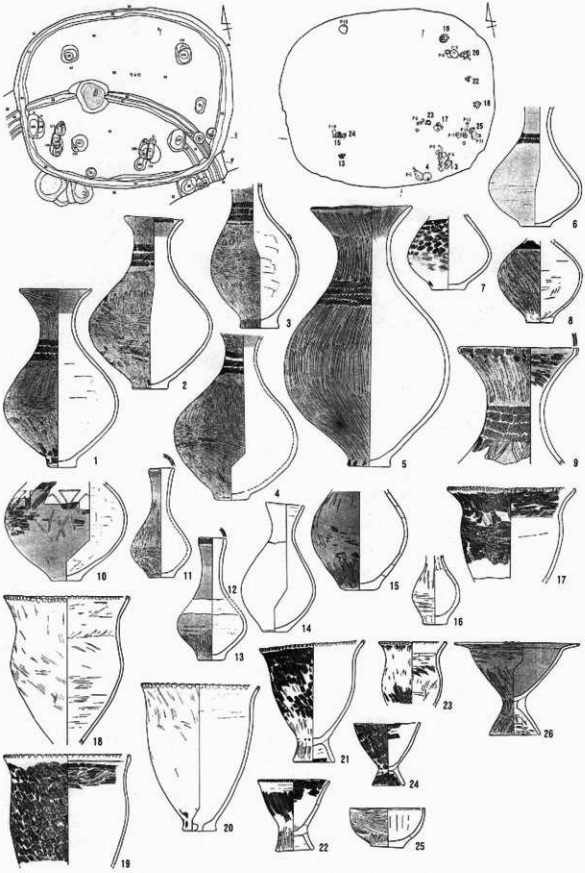


第9図　折本西原-Ⅰ遺跡3号住居址　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

ら床面にかけ多量に出土している。床面出土とされたものを図示したが、これらのうちほぼ完形の2は南壁際、3は北東角際からその場で潰れた状況を呈しているものの、4は3のすぐ西側に1m程の範囲で散っている。また、5は胴部上半以上の残存、6～8は破片からの復元実測であり、1・6は覆土中の破片と接合するものである。報告書の出土状況写真を見ると、3・4・8が出土した住居北東側を中心に覆土中から床面まで遺物が分布しており、埋没過程での投棄行為が見て取れることから、2・3以外の土器については住居廃絶後の投棄遺物と理解すべきものだろう。従って、ほぼ完形に復元された2・3も含め、一括性・同時性を保証できるものではない。　（新開基史）

⑨折本西原遺跡Y4号住居址（第10図　石井ほか1980）

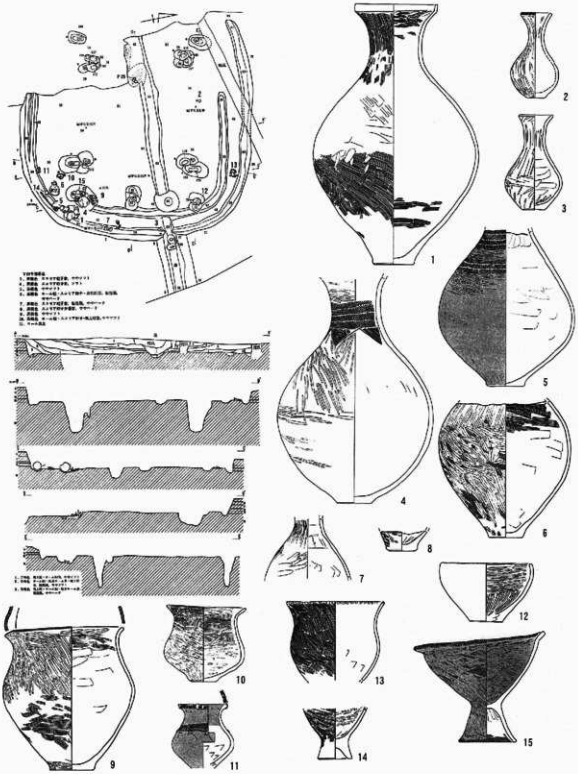
報告されている土器のうち、床面から出土した26個体を提示した。住居址は6.70×5.55mの隅丸長方形を呈し、遺構確認面からの深度は最も残存のよいところで30cmを測る。北西隅は床面に達する程の攪乱を受け、遺物は東寄りから東南側のコーナーに集中して出土した。壺（1～16）、甕（17～24）、鉢（25）、高坏（26）がみられ、石器は「小形ノミ形石斧」（扁平片刃石斧か）、打製石斧や磨石・敲石類、砥石などが出土している。炉の南側には13・15・24などの比較的法量が小さい土器がみられる。この内13の壺胴下半部は、東壁際から出土した口頸部と同一個体であると目されており、そうであれば一個体の破片が約4mの距離を隔てて床面上に遺存していたことになる。土器はほとんどの場合床面上から潰れた状態で出土し、その1/3程度が口縁から底部まで残存している。その他の場合でも、壺は口縁または口頸部を、甕は底部を欠く例が多い。このうち4はほぼ正位の状態で南側壁面近くから出土した。こうした状況から鑑みて、これらの土器は本址の廃絶前後に床面上に遺棄されたのち、埋没したものと考えられる。　（渡辺）



第10図　折本西原遺跡Ｙ４号住居址　〔遺構Ｓ：1/120　遺物Ｓ：1/8〕

⑩折本西原遺跡Y48号住居址（第11図　石井ほか1980）

本住居址の西側は約1/4を削平されており、残存する南西側の柱穴位置を勘案すれば本来の規模は8.5×7.4m程と推測される。三重に掘削されている周溝と最低3回以上掘り直された柱穴から、3回以上の拡張ないし建て直しが行われている。



第11図　折本西原遺跡Y48号住居址　〔遺構S：1/120　遺物S：1/8〕

壺（1～7）、甕（13）、広口壺（9～11）のほか鉢（12）、台付鉢（14）、高坏（15）があり、壺類の数が圧倒的に多い。完形品が多く、肩部以上を欠失した壺6も欠損部を平坦にしており、継続して使用されたことが想定される。土器以外には鉄鏃1点、扁平片刃石斧4点が出土している。覆土は30～50cm程度残存しており、いわゆる壁際三角堆積も認められ、概ねレンズ状の堆積を示すことから自然堆積と認め得よう。壁際から少量の弱い焼土と炭化材が検出されているが、床面の被熱痕跡は全く認められず、焼失住居ではない。遺物は覆土中からの出土が少なく、床面からの出土が大半である。炉において台ないし支脚として二次利用されたと見られる底部8を除けば、ほとんどの完形・半完形土器は横倒しないしその場で潰れた状態で床面の東側、特に南東角付近から集中して出土している。これらは出土位置・状態と覆土中遺物が僅少であることを勘案すれば、廃絶後初期の段階までに一括して埋没している可能性が高く、それが居住時の配置を示さないとしても、一括性は高いと判断される。これらの内、4・9・15は床面より10cm程度掘り下げられた土坑状の部分から出土しており、報告者は本址より新しい土坑に伴う遺物の可能性も示している。しかし、覆土に特に差異は認められなかったという報告者の所見もあり、特に本址に伴うことを否定するものではない。（新開）

3．まとめ

出土土器の器種・数量の豊富な5遺跡10遺構を対象に一括資料としての検討を行った。検討資料は宮ノ台式の中段階以降に偏っているが、壺、甕および鉢や高坏の共伴状況を確認し提示した。今回の資料では、器形や文様の変遷、対応関係に従来の編年観と特に齟齬はないことが明らかであるが、資料としての充実はさらに蓄積すべきであろう。

竪穴住居址における土器の出土状況については、床面上で土器がまとまって出土する場所は炉付近や貯蔵穴周辺の住居址壁際に多いという傾向は、今回の検討対象とした資料でも認められた。しかしまた、住居址の床面上から出土した土器であっても、その場所で潰れたような出土状態の土器と完形に近い土器でありながら離れた位置に分散して出土する土器とがあることも事実である。それぞれそこに遺存することになった経緯が異なっていることが考えられるのであるが、一方住居廃絶後の埋没過程における比較的短い時間幅の中に両者を位置付けることも可能であろう。使用時の一括性を判断できる状況に無くとも、廃棄時の一括性もしくは住居廃絶時の同時性を保証できる資料として提示できれば、編年基準資料や交差年代基準資料として不足ないものと考えられる。（池田）

引用遺跡に関る文献

井澤　純ほか　2003　『下寺尾西方A遺跡』かながわ考古学財団調査報告157
石井　寛ほか　1980　『折本西原遺跡』横浜市埋蔵文化財調査委員会
伊藤　郭・武井則道ほか　1991　『大塚遺跡』港北ニュータウン内埋蔵文化財調査報告XII
岡田威夫・水澤裕子編　1988　『折本西原遺跡-I』折本西原遺跡調査団
小宮恒雄・武井則道ほか　1994　『大塚遺跡』港北ニュータウン内埋蔵文化財調査報告XV
中村　勉・諸橋千鶴子　2001　『赤坂遺跡』三浦市埋蔵文化財調査報告書5
平子順一・鹿島保宏　1989　『観福寺北遺跡・新羽貝塚発掘調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会

参考文献

安藤広道　1990　「神奈川県下末吉台地における宮ノ台式土器の細分」上・下　『古代文化』42－6・7
安藤広道　1991　「相模湾沿岸地域における宮ノ台式土器の細分」『書古』田原本唐古整理室OB会
梅崎恵司　1994　「弥生時代西日本の高坏脚部の透孔」『古文化談叢』33
永井宏幸・村木　誠　2002　『尾張地域』『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社
弥生時代研究プロジェクトチーム　2001～04　「宮ノ台式土器の研究」1～4『かながわの考古学　研究紀要』6～9　かながわ考古学財団

神奈川県内における奈良・平安時代の農具

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

奈良・平安時代研究プロジェクトチームは、今年度から新たな取り組みとして、農具を取り上げることにした。農具は集落遺跡、生産遺跡のみならず官衙跡や寺院跡などからも出土する。また近年県下においては、低地に所在する遺跡を対象とした調査事例が増加傾向にあり、鉄製のみならずあわせて木製の農具も少しずつ出土量を増やしてきている。

この農具は、生産遺跡と共に、基幹産業として古代社会を基底で支えた農業実態の一端を示すものである。これにアプローチすることは農業生産・技術、農具の形態・使用方法・所有関係など農業全般について、或いは在地社会の集団関係のみならず、広く古代の社会関係をも語ることが可能なものである。そうした意味からこれまでも、高橋一夫、土井義夫、松村恵司、古庄浩明、八賀　晋、黒崎　直、河野通明の諸氏により、さまざまな観点から検討が加えられ大きな成果があげられてきたことは周知のことである。

そこでまず手始めとして、県下の農具の実態を把握するために、全県的に集成を行なうこととした。ただ今年度は紙数の関係もあるので、地域としては横浜市・川崎市の旧武蔵国、それと木製農具は除外し、来年度の本紀要に掲載することにした。

その上で、さまざまな切り口でもって、その解明に努めたいと考えている。

例　言

1．本集成は2005年９月現在公刊されている遺跡調査報告書に基づき、横浜・川崎を除く神奈川県内の鉄製農具を集成したものである。
2．報告書で鉄製農具と報告されていても、実測図や写真がなかったり、遺存状態が悪く断片で、プロジェクトチームで鉄製農具と判　　断しかねる場合は除外した。
3．集成表の項目内容は次の通りである。
（1）番号：県西部から市町村毎に遺跡毎に並べて一点一番号とした。
（2）器種名：報告書によっては○状製品など器種名が統一されていないため、本集成では鍬鋤先・鎌・穂摘具と統一して表記した。
（3）遺跡名：調査年度や地点にかかわらず、同一遺跡として扱った。
（4）出土遺構：地区・地点別に報告されている場合は、地区名を表記した後に遺構名を入れた。
（5）出土位置：報告書の記載に従ったが、表現を統一した。
（6）遺存状況：実測図面から判断して「完形」、少し欠けている「ほぼ完形」、残存が1/2より多い「欠損」と残存が1/2より少ない「断片」の四段階で表記した。
（7）法量：鍬鋤先の厚みは耳部が残存している場合は耳部の厚みとした。
（8）遺構時期：報告書に記載が無い場合や古墳～、～中世と記載された遺物は奈良・平安時代前後の時代の遺物である可能性がある。
（9）文献名：記載された書名をあげた。書名前の数字は発行年の西暦下２桁を示す。
4．図版の縮尺は鍬鋤先1/4、鎌・穂摘具は1/3である。

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量(cm) 長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
小田原市											
1	鎌	永塚北畠		包含層	断片	(4.00)	4.00	0.20			86『埋蔵文化財発掘調査報告書』
2	鎌	高田北之前	第Ⅱ地点2住	床直	欠損	(11.00)	2.80	0.30	10前		01『高田北之前遺跡第Ⅱ地点』
3	鎌	三ツ俣	6掘立	覆土	断片	(6.20)	1.80	0.20	平安		86『三ツ俣遺跡』
4	穂摘具	三ツ俣	6掘立	覆土	完形	10.00	2.10	0.40	平安		〃
5	穂摘具	三ツ俣	3井戸	覆土	完形	9.40	2.40	0.60	平安前期		87『三ツ俣遺跡』
6	鎌	久野多古墳	第Ⅰ地点10住b		ほぼ完形	17.00	4.00		9後		04『久野多古墳遺跡(第1分冊－第Ⅰ・Ⅱ地点)』
7	鎌	久野多古墳	第Ⅰ地点11住		完形	13.90	3.00		9後～10初		
山北町											
8	鎌	堂山		包含層	完形						88『カラス山・堂山遺跡』
二宮町											
9	鍬鋤先	天神谷戸	37住		ほぼ完形	7.20	7.30	1.00	奈良		00『天神谷戸遺跡』
10	鎌	天神谷戸	15住		欠損	(3.70)	2.80	0.30	奈良		〃
11	鎌	天神谷戸	30住		欠損	(5.90)	3.40	0.30	奈良		〃
12	鎌	天神谷戸	48住		欠損	(9.60)	3.00	0.30	平安前～中		〃
二宮町											
13	鍬鋤先	西大竹小原	97A1-37住		断片	(5.00)	2.00	0.60			02『西大竹尾尻遺跡群2資料Ⅰ』
14	鎌	西大竹小原	96A5-15住		断片	(6.00)	2.00	0.80			〃
15	鎌	西大竹小原	99A1-15住		欠損	(13.50)	1.80	0.20		左鎌	〃
16	鎌	西大竹小原	96A4-7住		欠損	(14.80)	2.20	0.20		左鎌	02『西大竹尾尻遺跡群3資料Ⅰ』
17	鎌	西大竹小原	98A1-4住		欠損	(7.50)	3.00	0.20			〃
18	鎌	西大竹小原	98A1-6住		断片	(6.40)	3.40	0.20			〃
19	穂摘具	西大竹小原	98A1-21住		ほぼ完形	(11.20)	1.40	0.20			02『西大竹尾尻遺跡群3資料Ⅱ』
20	穂摘具	西大竹小原	99A2-3住		断片	(7.20)	1.80	0.20			〃
21	鍬鋤先	尾尻西立野	96B1-18住		完形	22.00	20.50	1.50			01『西大竹尾尻遺跡群4資料Ⅲ』
22	鍬鋤先	尾尻西立野	98B1-13掘立		完形	20.40	19.80	2.20			〃
23	鎌	尾尻西立野	98B1-1住		欠損	(6.40)	3.50	0.60			〃
24	鎌	尾尻西立野	98B1-2住		欠損	(8.30)	5.00	1.20			〃
25	穂摘具	尾尻西立野	97B1-1住		欠損	(6.90)	2.10	0.30			〃
26	穂摘具	尾尻西立野	98B1-4住		欠損	(7.20)	1.90	0.30			〃
27	鍬鋤先	草山	54住		断片	(10.80)	2.30	(0.80)	9前		90『草山遺跡Ⅲ』
28	鍬鋤先	草山	遺構外		断片	(9.30)	1.80	1.00	古墳～平安		〃
29	鍬鋤先	草山	遺構外		断片	(8.20)	1.50	0.80	古墳～平安		〃
30	鎌	草山	No.24地点11住		断片	(7.10)	3.60	0.30			83『草山遺跡No.24地点の調査』
31	鎌	草山	48住	覆土	完形	14.80	4.20	0.25	8後	31～34の4点が重なって出土	90『草山遺跡Ⅲ』
32	鎌	草山	48住	覆土	完形	19.30	4.40	0.25	8後		〃
33	鎌	草山	48住	覆土	完形	20.20	4.10	0.25	8後		〃
34	鎌	草山	48住	覆土	完形	19.40	4.60	0.25	8後		〃
35	鎌	草山	51住		ほぼ完形	(17.00)	4.20	0.40	9前		〃
36	鎌	草山	141住		欠損	(12.40)	3.10	0.25	9前		〃
37	鎌	草山	111住		完形	20.60	3.60	0.30	9前		〃
38	鎌	草山	100住		欠損	(8.80)	2.40	0.20	9前		〃
39	鎌	草山	100住		断片	(7.10)	2.60	0.25	9前		〃
40	鎌	草山	133住		断片	(6.80)	3.10	0.20	8後		89『草山遺跡Ⅱ』
41	穂摘具	草山	51住		完形	11.10	2.30	0.25	9前		90『草山遺跡Ⅲ』
42	穂摘具	草山	51住		完形	10.50	2.00	0.20	9前		〃
43	穂摘具	草山	2住		欠損	(8.50)	1.90	0.15	8後		89『草山遺跡Ⅱ』
44	穂摘具	草山	76住		ほぼ完形	(9.70)	2.50	0.50	9前		〃

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量(cm) 長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
45	砥掲具	草山	104住		完形	11.10	1.80	0.20	8後		89『草山遺跡Ⅱ』
46	砥掲具	草山	80掘立		欠損	(9.30)	1.70	0.20	9前		〃
47	鎌	小南	48住		完形	14.20	3.00	0.50	平安前期		97『小南遺跡（No.28）』
48	鎌	御野下大槻	20C地区遺構外		ほぼ完形	(16.20)	(3.80)			写真のみ	74『御野下大槻』
49	砥掲先	下大槻峯	22住		断片	(13.10)	3.20	1.40	平安中期		98『下大槻峯遺跡（No.30）Ⅱ』
50	砥掲先	下大槻峯	遺構外		欠損	(8.50)	1.90	0.80	古墳～平安		98『下大槻峯遺跡（No.30）Ⅱ』
51	鎌	下大槻峯	60住		欠損	(7.40)	2.60	0.30	平安中期		98『下大槻峯遺跡（No.30）Ⅱ』
52	鎌	下大槻峯	62住		完形	18.00	3.30	0.35	古墳末～奈良前		〃
53	鎌	下大槻峯	109住		断片	(5.50)	2.60	0.30	平安前期	左鎌	〃
54	鎌	下大槻峯	15土坑		断片	(11.60)	3.70	0.30	古墳～平安		98『下大槻峯遺跡（No.30）Ⅲ』
55	鎌	下大槻峯	遺構外		断片	(4.90)	3.90	0.35	古墳～平安		〃
56	鎌	下大槻峯	遺構外		断片	(7.00)	1.80	0.30	古墳～平安		〃
57	砥掲具	下大槻峯	35住		欠損	(6.90)	2.00	0.30	平安前期		98『下大槻峯遺跡（No.30）Ⅱ』
58	鎌	神戸・上宿（No.15）	遺構外		断片	(6.10)	2.60	0.30	古墳～平安		99『神戸・上宿遺跡（No.15）』
59	鎌	上柏屋・川上（No.5）	溝群		ほぼ完形	(15.80)	3.50	0.20	平安		98『上柏屋・川上遺跡（No.5・6）』
平塚市											
60	鎌	坂戸	第3地点1住	覆土	欠損	(10.40)	1.60	0.20	10前	左鎌	90『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』2
61	砥掲先	六ノ域	第11地点3T		断片	(10.80)	3.40	0.80			96『南原B遺跡他』
62	鎌	六ノ域	第4地点62住	床直	断片	(6.24)	2.00	0.24	11		87『真土六の域遺跡Ⅱ』
63	鎌？	六ノ域	第4地点14住	覆土	断片	(3.63)	1.50	0.15	8後～10後		〃
64	鎌	六ノ域	第9地点遺構外		欠損	(13.20)	3.70	0.50			92『真土六ノ域遺跡Ⅱ－第9地点－』
65	鎌	六ノ域	1区7住	床下	断片	(4.40)	2.20	0.30			84『四之宮下郷　図版』
66	鎌	六ノ域	1区25住	覆土	完形	10.00	1.80	0.20			〃
67	砥掲具	六ノ域	21掘立		欠損	(5.70)	2.20	0.30			86『真土六の域遺跡』
68	鎌	六ノ域	14掘立		完形	11.00	2.40	0.20			〃
69	鎌？	六ノ域	遺構外		断片						
70	砥掲具	六ノ域	1区6住	床直	断片	(3.60)	2.00	0.20			84『四之宮下郷　図版』
71	鎌	山王B	第1地点3住	床直	ほぼ完形	22.60	2.65	0.21	10中		87『四之宮山王B遺跡』
72	鎌	山王B	第1地点8住	覆土	断片	(8.42)	3.11	0.29	9中・後	左鎌	〃
73	鎌	山王B	第1地点2住	覆土	断片	(4.10)	2.86	0.13	10中		〃
74	砥掲具	高林寺	86住		完形	10.70	1.96	0.18	8中		88『渕詰前B・高林寺』
75	鎌	天神前	第3地点2住	覆土	ほぼ完形	15.10	3.20	0.20	8前		90『梶谷原・高林寺遺跡』
76	鎌	天神前	第3地点11住	覆土	欠損	(7.92)	2.30	0.26	8前	左鎌	〃
77	砥掲具	梶谷原B	第1地点6住	覆土	断片	(3.10)	1.90	0.30	8前		〃
78	鎌	神明久保	第1地点A-2住		断片	(4.10)	2.20	0.20	9		91『神明久保遺跡－第1地区－』
79	鎌	神明久保	第1地点C-10住		断片	(3.50)	1.80	0.20	9		〃
80	鎌	神明久保	第1地点C-1井戸		断片	(3.90)	2.40	0.40	10		〃
81	鎌	神明久保	第1地点C-43ピット		断片	(3.40)	2.00	0.60			〃
82	鎌	神明久保	第1地点C-遺構外		断片	(4.00)	2.60	0.30			〃
83	鎌	神明久保	第1地点C-22住		断片	(3.60)	2.20	0.20	10		〃
84	鎌	神明久保	第3地区5溝		欠損	(7.40)	3.70	0.30			89『神明久保遺跡－第3地区－』
85	鎌	神明久保	第9地点4・10住		断片						01『神明久保遺跡』
86	砥掲具?	神明久保	第3地区6溝		欠損	(8.20)	2.10	0.20			89『神明久保遺跡－第3地区－』
87	鎌	渕詰前A	第10地点遺構外		欠損	(10.80)	2.80	0.30			92『渕詰前A遺跡他』
88	鎌	渕詰前A	第10地点遺構外		断片	(6.80)	2.50	0.30			〃
89	鎌	渕詰町A	2住		欠損	(8.40)	2.90	0.20	8中		98『渕詰町A遺跡発掘調査報告書』
90	鎌	渕詰町A	5住		断片	(7.80)	2.40	0.20	10後		〃
91	鎌	渕詰前A	1区3-G		ほぼ完形	(17.50)	4.00	0.40			84『四之宮下郷　図版』
92	鎌	渕詰前A	1区10E土坑		断片	(4.80)	2.30	0.30			〃

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
93	鍬鋤先	構之内	第1地点A地区26住		ほぼ完形	19.60	21.30	5.00			94『構之内遺跡発掘調査報告書』
94	鎌	構之内	第4地点4溝		断片	(4.40)	2.20	0.20			02『万田遺跡・構之内遺跡』
95	鎌	北金目塚越	8区1005道	覆土	完形	17.70	3.70	0.30			03『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3　第3分冊』
96	穂摘具	北金目塚越	2区21住		断片	(5.70)	(1.80)	2.00	9中		99『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書1』
97	鎌	大久保	6区9住	竈	断片	(11.70)	3.00	0.20			01『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書2　第2分冊』
98	鎌?	大久保	6区26住	床直	断片	(4.60)	1.80	0.20			〃
99	鎌	大久保	6区遺構外	覆土	ほぼ完形	17.80	3.30	0.40			〃
100	鎌	王子ノ台	13住			22.00	4.20	0.20	8後～9初		99『第Ⅱ巻　王子ノ台遺跡　歴史時代編』
101	穂摘具	王子ノ台	46住			10.50	1.50	0.10	8中・後		〃
102	鎌	十七ノ域	2住	覆土	断片	(5.00)	2.00	0.20	7末～8初か		84『真土十七の域遺跡』
103	鍬鋤先	天神前	第7地点22ピット	覆土	断片	(9.30)	(2.80)	1.30			92『天神前遺跡－第7地点－』
104	鎌	天神前	第1地点1井戸	床下	断片	(9.75)	3.90	0.19			88『四之宮天神前遺跡』
105	鎌	天神前	第1地点12住	床直	断片	(8.90)	2.90	0.28			〃
106	鎌	天神前	第1地点8住	覆土	断片	(6.28)	2.20	0.21			〃
107	鎌	天神前	第7地点20住	床直	断片	(7.00)	2.25	0.50			92『天神前遺跡－第7地点－』
108	鎌	天神前	第7地点6掘立	覆土	断片	(6.60)	1.70	0.20			〃
109	鎌	天神前	第7地点5溝	覆土	欠損	(7.80)	3.40	0.30			〃
110	穂摘具	天神前	第7地点5住	覆土	断片	(2.90)	2.10	0.20			〃
111	鍬鋤先	七ノ域	第2地点165ピット		断片	(13.10)	(2.70)	0.40			98『七ノ域遺跡－第2地点－』
112	鎌	山王A	第5地点1住		断片	(5.70)	4.00	0.50			03『山王A遺跡－第5地点－』
113	鎌	東中原F	1住	覆土	完形	12.20	2.00	0.30	8前		86『東中原F』
114	穂摘具	中原上宿	Ⅳ区21住	床下	ほぼ完形	11.50	2.00	0.20	8前		81『中原上宿』
115	穂摘具	中原上宿	Ⅳ区5ピット		断片	(5.40)	1.70	0.20			〃
116	鎌	四之宮下郷	1区3溝	覆土	断片	(12.20)	2.20	0.30			84『四之宮下郷　図版』
117	鎌	四之宮下郷	1区17住	覆土	完形	15.20	3.40	0.40			〃
118	穂摘具	四之宮下郷	1区7住	床直	断片	(6.20)	2.50	0.30			〃
119	穂摘具	四之宮下郷	1区3住	竈	断片	(4.30)	2.10	0.30			〃
120	鍬鋤先	向原	2住	覆土	断片	(9.20)	(3.20)	0.40			82『向原遺跡　第3分冊』
121	鎌	向原	1住	覆土	欠損	(7.00)	2.00	0.40			〃
122	鎌	向原	11住	床直	完形	12.00	3.80	0.20			〃
123	鎌	向原	13住	竈	ほぼ完形	8.00	2.50	0.20		左鎌	〃
124	鎌	向原	33住	床直	ほぼ完形	9.50	2.00	0.20			〃
125	鎌	向原	39住	覆土	断片	(5.20)	1.20	0.20			〃
126	鎌	向原	42住	覆土	断片	(4.80)	3.00	0.30			〃
127	鎌	向原	55住	床直	ほぼ完形	16.40	3.60	0.30			〃
128	鎌	向原	139住	周溝内	断片	(3.00)	1.90	0.30			82『向原遺跡　第5分冊』
129	鎌	向原	153住	床直	完形	16.00	3.20	0.30			〃
130	鎌	向原	207住	床直	完形	3.70	2.20	0.30			〃
131	鎌	向原	223住		断片	(6.70)	3.00	0.30			〃
132	鎌	向原	遺構外		欠損	(8.50)	2.50	0.30			82『向原遺跡　第6分冊』
133	鎌	向原	遺構外		欠損	(6.30)	2.50	0.30			〃
134	鎌	向原	遺構外		断片	(11.10)	2.90	0.30			〃
135	穂摘具	向原	126住	覆土	ほぼ完形	13.00	2.70	0.20			82『向原遺跡　第5分冊』
136	穂摘具	向原	220住	覆土	完形	11.70	2.20	0.20			〃
137	鎌	原口	21住	覆土	欠損	(10.00)	2.70	0.30			97『原口遺跡Ⅰ』
138	鎌	原口	21住	覆土	欠損	(9.20)	1.70	0.20			〃
139	鎌	中里B	4住		断片	(3.00)	1.40	0.10	8中		88『中里B遺跡』

伊勢原市

140	鍬鋤先	岡崎・天神下	第Ⅳ地点2住	床直	ほぼ完形	(22.90)	19.50	0.60			02『岡崎・天神下遺跡　第Ⅳ地点』

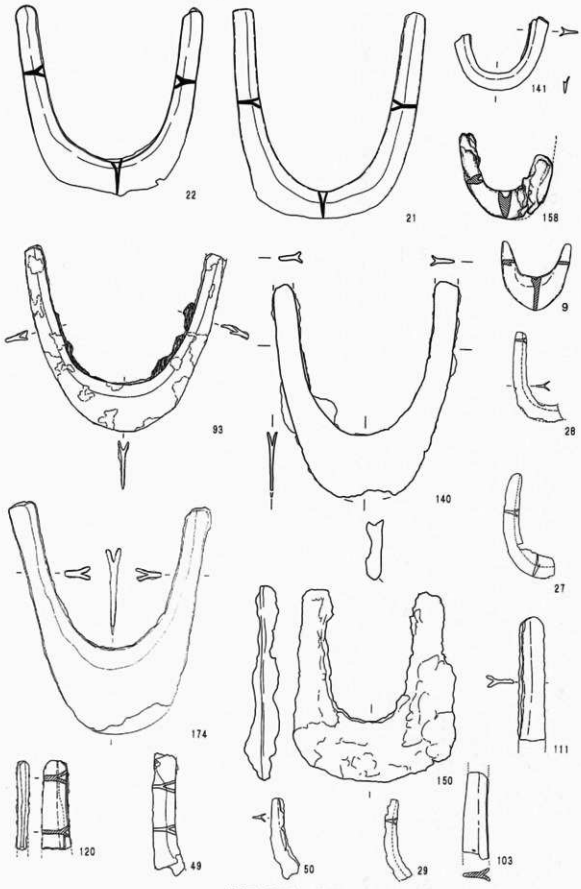
No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量(cm) 長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
141	鉄鏃先	下稽屋C地区	第1地点遺構外	包含層	欠損	(8.00)	(9.40)	1.00			02『成巽第二地区遺跡群　下稽屋C地区第1地点 下稽屋D地区・丸山E地区発掘調査報告書』
142	鎌	天王原	第Ⅲ地点41住	覆土	ほぼ完形	(16.20)	2.90	0.30			96『天王原遺跡発掘調査報告書　第Ⅲ地点』
143	鎌	天王原	第Ⅲ地点96住	覆土	断片	(1.80)	(1.40)	0.15			〃
144	砥摺具	天王原	第Ⅲ地点25住	覆土	断片	(4.50)	1.60	0.20			〃
145	鎌	弥杉・上ノ台	19住	床直	断片	(5.10)	2.20	0.35			95『弥杉・上ノ台遺跡』
146	鎌	弥杉・上ノ台	24住		断片	(7.00)	2.40	0.40			〃
147	鎌	中坂東	31住		ほぼ完形	(18.00)	3.50	0.30			87『比々多遺跡群 遺物編』
厚木市											
148	鎌	下古沢駒飼	2住	覆土	断片	(7.50)	3.80	0.60	9後		98『下古沢駒飼遺跡』
149	鎌	小野公所	第2地点2住	覆土	ほぼ完形	(18.85)	3.80	0.29	9後		98『小野公所遺跡第2地点』
150	鉄鏃先	温水高坪	第1地点49住		完形	19.80	17.00	1.80	8前		96『温水高坪遺跡群』
151	鎌	愛甲宮前	第2地区1住	覆土	ほぼ完形	(17.50)	3.60	2.50	9後		94『愛甲宮前遺跡第2地区』
152	砥摺具	曽野No.1	1住	覆土	欠損	(6.10)	2.30	0.60	9後		99『曽野No.1遺跡』
153	鎌	及川寺ノ上	第5区2住	床直	欠損	(16.50)	3.80	0.40	9後		96『及川寺ノ上遺跡』
154	鎌	及川天台	11住	覆土	断片	(6.70)	3.20	0.30	9前		97『及川天台遺跡』
155	鎌	及川天台	13住	覆土	断片	(8.50)	2.20	0.50	9前		〃
156	鉄鏃先	及川宮ノ西	10住		断片	(8.70)	1.60	0.60	9後		96『及川宮ノ西遺跡』
157	鉄鏃先?	及川宮ノ西	10住		断片	(8.00)	1.60	1.00	9後	156と同一か	〃
158	鉄鏃先	虎尾	遺構外		欠損	(9.80)	2.80	1.40			75『虎尾遺跡』
159	鎌	虎尾	29住		断片	(9.20)	3.60	0.60	10前		〃
160	鎌	虎尾	43住		欠損	(3.50)	2.10	0.50	9前		〃
161	鎌	虎尾	43住		断片	(3.80)	2.90	0.40	9前		〃
162	鎌	虎尾	43住		断片	(2.70)	(2.50)	0.40	9前		〃
163	鎌	虎尾	43住		断片	(4.10)	2.70	0.30	9前		〃
164	鎌	虎尾	43住		断片	(6.80)	3.10	0.40	9前		〃
165	鎌	虎尾	128住		欠損	(9.30)	2.90	0.50	9後		〃
166	砥摺具	虎尾	116掘立	覆土	ほぼ完形	(10.50)	2.40	0.30	8～10		〃
167	鉄鏃先	峯ヶ谷戸	遺構外		断片	(7.10)	1.70	1.00		中世溝の混入として報告	95『峯ヶ谷戸遺跡』
168	鎌	峯ヶ谷戸	27住	覆土	欠損	(14.30)	3.40	0.25	10前		〃
169	鎌	峯ヶ谷戸	37住	覆土	ほぼ完形	(16.60)	2.60	0.25	10前		〃
170	鎌	峯ヶ谷戸	37住	覆土	完形	15.60	2.80	0.25	10前		〃
愛川町											
171	鎌	半原居中原	遺構外		断片	(5.80)	2.80	0.30			00『半原居中原遺跡』
清川村											
172	鎌	鳥場	No.6地区遺構外			(8.60)	3.60	0.30			95『宮ヶ瀬遺跡群』Ⅴ
173	鉄鏃先	炭の屋敷	No.7地区9住	覆土	断片	(9.50)	2.60	1.40	9前		97『宮ヶ瀬遺跡群』Ⅷ
城山町											
174	鉄鏃先	風間	第4地区1住	床直	ほぼ完形	(24.00)	21.00	1.40	10後		89『法政大学多摩校地城山地区風間遺跡群発掘調査報告書』
175	鎌	風間	第4地区1住	東竈	欠損	(15.80)	3.70	0.30	10後		〃
176	鎌	風間	第4地区1住	床直	欠損	(12.70)	2.50	0.30	10後		〃
相模原市											
177	鎌	谷原	4住	覆土	ほぼ完形	(16.80)	3.60	0.20	9後～10前		72『谷原』
178	砥摺具	相原二本松	2住	覆土	ほぼ完形	(10.50)	2.10	2.00			79『相原二本松遺跡発掘調査報告書』
179	鉄鏃先	相原田ノ上	13住	覆土	完形	11.20	12.50	0.60	10～14前		80『相原田ノ上遺跡発掘調査報告書』
180	鎌	相原田ノ上	13住	覆土	欠損	(14.00)	3.50	0.60	10～14前		〃
181	鎌	相原森ノ上	遺構外		完形	8.00	8.10	0.60			01『相原森ノ上遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
182	鏃	矢掛・久保	18区25住	床直	欠損	(8.80)	2.30	0.40	11		89『矢掛・久保遺跡の調査』
183	鏃	矢掛・久保	18区遺構外	覆土	完形	7.50	(6.20)	0.50			〃
184	鏃？	田名稲荷山	13住	床直	断片	(1.90)	(2.40)	0.25	10前		86『田名稲荷山遺跡』
185	鏃	田名塩田原地区	12住		完形	19.90	4.20	0.30	平安		93『田名塩田原遺跡群田名塩田原遺跡（資料編）』
186	鏃	田名塩田原地区	18住		欠損	(12.10)	4.00	3.00	平安		〃
187	供膳先	田名花ヶ谷戸地区	1住		ほぼ完形	9.20	8.30	1.40	平安		〃
188	鏃	当麻	第1地点6住	床直	欠損	(7.10)	1.50	0.30	8前		77『当麻遺跡 上依知遺跡』
189	鏃	当麻	第1地点9住	覆土	欠損	(10.00)	3.60	0.60	8前		〃
190	鏃	当麻	第1地点9住	覆土	欠損	(11.00)	2.50	0.60	8前		〃
191	鏃	当麻	第3地点26住	床直	断片	(3.90)	1.90	0.20	9～10前		〃
192	鏃	当麻	第1地点2住	覆土	ほぼ完形	(9.90)	1.60	0.20	9前		〃
193	鏃	大島下台	1住		断片	(18.30)	3.50	0.30	9中		04『平成16年相模原市文化財年報』
194	鏃	相模原市No.69	1住		ほぼ完形	(18.70)	3.80	0.80	9		00『相模原市埋蔵文化財調査報告24』
195	鏃	中村	B地区1住		完形	20.20	3.50	0.40	平安		87『中村遺跡』
196	鏃	中村	B地区1住		断片	(2.60)	1.90	0.25	平安		〃
座間市											
197	鏃	米軍キャンプ座間地区内	1住	床直	完形	19.40	3.32	0.50	9前		00『米軍キャンプ座間地内遺跡発掘調査報告書』
198	供膳具	平和坂	5住		ほぼ完形	(9.80)	2.30	0.20	9後～10前		00『平和坂遺跡』
大和市											
199	鏃	下和田下ノ原	Bトレンチ		断片	(4.50)	2.60	0.30			91『下和田下ノ原遺跡』
200	鏃	下鶴間甲一号	Ⅲ地区7住	覆土	欠損	(7.30)	(3.30)	0.15	古墳後～奈良		91『下鶴間甲一号遺跡』
201	鏃	下鶴間甲一号	Ⅲ地区7住	床直	欠損	(7.50)	(2.30)	0.15	古墳後～奈良		〃
202	鏃	深見神社南	2住		断片	(5.70)	(2.20)	0.25	8後～9前		91『深見神社南遺跡』
203	鏃	台山	4住	覆土	欠損	(13.00)	2.60	0.30	10後		85『台山遺跡』
204	鏃	大塚戸	10住	覆土	完形	16.20	3.00	0.35	10前		94『大塚戸遺跡B地点・C地点』
205	鏃	大塚戸	10住	覆土	断片	(6.10)	2.90	0.35	10前		〃
綾瀬市											
206	供膳先	宮久保	1号集積地点		断片	(15.70)	2.90	1.50	奈良～平安		90『宮久保遺跡Ⅲ』
207	鏃	宮久保	15住	覆土	断片	(6.40)	3.80	0.30	8前		〃
208	鏃	宮久保	28住	床直	断片	(7.10)	1.60	0.20	8前		〃
209	鏃	宮久保	56住	床直	欠損	(8.40)	3.60	0.20	8後		〃
210	鏃	宮久保	60住	覆土	欠損	(12.80)	3.90	0.50	8後		〃
211	鏃	宮久保	63住	床直	欠損	(11.20)	4.40	0.20	8後		〃
212	鏃	宮久保	63住	床直	欠損	(9.10)	4.40	0.30	8後		〃
213	鏃	宮久保	82住	床直	欠損	(7.70)	3.10	0.30	8後		〃
214	鏃	宮久保	107住	床直	欠損	(6.70)	3.40	0.30	9後		〃
215	鏃	宮久保	124住	床直	断片	(5.30)	3.20	0.30	10前		〃
216	鏃	宮久保	124住	床下	断片	(2.60)	1.90	0.25	10前		〃
217	供膳具	宮久保	20住	床直	ほぼ完形	(10.20)	2.10	0.20	8前		〃
218	供膳具	宮久保	35住	覆土	ほぼ完形	(11.20)	1.60	0.20	8前		〃
219	供膳具	宮久保	41住	覆土	断片	(4.60)	2.00	0.20	8前		〃
220	供膳具	宮久保	56住	床直	欠損	(9.30)	2.10	0.30	8後		〃
221	供膳具	宮久保	56住	覆土	断片	(6.70)	1.60	0.30	8後		〃
222	供膳具	宮久保	56住	覆土	断片	(2.70)	2.10	0.20	8後		〃
223	供膳具	宮久保	101住	覆土	断片	(8.30)	2.00	0.20	9前		〃
224	供膳具	宮久保	106住	覆土	断片	(4.20)	1.90	0.20	9前		〃
225	供膳具	宮久保	111住	覆	ほぼ完形	(11.40)	2.10	0.30	9後		〃

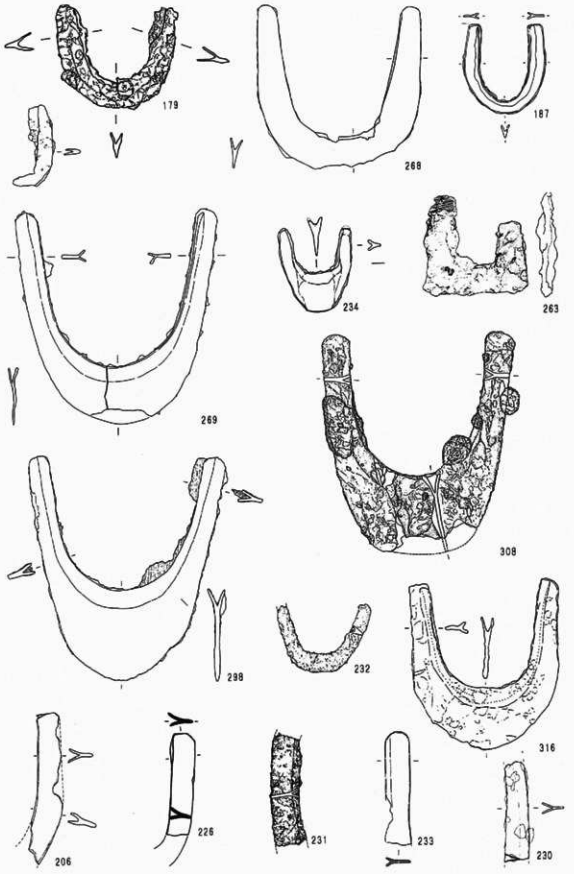
No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
海老名市											
226	鍬鋤先	上浜田	6住	ピット	断片	(11.00)	2.30	1.40	9前		79『上浜田遺跡 本文編』
227	鎌	上浜田	90住	覆土	欠損	(8.00)	2.00	0.30	8前		〃
228	鎌	上浜田	90住	竈	完形	16.80	3.40	0.40	8前		〃
229	鎌	上浜田	95住	覆土	ほぼ完形	(17.20)	3.60	0.30	8後		〃
230	鍬鋤先	本郷	SOW地区2住	床直	断片	(6.90)	2.20	0.70	平安	231と重なって出土	88『海老名本郷（V）』
231	鍬鋤先	本郷	SOW地区2住	床直	断片	(11.60)	3.00	0.90	平安		〃
232	鍬鋤先	本郷	SOE地区遺構外		ほぼ完形	(8.00)	(9.50)	0.70	奈良～平安		89『海老名本郷（Ⅶ）』
233	鍬鋤先	本郷	KE地区4住		断片	(11.80)	2.50	0.40	10後		〃
234	鍬鋤先	本郷	KOE-Ⅰ地区遺構外		完形	9.20	7.60	1.40			95『海老名本郷（XI-2）』
235	鍬鋤先	本郷	TRC地区20住	床直	断片	(10.40)	2.50	0.20	9後		96『海老名本郷（XIV）』
236	鎌	本郷	DO地区 3住	覆土	完形	10.80	2.10	0.30	8後		88『海老名本郷（Ⅱ）』
237	鎌	本郷	MPN地区13住		完形	14.00	3.20	0.30	平安		〃
238	鎌	本郷	OS地区1溝		欠損	(22.00)	6.70	0.30	平安～中世？		〃
239	鎌	本郷	SOE-Ⅱ地区30住	周溝	断片	(8.30)	3.00	2.50	平安		87『海老名本郷（Ⅲ）』
240	鎌	本郷	SOE-Ⅱ地区41住		断片	(6.50)	2.70	0.30	平安		〃
241	鎌	本郷	SOE-Ⅱ地区54住		断片	(6.20)	3.70	0.25	平安		〃
242	鎌	本郷	KOE地区36住	覆土	完形	18.90	5.00	0.22	平安		87『海老名本郷（Ⅳ）』
243	鎌	本郷	SOE-Ⅲ地区3住	覆土	断片	(7.20)	(2.60)	0.30	平安		89『海老名本郷（Ⅶ）』
244	鎌	本郷	RC地区2住	覆土	断片	(13.60)	(2.60)	0.20	奈良～平安		〃
245	鎌	本郷	RC地区5住	覆土	断片	(4.20)	2.60	0.20	奈良～平安		〃
246	鎌	本郷	RC地区6住	竈	断片	(6.70)	2.30	0.30	奈良～平安		〃
247	鎌	本郷	KA地区27住		ほぼ完形	(16.50)	3.80	0.20	10前		95『海老名本郷（XI-1）』
248	鎌	本郷	KA地区60住		完形	17.10	3.00	0.20	10前		〃
249	鎌	本郷	KA地区60住		ほぼ完形	(17.20)	3.20	0.20	10前		〃
250	鎌	本郷	KOE-Ⅰ地区27住		断片	(4.40)	2.20	0.20			95『海老名本郷（XI-2）』
251	鎌	本郷	KOE-Ⅰ地区19土坑		断片	(2.50)	1.80	0.20			〃
252	鎌	本郷	KOE-Ⅰ地区遺構外		断片	(2.30)	1.80	0.40			〃
253	鎌	本郷	TRC地区遺構外		断片		2.80	0.20			96『海老名本郷（XIV）』
254	穂摘具	本郷	MPN地区9住	覆土	欠損	(8.70)	1.90	0.20	平安		88『海老名本郷（Ⅱ）』
255	穂摘具	本郷	SOE-Ⅱ地区18住	竈	ほぼ完形	13.20	2.10	0.20	平安		87『海老名本郷（Ⅲ）』
256	穂摘具	本郷	SOE-Ⅱ地区18土坑		断片	(5.10)	2.00	0.15	奈良～平安		〃
257	穂摘具	本郷	KOE地区6住	覆土	断片	(3.20)	(2.00)	0.30	平安		87『海老名本郷（Ⅳ）』
258	穂摘具	本郷	KOE地区36住	覆土	完形	9.10	1.60	0.15	平安		〃
259	穂摘具	本郷	SOW地区2住	床直	欠損	(8.20)	2.30	0.15	平安		88『海老名本郷（V）』
260	穂摘具	本郷	RC地区5住	床直	断片	(4.20)	2.90	0.20	奈良～平安		89『海老名本郷（Ⅶ）』
261	穂摘具	本郷	KE地区32住	覆土	ほぼ完形	(9.70)	1.70	0.30	8後～9前		91『海老名本郷（Ⅷ）』
262	穂摘具	本郷	KE地区2溝	覆土	ほぼ完形	(12.00)	2.00	0.20	平安後期		〃
263	鍬鋤先？	望地	1住		欠損	(11.00)	10.80	1.50	平安		94『海老名市望地遺跡』
264	鎌	本郷中谷津、本郷池端	12住	床下	断片	(7.40)	3.30	不明	平安		99『本郷池端中谷津遺跡』
265	鎌	本郷中谷津、本郷池端	1住		ほぼ完形	(15.20)	3.40	0.15	8前		93『本郷中谷津遺跡第8次調査』
266	穂摘具	本郷中谷津、本郷池端	2住		ほぼ完形	(11.00)	2.40	0.20	9後～10前		98『本郷中谷津池端遺跡』
267	鍬鋤先	国分尼寺関連	4住	覆土	完形	22.00	18.80	1.40	9	写真のみ	89『相模国分尼寺関連遺跡 第1次調査発掘調査概報』
268	鍬鋤先	大谷真鯨	4住	床直	ほぼ完形	(17.60)	17.00	4.60	8前		92『大谷真鯨遺跡』
269	鍬鋤先	大谷向原	33住		ほぼ完形	(22.60)	21.30	1.20	9前		92『大谷向原遺跡』
270	鎌	大谷向原	6住		断片	(4.80)	4.10	0.20	9前		〃
271	鎌	大谷向原	7住		欠損	(19.40)	4.30	0.30	9前		〃
272	鎌	大谷向原	7住		断片	(6.90)	1.50	0.25	9前		〃
273	鎌	大谷向原	12住		断片	(2.70)	2.10	0.20	9前		〃

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量 (cm) 長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
274	鏃	大谷向原	18住		断片	(5.00)	1.70	0.10	9前		92『大谷向原遺跡』
275	鏃	大谷向原	22住		完形	18.50	2.70	0.25	9前		〃
276	鏃	大谷向原	22住		完形	18.60	3.30	0.15	9前		〃
277	鏃	大谷向原	57住		完形	12.60	1.80	0.20	7後		〃
278	鏃	大谷向原	62住		断片	(7.00)	2.70	0.10	8前		〃
279	鏃	大谷向原	62住		断片	(4.10)	4.15	0.20	8前		〃
280	鏃	大谷向原	64住		断片	(8.40)	2.60	0.20	8前		〃
281	鏃	大谷向原	64住		断片	(4.90)	2.00	0.20	8前		〃
282	鏃	大谷向原	82住		断片	(4.00)	(2.30)	0.20	8後		〃
283	鏃	大谷向原	89住		断片	(6.00)	1.60	0.25	9前		〃
284	鏃	大谷向原	90住		欠損	(11.10)	2.20	0.20	7後		〃
285	鏃	大谷向原	91住		断片	(5.30)	1.90	0.10	8前		〃
286	鏃	大谷向原	91住		断片	(7.00)	1.90	0.10	8前		〃
287	鏃	大谷向原	95住		断片	(5.40)	2.50	0.10	8前		〃
288	鏃	大谷向原	141住		断片	(3.10)	(2.25)	0.20	9後～10前		〃
289	鏃	大谷向原	遺構外		完形	17.60	2.75	0.20			〃
290	鏃	大谷向原	遺構外		断片	(5.60)	2.60	0.20			〃
291	地摘具	大谷向原	64住		ほぼ完形	(11.50)	1.70	0.10	8前		〃
292	鏃	大谷市場	9住	覆土	欠損	(9.20)	4.00	0.30	7前		03『大谷市場遺跡発掘調査報告書』
293	鏃	大谷市場	10住	覆土	欠損	(8.80)	3.60	0.30	7後		〃
294	鏃	大谷市場	32住	覆土	欠損	(6.80)	3.00	0.20	7後		〃
茅ヶ崎市											
295	鏃	上ノ町	12住	覆土	欠損	(7.90)	(1.90)	0.30	8前		03『上ノ町遺跡』
296	鏃	西方A	33住	覆土	ほぼ完形	(15.60)	3.00	0.50			03『下寺尾西方A遺跡』
297	鏃	西方A	12掘立		断片	(4.40)	2.00	0.30	8前		〃
寒川町											
298	鍛冶先	倉見才戸	8土坑	覆土	ほぼ完形	(23.70)	20.50	1.80	7後～8前		01『倉見才戸遺跡第4次調査発掘調査報告書』
藤沢市											
299	地摘具	No.258	1住	覆土	ほぼ完形	(11.00)	(2.00)	(0.50)			95『藤沢市文化財調査報告書　第30集』
300	鏃	大庭築山	401住	床直	完形	14.50	2.00	0.40	8		71『藤沢市文化財調査報告書　第16集』
301	鏃	川名清水	70AA住	周溝	欠損	(9.70)	2.80	0.20	8		00『藤沢市川名清水遺跡発掘調査報告書』
302	鏃	西部212地点	4住	床直	断片	(2.60)	(2.60)	0.25			92『藤沢市西部周発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書 西部213地点遺跡』
303	鏃	西部212地点	13住		欠損	(8.60)	(3.50)	0.30	平安		〃
304	鏃	西部212地点	27住		完形	8.80	2.70	0.30	平安		〃
305	鏃	西部215地点	遺構外		欠損	(9.00)	4.00	0.20			83『藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書 西部215地点遺跡』
306	鏃	大源太	34住		完形	15.20	3.30	0.30			84『大源太遺跡の発掘調査』
307	鏃	長後上ノ原	2住		欠損	(8.50)	(2.80)	(0.90)	9後～10		99『藤沢市長後上ノ原（No.372）など遺跡発掘調査報告書』
308	鍛冶先	池の辺	遺構外		ほぼ完形	(23.10)	20.50	1.20			80『他の2』
309	鏃	池の辺	72住	竈	欠損	(8.30)	2.70	0.25			〃
310	地摘具	池の辺	2住	竈	完形	9.50	1.90	0.20			〃
311	鏃	若尾山	11住		欠損	(14.10)	3.30	0.35	7後～8前		98『若尾山（藤沢市No.36）遺跡 藤沢市立大道小学校内地点』
312	鏃	若尾山	11住		ほぼ完形	(15.20)	3.70	0.35	7後～8前		〃
313	鏃	若尾山	25住	覆土	欠損	(8.30)	2.20	0.50	7後～8前		〃
314	鏃	若尾山	25住	覆土	断片	(3.20)	(3.40)	0.30	7後～8前		〃
鎌倉市											
315	鏃	台山藤源治	遺構外		完形	16.90	3.40	0.30	奈良～平安	左鏃	85『台山藤源治遺跡』
316	鍛冶先	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		完形	18.20	15.60	1.20	8前		96『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書（第1分冊・古代編）』
317	鏃	由比ヶ浜中世集団墓地	VIG2貝塚状		断片	(6.10)	2.10	0.40	8前		97『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書<第一次調査>（第1分冊・古代編）』

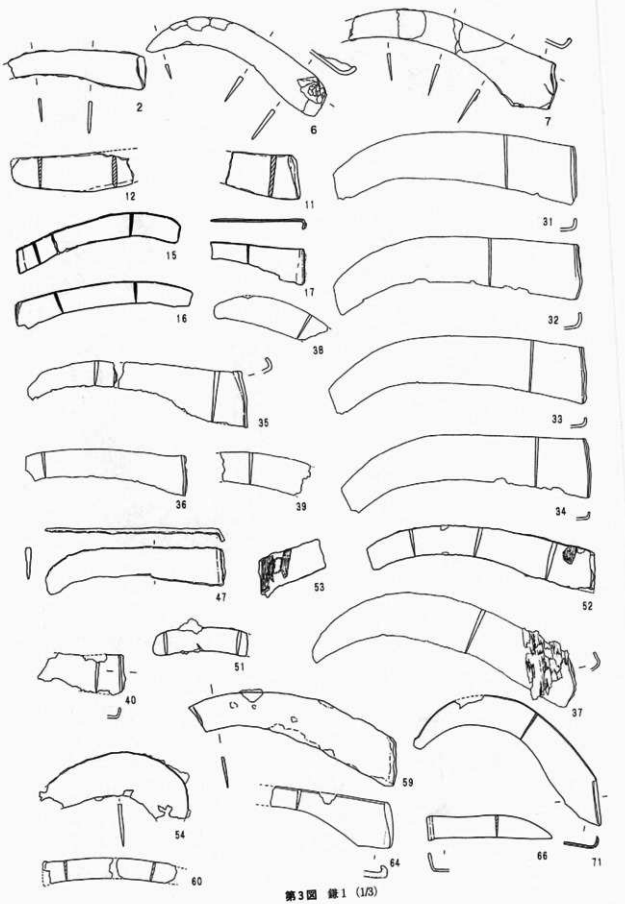
No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量(cm) 長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
318	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	1住		完形	16.30	1.20	0.33	8前		97『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書<第一次調査>(第1分冊・古代編)』
319	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	19ピット		欠損	(14.70)	3.00	0.30	8後～9前		96『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書(第1分冊・古代編)』
320	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	貝塚状		断片	(6.20)	2.90	0.40	8中以降		〃
321	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		完形	15.00	1.90	0.34	8前		〃
322	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		断片	(8.20)	2.20	0.40	8前～10		〃
323	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		断片	(4.90)	3.20	0.60	8後～9		〃
324	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		完形	14.10	2.00	0.31	8		〃
325	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		欠損	(6.60)	1.10	0.30	8前		〃
326	穂摘具	由比ヶ浜中世集団墓地	9住		完形	10.10	1.60	0.20	9前		〃
327	穂摘具	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		完形	10.20	1.80	0.20	8後～9		〃
逗子市											
328	鎌	池子	No.4地点1溝		断片	(7.50)	2.30	0.20			『池子遺跡群Ⅵ』
329	鎌	池子	No.4地点1溝		断片	(5.10)	(2.60)	0.20			〃
330	鎌	池子	No.9地点遺構外		欠損	(8.60)	(2.90)	(0.30)	奈良～平安		『池子遺跡群Ⅴ』
331	鎌	池子	No.9地点遺構外		欠損	(8.20)	(2.50)	(0.15)	奈良～平安		〃
横須賀市											
332	鎌	コウロ	1住	覆土	ほぼ完形	15.00	2.60	0.20	9以降		97『横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
333	鎌	コウロ	1住	覆土	欠損	18.80	3.60	0.30	9以降		〃
334	鎌	内原	J地区3住	覆土	断片				古墳後～平安	写真のみ	03『長井台地遺跡群　内原遺跡』
335	鎌	内原	J地区5住	覆土	断片				古墳後～平安	写真のみ	〃
336	鎌	小荷谷	1竪穴状	覆土	完形	16.50	3.90	0.23	古墳後～平安		94『小荷谷遺跡』
337	鎌	上吉井南	4住	床直	完形	17.00	3.50	0.50	平安		97『吉井・池田地区遺跡群Ⅰ』
338	鎌	上吉井南	4住	床直	欠損	(12.00)	3.50	0.50	平安		〃
339	鎌	上吉井南	遺構外		断片	(3.90)	2.90	0.20	平安		〃



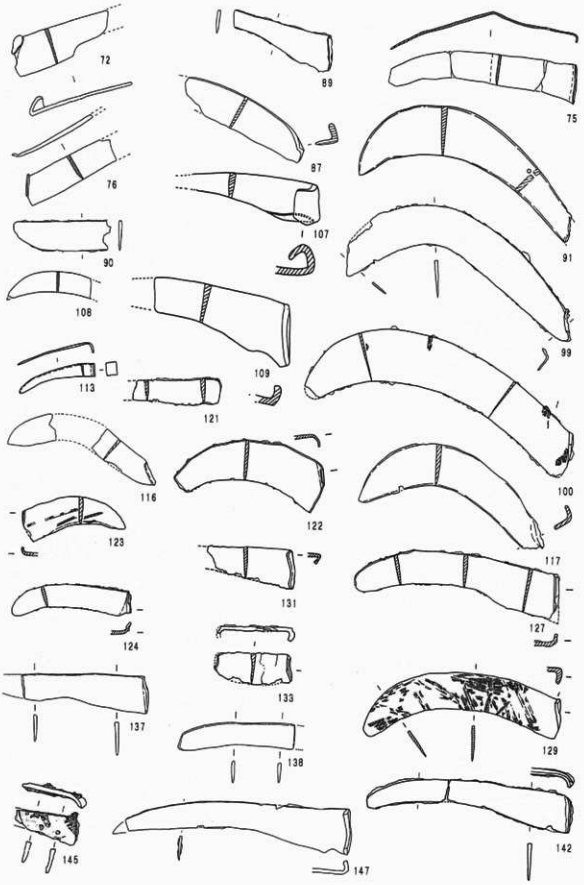
第1図　鍬鋤先1（1/4）



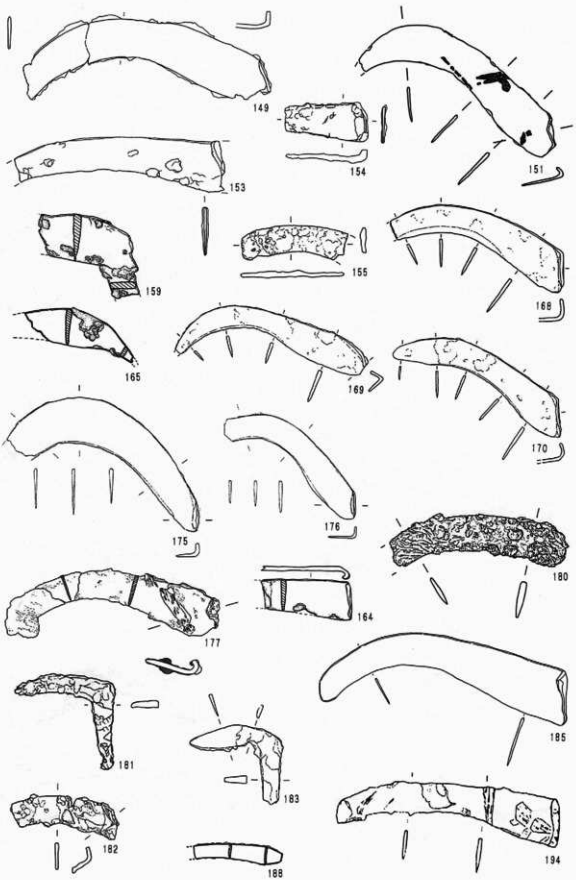
第2図　鍬鋤先2（1/4）


2
6
7
12
11
31
15
17
32
16
38
35
33
36
39
34
47
53
52
51
37
40
59
54
64
66
71
60

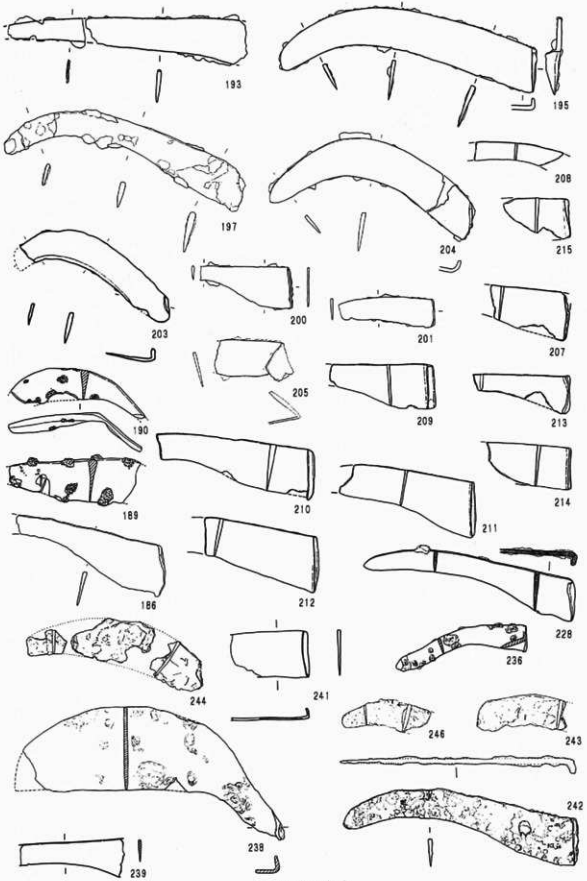
第3図　鎌1 (1/3)


72
89
75
87
76
107
91
90
108
99
109
113
121
116
100
122
123
117
131
124
127
133
137
129
138
145
147
142

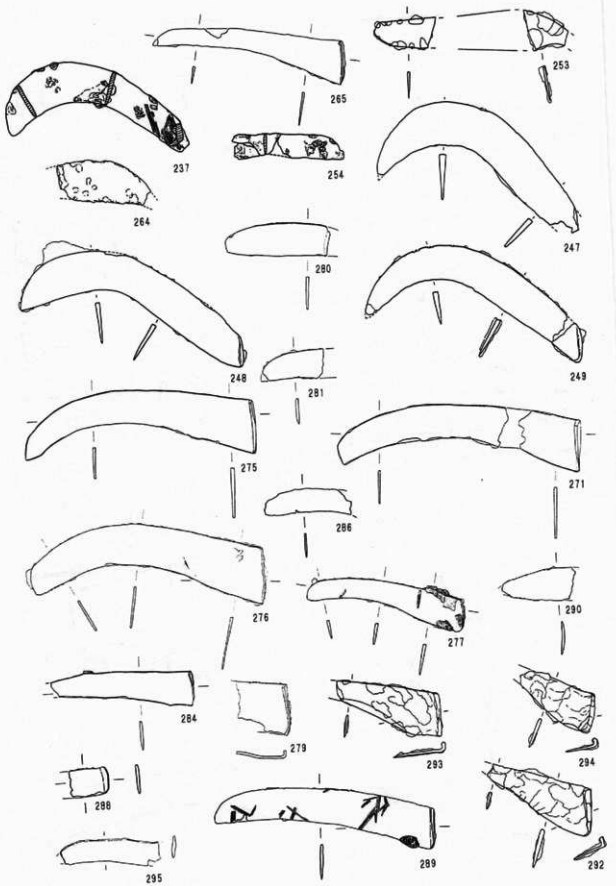
第4図　鎌2（1/3）


149
151
153
154
155
159
165
168
169
170
175
176
177
180
181
182
183
185
188
194

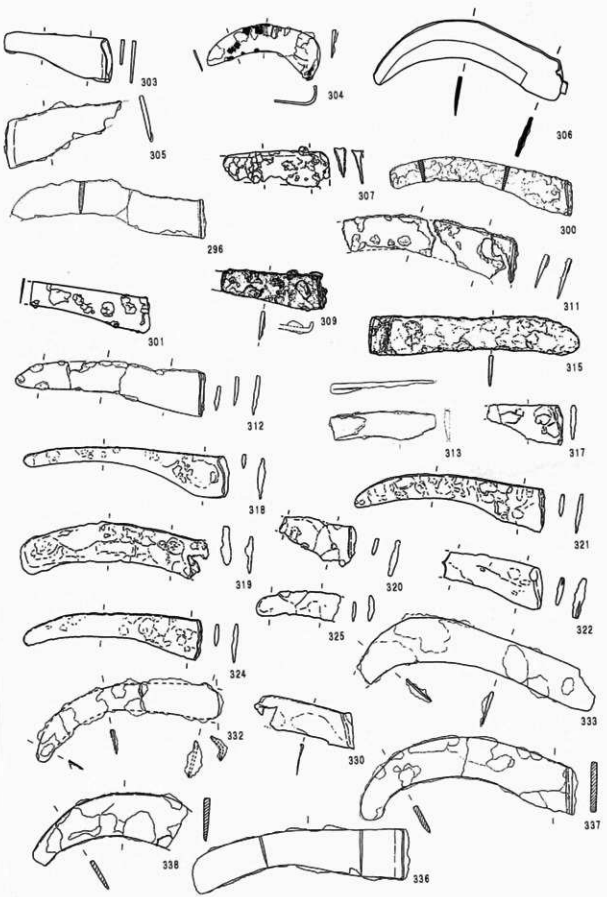
第5図　鎌3 (1/3)


193
195
197
204
208
215
203
200
201
207
205
209
213
190
210
214
189
211
186
212
228
244
241
236
246
243
238
242
239

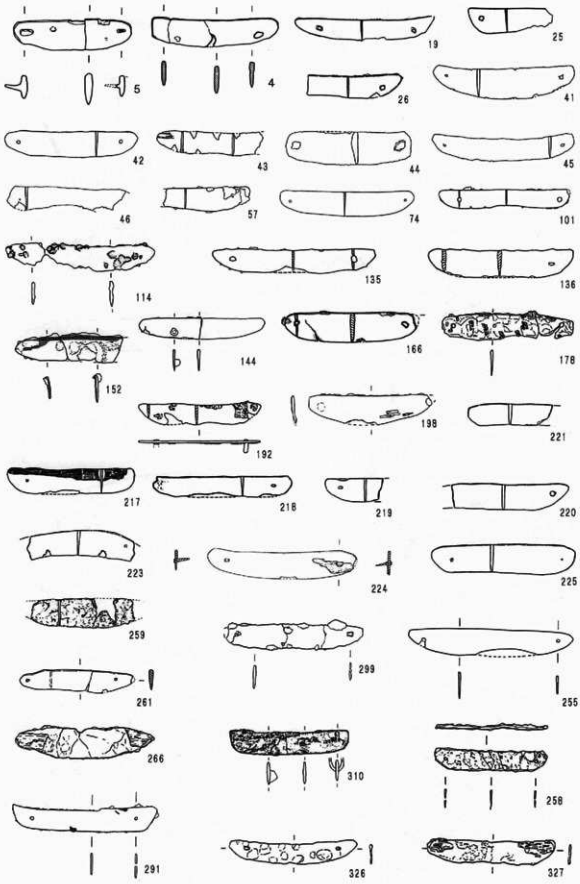
第6図　鎌4（1/3）


265
253
237
254
264
247
280
248
281
249
275
271
286
276
277
290
284
279
293
294
288
289
295
292

第7図　鎌5（1/3）


303
304
306
305
307
296
300
311
301
309
315
312
313
317
318
321
319
320
322
325
324
333
332
330
337
338
336

第8図　鎌6（1/3）


19
25
5
4
26
41
42
43
44
45
46
57
74
101
114
135
136
144
166
178
152
192
198
221
217
218
219
220
223
224
225
259
299
261
255
266
310
258
291
326
327

第9図　穂摘具1（1/3）

神奈川県内の「やぐら」集成（4）

－「やぐら」出土の土器・陶磁器類について－

中世研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトでは、平成14年度から、中世の神奈川を特色づける遺構である「やぐら」の共同研究を行っており、これまで基礎的なデータの集成を主に行ってきた。14年度は発掘調査が実施された「やぐら」に関する調査データの集成を行い、15年度は上行寺東やぐら群を中心とする横浜市南部地域の「やぐら」群を対象に、分布状況、形態的特徴、出土遺物等から検討を加えた。昨年度は「やぐら」から出土する遺物の検討の端緒として、石塔類のデータ収集を行った。今年度は当初、昨年度収集したデータを元に、石塔類の分布やあり方について検討を行う予定であったが、その前に「やぐら」から出土する遺物の基礎的なデータ集成が必須と考え、今年度は「やぐら」出土の土器・陶磁器類についてデータを集成することとした。

来年度以降、これらのデータを元に「やぐら」出土遺物の特徴や、出土遺物から見た「やぐら」の様相について検討を加えていきたいと考えている。

なお、今回データ収集対象とした調査事例の中には、平成14年度集成以後に発行された報告書に基づく者や、前回集成で遺漏があったものも含まれている。これらについては新たに遺跡（調査）番号、文献番号を付し、補遺として末尾に掲載した。

「やぐら」出土土器・陶磁器類集成表 例言

1．本集計表は2005年12月現在公刊されている発掘調査報告書に基づき、「やぐら」及び「やぐら」に類する遺構から出土した土器・陶磁器類を集成したものである。
2．発掘調査報告以外の、分布調査、資料紹介等で報告されているものは除外した。
3．一覧表は横浜市、鎌倉市、横須賀市、逗子市、三浦市、葉山町の順に作成した。
4．遺跡番号は平成14年度紀要（「やぐら」集成（1））および平成16年度紀要（「やぐら」集成（2））と同じ番号を付している。2005年1月以降に報告書が刊行された調査例および遺漏分は新たな番号を付している。
5．文献番号は後出の文献一覧と対応する。
6．出土遺構名は報告書記載の遺構名に従った。
7．出土遺物の種別・器形名称は原則として統一しており、報告書と異なる場合がある。しかし、限定が困難な場合、報告書の記載に準じて標記しているものもある。
8．明らかに中世の所産ではない古代以前、近世以降の出土遺物については制受した。
9．年代は報告書の記載に準じた。報告書に具体的な年代の記載がないものについては、図面・写真からの推定したものもある。
10．出土点数は報告書に数量の記載があるものはその合計数、ないものは図示されているものを計数した。このため、必ずしも統一的な基準による出土量（数）を表してはいない。

第1表　「やぐら」出土土器・陶磁器類一覧表

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
釜利谷やぐら群	7号窟	かわらけ1		1
瀬戸町やぐら群（金龍院やぐら群）	第3号やぐら	かわらけ6	15世紀後半	2
	第4号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ1	15世紀後半以降	
	第5号やぐら	瀬戸窯折縁深皿1、筒形容器1、常滑窯甕1、かわらけ4	14世紀後半～15世紀後半	
	第9号やぐら	常滑窯甕1	15世紀後半	
上行寺東やぐら群	1号窟	瀬戸窯甕錆釉擂鉢2・灰釉鉢1・皿1、常滑窯甕3、かわらけ21、瓦質三宝1・土風呂1	15世紀・16世紀	3
	2号窟	青磁大皿1、青白磁梅瓶1、瀬戸窯灰釉折縁皿1、かわらけ2	15世紀	
	19号やぐら	古瀬戸灰釉巴文瓶子1、鉄釉仏花瓶1、灰釉鉢または皿1、常滑窯壺1、甕1、擂鉢2、かわらけ17	14世紀中頃～16世紀初頭以降	4
	20号やぐら	常滑窯玉縁口縁壺1、鉢1、かわらけ6	14世紀代、15世紀後半以降	
	21号やぐら	景徳鎮窯青白磁蓋1、常滑窯擂鉢1、かわらけ8	14世紀後半～16世紀前半	
	22号やぐら	古瀬戸灰釉劃花文瓶子1、常滑窯玉縁口縁壺4、常滑窯壺1、甕1、かわらけ48	14世紀中頃～16世紀初頭	
	23号やぐら	常滑窯片口鉢1、瓦質火鉢1、かわらけ11	14世紀後半～15世紀前半	
	41号やぐら	白磁碗1、かわらけ1	14世紀中頃～後半	
	9号やぐら	古瀬戸緑釉小皿1、常滑窯甕7・片口鉢1、備前擂鉢1、かわらけ15	14世紀後半～16世紀初頭	
	10号やぐら	龍泉窯青磁小皿1、古瀬戸灰釉端反小皿1、常滑窯甕4、山茶碗窯系擂鉢1、羽釜1、かわらけ12	14世紀後半～16世紀初頭	
	12号やぐら	かわらけ2	15世紀前葉～中葉	
	13号やぐら	かわらけ3	15世紀中頃～後半	
	24号やぐら	常滑窯玉縁口縁壺2、かわらけ7	14世紀後半～15世紀前半	
	17号やぐら	古瀬戸灰釉三耳壺1	15世紀初頭	
	18号やぐら	からわけ4	15世紀後半	
	43号やぐら	古瀬戸灰釉菊花文瓶子1、古瀬戸灰釉水注1	14世紀後半～15世紀前半	
	1号やぐら	古瀬戸鉄釉屑歯き茶入1	14世紀後半～15世紀前半	
	14号やぐら	龍泉窯系蓮弁文青磁碗1、古瀬戸緑釉皿1、山茶碗窯系片口鉢1、常滑窯甕1、かわらけ4	14世紀後半～15世紀中頃	
	26号やぐら	かわらけ2	14世紀後半	
	33号やぐら	かわらけ3	15世紀後半	
	34号やぐら	灰釉古瀬戸瓶子1・鉄釉花瓶片1・鉄釉蓮弁文香炉1・灰釉広口壺1・灰釉鉢1、常滑窯鳶口壺2・不識（広口壺）1、玉縁口縁壺1、かわらけ15	14世紀末葉～15世紀初頭	
	35号やぐら	古瀬戸灰釉劃花文広口壺1・鉄釉合子身1・灰釉尊形花瓶1・直線大皿2、常滑窯甕、瓦器花瓶・火鉢	14世紀前半～15世紀前半	
	36号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ1、瓦器火鉢	14世紀後半～15世紀中頃	

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
上行寺東やぐら群	37号やぐら	中国製白磁碗1、古瀬戸灰釉袋物1、壺台片1・灰釉直縁大皿1、白かわらけ1、常滑擂片口鉢1・壺口縁1・甕5・片口鉢、瓦器火鉢2、かわらけ16	13世紀第3四半期～15世紀第2四半期	4
	38号やぐら	常滑窯片口鉢1、瓦器火鉢1、中国製鉄釉器台1、かわらけ3	15世紀～16世紀前半	
	39号やぐら	古瀬戸灰釉瓶子1・緑釉小皿1・卸皿1、常滑窯甕3、羽釜瓦器火鉢4、かわらけ14	14世紀初頭～16世紀初頭	
	40号やぐら	古瀬戸灰釉椅腰形香炉・灰釉筒形香炉・卸皿・灰釉直縁大皿、常滑窯片口鉢1・甕6、かわらけ9	15世紀～16世紀	
六浦大道やぐら群	1号やぐら	かわらけ99	15世紀後半～16世紀前半	5
	6号やぐら	かわらけ3	15世紀後半～16世紀前半	
	8号やぐら	かわらけ9	15世紀後半～16世紀前半	
	15号やぐら	かわらけ1	15世紀後半～16世紀前半	
六浦北部遺跡	第9号横穴	かわらけ3、常滑系蔵骨器1		6
六浦三艘地区やぐら群	第2号やぐら	かわらけ	17世紀初頭	7
番場ヶ谷やぐら群	第4号やぐら	かわらけ4	14世紀前半～中葉	8
	第9号やぐら	かわらけ5	14世紀前半～中葉	
	第13号やぐら	瀬戸窯香炉1、かわらけ2	14世紀前半～中葉	
	第14号やぐら	かわらけ3	14世紀初頭～前半	
	第15号やぐら	かわらけ2	14世紀中葉	
	第17号やぐら	かわらけ1	14世紀後半以降	
	第19号やぐら	かわらけ2	14世紀後半	
十二所稲荷小路遺跡内やぐら	1号窟	常滑窯甕1、かわらけ	14世紀前半～中葉	9
	2号窟	かわらけ1		
器ヶ沢やぐら群	1号窟（前面）	かわらけ2、瓦1		10
	2号窟（前面・玄室）	瀬戸窯灰釉片口鉢・鉄釉擂鉢、かわらけ2、瓦2		
	3号窟	瀬戸窯鉄釉瓶1、瓦2		
	4号窟	常滑窯甕、かわらけ17	14世紀	11
	3号窟西側	かわらけ3、瓦13		
光触寺旧境内遺跡内やぐら	4号窟	かわらけ4	14世紀後半	12
光触寺橋やぐら	1号やぐら	かわらけ7	14世紀中葉	13
明石谷やぐら群	1号やぐら	常滑窯甕片5、かわらけ10	15世紀末～16世紀初頭	14
	3号やぐら	常滑窯甕片3、かわらけ3	15世紀末～16世紀初頭	
	1号窟	常滑窯甕3、かわらけ1	14世紀後半	15
明石谷東やぐら群	1号やぐら	かわらけ11、平瓦1、丸瓦2	14世紀中葉～15世紀中葉	16
	2号やぐら	瀬戸窯直溝大皿1	16世紀	
公方屋敷跡内やぐら	1～3号窟・前面遺構	瀬戸窯灰釉水注1・碗1、瓦質器、かわらけ25		17
	2号窟前面	瀬戸窯行平、かわらけ	15世紀代～近世以降	18
	1号窟	かわらけ8	14世紀後半～15世紀前半	19
	2号窟	龍泉窯系青磁鏑連弁文碗1、瀬戸窯鉄釉天目碗1、かわらけ4	14世紀後半～15世紀前半	
	3号窟	瀬戸窯灰釉折縁鉢1・卸皿1、備前窯擂鉢1、瓦質器1、かわらけ13	14世紀後半～15世紀前半	

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
公方屋敷跡内やぐら	第２平場	青磁連弁文碗１・碗１、瀬戸窯灰釉折縁鉢１・入子、常滑窯甕・片口鉢、山茶碗窯系片口鉢、かわらけ4617、かわらけ質小壺１	14世紀後半～15世紀前半	19
宅間ヶ谷やぐら群	１号窟	かわらけ２、瀬戸窯灰釉瓶子１、常滑窯片口鉢２、瓦質手焙り１、瓦１	14世紀後半	20
	やぐら上平場	常滑、かわらけ		
報国寺遺跡内やぐら		かわらけ１	16～17世紀？	21
宅間谷西第２やぐら群	１号やぐら	常滑窯大甕２、かわらけ32、瓦器土風呂１	14世紀前半～15世紀後半	22
	３号やぐら	常滑窯甕８、かわらけ２	14世紀末～15世紀前半	23
浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡	第１号やぐら	かわらけ13、常滑窯甕２、鉄釘１	14世紀前半	24
	第２号やぐら	瀬戸窯鉄釉陰花文水滴１、備前窯擂鉢１、かわらけ43		
瑞泉寺周辺遺跡内やぐら	１号窟	瀬戸窯灰釉碗１、常滑窯甕、かわらけ29	15世紀中葉	25
	２号窟	かわらけ１		
紅葉ヶ谷南やぐら群	第１号やぐら	白磁皿１、瀬戸窯緑釉皿２・直縁大皿２・折縁深皿１、常滑窯甕８・片口鉢１、かわらけ83・かわらけ質燭台１、盞１、滑石製石鍋１、瓦	13世紀～15世紀後半	26
	第２号やぐら	瀬戸窯天目茶碗１、瓦質火鉢１、かわらけ４	15世紀前半～後半	
覚園寺総門跡東やぐら群	１号やぐら	瀬戸窯志野釉皿１、灰釉小壺１、かわらけ17、瓦器香炉１、火鉢１	15世紀後半～16世紀代	27
	３号やぐら	瀬戸窯灰釉平碗２、かわらけ５	14世紀後半～15世紀後半	
		龍泉窯系青磁皿１・碗１、瀬戸窯灰釉直縁大皿１・瓶子１・他２、常滑窯甕４、山茶碗窯系片口鉢１、かわらけ８、	15世紀	28
	５号やぐら	瀬戸窯灰釉折縁皿２、常滑窯甕２、かわらけ４	14世紀前半～後半	29
会下山西やぐら群	１号やぐら	瀬戸窯灰釉輪花入子１、瓦質火鉢２、かわらけ４	13世紀末～14世紀中葉	30
	２号やぐら	青白磁鉢１、白磁碗１、瀬戸窯灰釉鉢１、山茶碗窯系片口鉢１、伊勢系土鍋１、かわらけ７、瓦器１	13世紀末～14世紀前半	
天王寺跡やぐら	１号窟	白磁碗１・不明１、龍泉窯系青磁連弁文碗２、碗４、青白磁１、褐釉壺２、瀬戸窯灰釉折縁皿２・鉄釉瓶子１・鉄釉仏華瓶２・灰釉水注１、常滑窯甕３・片口鉢１、瓦質器３、かわらけ295、土師質手焙り１、瓦１	14世紀	31
	２号窟	龍泉窯系青磁１、瀬戸窯製品１、常滑窯甕５、瓦質器１かわらけ36、		
天王寺跡やぐら	窟	青白磁碗１、瀬戸窯灰釉筒型容器１・瓶子１・折縁皿１・常滑窯片口鉢１・甕１、瓦質器燭台脚１・火鉢１・香炉１、かわらけ23		32
	平場	龍泉窯系青磁碗１、瀬戸窯灰釉製品１・折縁皿（転用）１、常滑窯甕２、かわらけ57	14世紀～15世紀	
大倉幕府北遺跡	１号やぐら	瀬戸窯灰釉腰折皿１・碗、常滑窯壺１・甕３・片口鉢１、瓦質器２、かわらけ20、瓦１	14世紀？	33
	２号やぐら	青白磁梅瓶１、瀬戸窯灰釉碗２・卸皿１、常滑窯甕２、かわらけ21、瓦１	14世紀？	
大倉幕府北やぐら群	１号やぐら	白磁四耳壺５、瀬戸窯折縁皿１・盤１、美濃系山茶碗１、渥美窯甕26、備前窯擂鉢２、常滑窯甕96・片口鉢２、かわらけ710、瓦質火鉢７、丸瓦１、平瓦２	13世紀後半～15世紀初頭	34
	２号～５号やぐら	かわらけ235	13世紀後半～15世紀	

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
杉本城跡内やぐら	1号窟	常滑窯製品		35
	2号窟	かわらけ411	14世紀中葉～末	
杉本寺南やぐら		かわらけ		36
杉本寺周辺遺跡内やぐら	1号窟	白磁碗1、龍泉窯系青磁皿3・華瓶1、瀬戸窯灰釉仏華瓶1・灰釉瓶子1・鉄釉鉢1、常滑窯甕42・片口鉢1、渥美窯甕2、瓦質器5、かわらけ249、瓦2		37
	2号窟	瀬戸窯製品3、常滑窯甕33・片口鉢3、山茶碗窯系片口鉢、備前窯擂鉢、瓦質器1、かわらけ39		
	3号窟	常滑窯甕4、かわらけ4 5		
	4号窟	青白磁水注1、瀬戸窯灰釉折縁皿1・黒釉天目碗1・長石釉天目碗1・灰釉擂鉢1・鉄釉擂鉢1・壺類、常滑窯甕91・片口鉢3、備前窯擂鉢1、瓦質器9、かわらけ600、瓦1		
	5号窟	白磁1、龍泉窯系青磁1、瀬戸窯灰釉折縁皿2・灰釉卸皿1・灰釉茶入1・鉄釉仏華瓶2、常滑窯甕36・片口鉢4、かわらけ529、瓦2、瓦質器		
	窟前溝（1,2号窟間）	瀬戸窯灰釉折縁皿3・灰釉製品1、常滑窯甕14・片口鉢3、東海系鍔釜1、伊勢系土鍋1、瓦質灯明皿1・瓦質器3、かわらけ157		
	窟前溝（3,4号窟間）	瀬戸窯灰釉皿1、常滑窯甕2・片口鉢2、かわらけ45、瓦1		
西御門東やぐら群	1号やぐら	常滑窯甕12、瓦質火鉢3、かわらけ4	14世紀後半～16世紀初頭	38
	2号やぐら	かわらけ127、伊勢系鍔釜1	14世紀後半～15世紀	
	3号やぐら	青磁蓮弁文鉢1、常滑窯片口鉢1・甕9、かわらけ22	14世紀後半～15世紀前半	
	5号やぐら	古瀬戸広口有耳壺1、常滑窯甕片6、かわらけ8	15世紀～16世紀	
	6号やぐら	白磁口禿皿1、瀬戸窯天目茶碗1・小壺1、常滑窯甕1、かわらけ200	14世紀前半～15世紀前半	
	7号やぐら	青磁蓮弁文碗2・皿2・盤1・他7、白磁口禿皿1、瀬戸窯折縁深皿1・折縁皿1・卸皿3・皿または鉢1・盤1・壺または瓶1・柄付片口1、常滑窯甕65・広口壺1・鉢16、備前窯擂鉢2、山茶碗窯系鉢1、かわらけ6526、瓦質火鉢10・土釜1	13世紀後半～15世紀	
	8号やぐら	瀬戸窯灰釉皿片1、かわらけ95	15世紀後半～16世紀	
	9号やぐら	青磁碗1・蓮弁文碗1・皿1・香炉1・酒会壺壷1・硯滴1・他3、白磁皿19、青白磁小壺1・梅瓶1・他1、染付瓶1、舶載系陶器片5、瀬戸窯平碗1・天目茶碗1・縁釉皿1・卸皿1・直縁大皿2・皿1・瓶2・擂鉢1、常滑窯甕・壺83・片口鉢4、かわらけ2348、瓦質火鉢2・獣足1・香炉1	13世紀後半～15世紀前半	
	10号やぐら	青磁蓮弁文皿1・皿2、瀬戸窯天目茶碗1・縁釉皿3・瓶子2・擂鉢1、常滑窯甕1・片口鉢6、山茶碗窯系片口鉢1、備前窯擂鉢1、かわらけ58、瓦質火鉢5・脚台2・土釜1	14世紀初頭～15世紀後半	39
名越山王堂跡	やぐら状遺構	龍泉窯系青磁酒会壷3、仏華瓶1、鎬連弁文碗1、青白磁仏華瓶1、白磁口兀皿1・仏華瓶2・小壷1・壷1、瀬戸窯鉄釉筒形茶入1・灰釉折縁鉢1・灰釉卸皿1、常滑窯甕12、亀山窯甕3、かわらけ68、滑石製鍋1	14世紀後半	40

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
山王堂東谷やぐら群	第1号やぐら	かわらけ76	14世紀中葉	41
	1号やぐら	瀬戸窯灰釉四耳壷1・灰釉仏花瓶2・入子1・天目茶碗1、常滑窯甕10・擂鉢1、かわらけ647	13世紀中葉～後半、14世紀前半	42
	2号やぐら	瀬戸窯壺2、かわらけ11	14世紀中葉	
	3号やぐら	瓦器香炉蓋1・土鍋1、かわらけ22、滑石製石鍋1	14世紀中葉	
	4号やぐら	かわらけ14	13世紀末～14世紀前半	
	6号やぐら	瀬戸窯天目茶碗1・灰釉壺1、常滑窯甕1・片口鉢1、瓦質火鉢1・脚台1、かわらけ14、平瓦1	15世紀代	43
	7号やぐら	青磁蓮弁文碗1・東口碗1、瀬戸窯小鉢1、常滑窯甕2、かわらけ3	13世紀後半～15世紀代	44
	8号やぐら	瀬戸窯壺1、常滑窯広口壺1・甕1、かわらけ199、瓦質火鉢1・風呂1、平瓦1	13世紀初頭・15世紀前半	
	9号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ29	14世紀末～15世紀前半	
	11号やぐら	瀬戸窯碗子1点、常滑窯片口鉢2・壺2・甕11、かわらけ171	14世紀前半	45
八雲神社境内		龍泉窯系青磁坏1、常滑窯壺1・甕5、かわらけ23、瓦1	13世紀末～14世紀	46
弁ヶ谷東やぐら群	第1号やぐら	常滑窯大甕1	14世紀初頭～14世紀中頃	47
新善光寺跡内やぐら	1号やぐら	瀬戸窯天目碗1・擂鉢1、常滑窯壺1、かわらけ5	17世紀前葉	48
	2号やぐら（玄室）	瀬戸窯天目碗1、常滑窯甕2、かわらけ4、瓦質器1	14世紀後葉～15世紀前葉、16世紀後半～17世紀前葉	
	2号やぐら（前庭部）	青白磁梅瓶1、青磁酒会壷壷1、青磁碗1、黒釉壺1、瀬戸窯折縁皿1、常滑窯甕5、瓦質器4、かわらけ7、瓦2		
	コ字区画遺構（上段遺構）	かわらけ14、瓦質器		
	コ字区画遺構（中段遺構上層）	かわらけ4		
	コ字区画遺構（中段遺構）	かわらけ8	14世紀後葉	
	コ字区画遺構（中下段遺構）	かわらけ34		
	コ字区画遺構（下段遺構）	白磁四耳壷1、常滑窯片口鉢1、かわらけ7、瓦1	14世紀前半～中葉	
	第1号やぐら	青磁折縁皿1・蓮弁文碗2・皿8・盤1、白磁碗1・皿2、青白磁皿2、瀬戸窯灰釉折縁皿1・灰釉平碗1、灰釉卸皿1、鉄釉香炉1、常滑窯甕6・壺1、かわらけ8	13世紀中頃～15世紀中頃	49
	第2号やぐら	白磁碗1、青白磁皿1、瀬戸窯灰釉折縁深皿1、鉄釉広口壺1、常滑窯甕2、かわらけ3	14世紀前半・15世紀前半	
弁ヶ谷遺跡やぐら群	1号窟	白磁入子1、瀬戸窯灰釉折縁鉢1・灰釉直縁大皿1、常滑窯甕、備前窯擂鉢1、瓦質器1、かわらけ14	14世紀	50
弁ヶ谷やぐら群	第1号やぐら	瀬戸窯緑釉皿1、灰釉卸皿1、かわらけ6、瓦質火鉢1・土風呂1	14世紀後半～15世紀後半	51
長勝寺跡内やぐら群	第1号やぐら	かわらけ18	15世紀後半～16世紀初頭	52
	3号やぐら	かわらけ片2		53

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
長勝寺跡内やぐら群	5号やぐら	瀬戸窯壺1、常滑窯甕2、かわらけ4	16世紀前葉～中葉	53
	6号やぐら	志野鉄絵皿片1、かわらけ2	16世紀後半	
	8号やぐら	常滑窯甕片1		54
	11号やぐら	龍泉窯系青磁香炉1、瀬戸窯擂鉢1、常滑窯瓶1、かわらけ2	13世紀末～16世紀	
	13号やぐら	かわらけ1		
	14号やぐら	龍泉窯系青磁鉢1、かわらけ2	14世紀・16世紀後半	
	15号やぐら	瀬戸美濃擂鉢1、かわらけ2、瓦質土釜1	14世紀末～16世紀前半	
	16号やぐら	かわらけ6	16世紀後葉	
畑源院下やぐら群	第2号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1・筒香炉1、常滑窯甕1、かわらけ4		55
	第4号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1、常滑窯片口鉢1、瓦1	14世紀	
	第3号やぐら	かわらけ1		56
	第6号やぐら	白磁皿1、青磁鉢1、かわらけ1		
	第3号やぐら	かわらけ片		57
	第6号やぐら	龍泉窯系青磁鏑連弁文碗1、褐釉壺1、黒釉壺1、黄瀬戸小皿1、常滑窯甕3・捏鉢1、かわらけ7、瓦質火鉢1、土師質火鉢1	13世紀～15世紀	
西管領屋敷南やぐら群	第3号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1、かわらけ1		58
	第5号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1、常滑窯甕1		
	第3号やぐら	かわらけ1		56
正法寺遺跡	1号窟・前面平場	かわらけ4		59
	5号窟墓壙	常滑窯甕1、かわらけ24	15世紀	
	5号窟	常滑窯甕1		
	6号窟	常滑窯片口鉢2、かわらけ15、滑石製鍋1	14～15世紀	
	6号窟方形土坑1	瀬戸窯鉄釉天目碗、かわらけ206	14世紀	
	7号窟	瀬戸窯擂鉢、常滑窯甕、かわらけ33、在地系土鍋1	15世紀	
	8・9号窟	かわらけ1	15世紀	
	10号窟	白磁口兀皿1、かわらけ2、瓦質器火鉢1、瀬戸窯擂鉢1	15世紀～近世	
	11号窟	龍泉窯系青磁鏑連弁文碗1、瀬戸窯灰釉折縁皿1、かわらけ3		
尾藤谷やぐら群	第1号やぐら	瀬戸窯鉄釉壺1、常滑窯甕1、瓦質火鉢1、かわらけ4	15世紀代	60
	第2号やぐら	白磁皿1、瀬戸窯折縁深皿1・直縁大皿1、常滑窯甕2、かわらけ14	15世紀代	
	第3号やぐら	羽釜1、瓦質火鉢1、かわらけ6	15世紀代	
	第4号やぐら	青磁蓮弁文碗1・雷文帯碗1・鏑蓮弁文碗、白磁皿1・八角坏1、瀬戸窯天目茶碗1・灰釉小鉢1・灰釉折縁皿1・灰釉平碗2・鉄釉碗1・鉄釉四耳壺1・褐釉壺1・灰釉縁釉皿1・灰釉卸皿2・灰釉柄付片口1・灰釉深皿1・灰釉擂台1、常滑窯片口鉢2・擂鉢2・甕4、瓦質碗1・火鉢9・香炉1、土鍋2、かわらけ178	13世紀後半～15世紀後半・16世紀	
	第5号やぐら	白磁皿1、青磁人物像燭台1、瀬戸窯灰釉折縁皿1・灰釉鉢1・灰釉端反碗1・灰釉平碗1、常滑窯甕5、かわらけ29	13世紀後半・15世紀代	

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
尾藤谷やぐら群	第6号やぐら	龍泉窯系青磁鉢2、瀬戸窯錆釉擂鉢1、常滑窯片口鉢2・甕3・壺1、かわらけ19	14世紀後半～15世紀代	60
	第8号やぐら	かわらけ19	14世紀中期～15世紀代	
多宝寺跡やぐら群	第11号やぐら	黒釉広口壺、瀬戸窯小壺、常滑窯壺、かわらけ		61
	第12号やぐら	かわらけ		
	第14号やぐら	常滑窯壺、かわらけ		
	19号やぐら	瀬戸窯灰釉四耳壺・卸皿	13世紀末～14世紀前半	
史跡巨福呂坂内やぐら	1号窟	かわらけ7、常滑窯甕、瓦質器、玉石	15世紀後半～16世紀前半	62
	2号窟	かわらけ34、瀬戸窯灰釉盤3、玉石	15世紀後半～16世紀前半	
華光院跡やぐら群		かわらけ35、瓦質器1	15世紀前半	63
無量寺ヶ谷やぐら群	上部平場遺構	瀬戸窯灰釉平碗1、かわらけ3、銅銭3		64
	第1号やぐら	白磁口冗皿1、青磁連弁文碗2・碗1、青白磁碗1、褐釉劃花文壺1、瀬戸窯鉄釉天目碗2・灰釉平碗2・卸皿1・小壺1、常滑窯片口鉢3・甕2、瓦質器手焙り6・灯明台1、かわらけ104	15世紀～16世紀前半	
	第2号やぐら	青磁連弁文碗2、青白磁梅瓶1、瀬戸窯灰釉鉢3・盤1・碗3・入子1、常滑窯片口鉢1・甕3、渥美窯小壺1、かわらけ10、瓦質器灯明台1	15世紀	
	第3号やぐら	瀬戸窯灰釉折縁皿1・水注1、常滑窯片口鉢1・甕6、かわらけ12	15世紀～16世紀後半	
	第4号やぐら	青白磁皿1、常滑窯甕1、かわらけ53、白かわらけ12、瓦質器	14世紀中葉～15世紀前半	
佐助ヶ谷遺跡内やぐら	1号やぐら	瀬戸窯灰釉水注1・折縁深皿2・鉢1・卸皿1、常滑窯甕6・片口鉢4、瓦質器4、かわらけ5		65
	2号やぐら	常滑窯片口鉢1、かわらけ1	14～15世紀	
佐助2丁目やぐら群	1号窟	龍泉窯青磁碗1、瀬戸窯鉄釉茶入、常滑窯甕2、備前窯擂鉢1、かわらけ619片、	14世紀	66
松谷寺やぐら	1号窟	常滑窯壺1	13世紀末～14世紀前半	67
	2号窟	かわらけ12		
	3号窟	かわらけ7		
	4号窟	かわらけ3		
	5号窟	かわらけ2		
	7号窟	かわらけ14		
	8号窟	かわらけ6		
	11号窟	常滑窯壺1、かわらけ4、瓦		
	12号窟	かわらけ4、瓦		
	13号窟	かわらけ6		
	やぐら群前面平場	山茶碗系片口鉢1、かわらけ18、早島式土器1		
	1号溝	かわらけ23		
	表採	かわらけ2		
佐助ヶ谷遺跡内やぐら	1号窟	瀬戸窯鉄釉仏華瓶1	14世紀前半	68
	2号窟	白磁水注1、瀬戸窯灰釉四耳壺2・灰釉折縁鉢1、常滑窯壺3・小甕1・甕・片口鉢、東播系片口鉢1、瓦質器1、かわらけ7	13～14世紀	69

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
笹目遺跡内やぐら	1号窟	龍泉窯系青磁鉢1、白磁皿1、瀬戸窯鉄釉瓶子1・灰釉折縁皿4・鉢1、常滑窯壺口縁1・片口鉢1・甕5、備前窯擂鉢1、かわらけ17		70
	2号窟	青磁碗2・盤1、瀬戸窯鉄釉水注1・灰釉卸皿2・鉢1、常滑窯甕7・片口鉢2、備前窯擂鉢1、瓦質器2、かわらけ106	14世紀～17世紀初頭	
長楽寺南やぐら群	1号窟	常滑窯壺1、かわらけ4	14世紀	71
	2号窟	龍泉窯系青磁皿2・香炉1、瀬戸行平1、かわらけ1	14世紀	
	3号窟	龍泉窯系青磁皿？1、緑釉壺？1、かわらけ1、伊勢系鍔釜1、瓦質器2	14世紀	
	4号窟	白磁皿1、青白磁梅瓶1・香炉1、龍泉窯系青磁花瓶1・小杯1・皿1・水盤1、磁州窯鉄釉瓶子1、均窯鉄釉花盆1、褐釉花盆1、瀬戸窯灰釉広口壺1・入子1・折縁皿3・折縁鉢1・香炉1・仏華瓶1・卸皿2・盆1、常滑窯片口鉢1・甕6、瓦質器1、かわらけ10	14～15世紀	
極楽寺やぐら群	第1号やぐら	かわらけ4	15世紀中葉～後葉	72
	第1号やぐら	常滑窯甕7、かわらけ59	15世紀後半	73
	第1号やぐら	瀬戸窯硫形鉢1、常滑窯甕6、かわらけ128	14世紀後半～17世紀	74
極楽寺旧境内遺跡内やぐら	1号窟	かわらけ2		75
	2号窟	かわらけ2		
	1号やぐら	常滑窯壺1	13世紀後半	76
真言院北やぐら群	第1号やぐら	瀬戸窯四耳壺片1、常滑窯甕5・片口鉢1、かわらけ30、平瓦2	15世紀初頭～後半	77
極楽寺前やぐら	1号窟	瀬戸窯灰釉香炉・卸皿、常滑窯甕2、瓦質器1、かわらけ101、瓦4	14世紀後半～15世紀	78
極楽寺近世やぐら		かわらけ2		79
極楽寺西ヶ谷東側やぐら群	第1号やぐら	常滑窯甕3・壺2、瓦質火鉢1、かわらけ10	14世紀中葉～後葉、15世紀中葉～後葉	80
	第1号やぐら	常滑窯甕4、かわらけ9、瓦質釜4	15世紀後半～16世紀	81
極楽寺旧境内遺跡内やぐら	1号窟	瀬戸窯灰釉製品3、常滑窯甕586、かわらけ49、瓦2	14世紀末～15世紀	82
	2号窟	常滑窯甕875、かわらけ85	14世紀末～15世紀	
子守神社祭遺跡		常滑窯甕3、かわらけ13	14世紀～近世	83
川名森久地区遺跡群	1号やぐら	かわらけ2	14世紀前半	84
	2号やぐら	かわらけ19	14世紀後半～15世紀初頭	
和田山やぐら群	第1号やぐら	かわらけ5	15世紀前半	85
	3号やぐら	かわらけ21	16世紀代	86
陣屋谷戸やぐら群	第7号やぐら	常滑窯甕73	13世紀後半	87
正禅寺やぐら群	5・6号やぐら	かわらけ34、瓦質器1	15世紀初頭～前葉	88
正観寺やぐら群	1号やぐら	かわらけ1	16世紀後半	89
長坂やぐら群	第10号穴	瀬戸窯柿釉瓶子片1、常滑窯小形壺1、かわらけ2	13世紀後半～14世紀前半	90
長坂宮ノ前やぐら群	第1号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ4	16世紀後半～末	91
薬王寺やぐら群	1号やぐら	常滑窯壺3、かわらけ2	14世紀初頭～前半	92
	2号やぐら	常滑窯壺1、かわらけ4	14世紀前半～中	
	4やぐら	かわらけ3	14世紀後半～15世紀代	

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
八坂やぐら群	第２号やぐら	常滑窯甕５、かわらけ５８	16世紀～17世紀	93
	第３号やぐら	瀬戸窯仏花瓶１、かわらけ８１	13世紀～17世	
	第５号やぐら	かわらけ４	16世紀代	
	第１号やぐら	かわらけ１		
	第２号やぐら	かわらけ１	17世紀後半	
仲川やぐら群	仲川やぐら	龍泉窯系青磁後花皿１	15世紀後半～16世紀	94
げんじが谷やぐら群	第２号やぐら	常滑窯甕肩部２		95
	第４号やぐら	瀬戸・美濃大窯鉄釉擂鉢片１		
正覚寺やぐら群	第１号やぐら	かわらけ16	16世紀前半	96
	第２号やぐら	青磁蓮弁文碗１	13世紀後半～14世紀前半	
	第３号やぐら	瀬戸窯鉄釉擂鉢１、常滑窯甕１、かわらけ１	13世紀後半、16世紀前半	
逗子市小坪６丁目やぐら群	２号穴	かわらけ８	16世紀代	97
竹の谷戸やぐら	１号やぐら	瀬戸窯小壺１、かわらけ３	15世紀中頃以降	98
和田やぐら群	１号穴	かわらけ細片		99
岡口またやぐら群	１号やぐら	かわらけ３	15世紀～17世紀代	100
	４号やぐら	瀬戸窯灰釉燭台１、かわらけ６	15世紀～17世紀代	

「やぐら」出土土器・陶磁器一覧表　参考文献

1．東国歴史考古学研究所 1998「釜利谷やぐら群」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
2．かながわ考古学財団 2000『瀬戸町やぐら群・横穴墓』かながわ考古学財団調査報告86
3．東国歴史考古学研究所 1998「上行寺東やぐら群」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』調査研究報告第15集
4．上行寺東やぐら群遺跡調査団 2002『上行寺東やぐら群遺跡発掘調査報告書』
5．財団法人横浜市ふるさと歴史財団 1987『六浦大道やぐら群』
6．岡崎文喜他 1982『六浦北部遺跡』
7．かながわ考古学財団 2000『六浦三艘地区やぐら群』かながわ考古学財団調査報告99
8．永井正憲他 1986『香場ヶ谷やぐら群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
9．十二所稲荷小路遺跡内やぐら発掘調査団 1992「十二所稲荷小路遺跡内やぐら」『平成２年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
10．十二所稲荷小路遺跡内やぐら発掘調査団 1990「十二所稲荷小路遺跡内やぐら」『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
11．十二所稲荷小路遺跡内やぐら発掘調査団 1990『十二所稲荷小路遺跡内やぐら』
12．東国歴史考古学研究所 1998「光触寺旧境内遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
13．かながわ考古学財団 2001「光触寺橋やぐら・大江稲荷跡所在やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』113
14．かながわ考古学財団 2001「一心院跡所在やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』112
15．東国歴史考古学研究所 1998「明王院門前遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
16．かながわ考古学財団 2003『明石谷やぐら群・明石谷東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告154

17. 公方屋敷跡内やぐら発掘調査団 1990「公方屋敷跡内やぐら」『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
18. 公方屋敷跡内やぐら発掘調査団 1991「公方屋敷跡内やぐら」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
19. 公方屋敷跡内やぐら発掘調査団 1993「公方屋敷跡内やぐら」『平成３年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
20. 宅間ヶ谷やぐら群発掘調査団 1991「宅間ヶ谷やぐら群」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
21. 東国歴史考古学研究所 1994「報国寺遺跡内やぐら発掘調査報告書」『東国歴史考古学研究所調査研究報告』第１集
22. かながわ考古学財団 2001「宅間谷西第２やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』114
23. かながわ考古学財団 2002『宅間谷西第２やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告137
24. 浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡発掘調査団 1989『浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡』
25. 瑞泉寺周辺遺跡内やぐら発掘調査団 1991「瑞泉寺周辺遺跡内やぐら」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
26. かながわ考古学財団 2000「鎌倉城（二階堂紅葉ヶ谷）所在やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』88
27. かながわ考古学財団 2001「覚園寺総門跡東やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』115
28. 東国歴史考古学研究所 1998「No331遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
29. かながわ考古学財団 2002『覚園寺総門跡東やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告138
30. 二階堂会下やぐら群発掘調査団 1987『会下山西やぐら発掘調査報告書』
31. 東国歴史考古学研究所 1996「天王寺跡やぐら」『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告第７集
32. 東国歴史考古学研究所 1998「天王寺跡やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
33. 大倉幕府北遺跡発掘調査団 1999『大倉幕府北遺跡発掘調査報告書』
34. かながわ考古学財団 2004『大倉幕府北やぐら群』かながわ考古学財団調査報告162
35. 杉本城跡内やぐら発掘調査団 1991「杉本城跡内やぐら」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
36. 報国寺境内やぐら群発掘調査団・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査団 1988『報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査報告書』
37. 東国歴史考古学研究所 1996「杉本寺周辺遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告第７集
38. かながわ考古学財団 2004『西御門東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告181
39. かながわ考古学財団 2004『西御門東やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告187
40. 山王堂跡発掘調査団 1990『名越・山王堂跡発掘調査報告書』
41. かながわ考古学財団 2000『鎌倉城（大町３丁目）所在やぐら』かながわ考古学財団調査報告89
42. かながわ考古学財団 2001『山王堂東谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告117
43. かながわ考古学財団 2002『山王堂東谷やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告140
44. かながわ考古学財団 2004『山王堂東谷やぐら群Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告182

45. かながわ考古学財団 2004『山王堂東谷やぐら群Ⅴ』かながわ考古学財団調査報告186
46. 東国歴史考古学研究所 1994「中世山腹墓所遺跡の調査　№302遺跡内やぐら（八雲神社境内）発掘調査報告書」『東国歴史考古学研究所調査研究報告』第８集
47. かながわ考古学財団 2000『弁ヶ谷東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告94
48. 新善光寺跡やぐら発掘調査団 1988『新善光寺跡やぐら発掘調査報告書』
49. かながわ考古学財団 1999『鎌倉城（№87）所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告74
50. 弁ヶ谷遺跡やぐら群発掘調査団 1991「弁ヶ谷遺跡やぐら群」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
51. かながわ考古学財団 2000『弁ヶ谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告98
52. かながわ考古学財団 1999『長勝寺跡（№88）所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告71
53. かながわ考古学財団 2001『長勝寺跡内やぐら群』かながわ考古学財団調査報告116
54. かながわ考古学財団 2004『長勝寺跡内やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告174
55. 円覚寺境内西やぐら群調査団 1983『円覚寺境内西やぐら群発掘調査報告書』
56. 神奈川県立埋蔵文化財センター 1984『西管領屋敷やぐら群』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告６
57. 神奈川県立埋蔵文化財センター 1985『帰源院下やぐら群』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告９
58. 西管領屋敷南やぐら群調査団 1984『西管領屋敷南やぐら群発掘調査報告書』
59. 東国歴史考古学研究所 1999「正法寺遺跡」『中世石窟遺構の調査Ⅲ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第22集
60. かながわ考古学財団 1999『尾藤谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告64
61. 多宝律寺遺跡発掘調査団 1976『多宝律寺遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
62. 東国歴史考古学研究所 1999「史跡巨福呂坂内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅲ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第22集
63. 鎌倉市教育委員会 2003「華光院跡やぐら群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』19
64. 鎌倉市教育委員会 1992「無量寺跡（№196）」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』８
65. 佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団 1997『佐助ヶ谷遺跡内やぐら』
66. 東国歴史考古学研究所 1996「佐助２丁目やぐら群」『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告第７集
67. 東国歴史考古学研究所 1998「松谷寺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
68. 東国歴史考古学研究所 1998「松谷寺やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
69. 佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団 1991「佐助ヶ谷遺跡内やぐら」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
70. 笹目遺跡内やぐら発掘調査団1990「笹目遺跡内やぐら」『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
71. 東国歴史考古学研究所 1998「長楽寺南やぐら群」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
72. かながわ考古学財団 1999『極楽寺やぐら群（№128）』かながわ考古学財団調査報告72
73. かながわ考古学財団 2000『極楽寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告90

74. かながわ考古学財団 2000『極楽寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告93
75. 東国歴史考古学研究所 1995『極楽寺旧境内遺跡内やぐら』『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
76. 神奈川県教育委員会 2002『鎌倉市極楽寺１丁目23の平成11年度急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査』『神奈川県埋蔵文化財調査報告』44
77. かながわ考古学財団 2003『真言院北やぐら群』かながわ考古学財団調査報告156
78. 東国歴史考古学研究所 1996『極楽寺旧境内遺跡内横穴墓』『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告第７集
79. 鎌倉市教育委員会 1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』１
80. かながわ考古学財団 1999『一升桝遺跡（№293）所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告73
81. かながわ考古学財団 2000『一升桝遺跡所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告100
82. 東国歴史考古学研究所 1996『極楽寺旧境内遺跡内やぐら』『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告第７集
83. 子守神社磐遺跡発掘調査団 2000『子守神社磐遺跡発掘調査報告書』
84. 川名森久地区遺跡発掘調査団 1996『藤沢市川名森久地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』
85. かながわ考古学財団 2001『和田山やぐら群遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告119
86. かながわ考古学財団 2003『和田山やぐら群遺跡Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告148
87. かながわ考古学財団 2000『陣屋谷戸やぐら群遺跡』かながわ考古学財団調査報告84
88. かながわ考古学財団 2004『正禅寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告173
89. かながわ考古学財団 2004『正眼寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告177
90. 長坂やぐら群発掘調査団 1981『横須賀市長坂やぐら群の調査』
91. かながわ考古学財団 2003『長坂宮ノ前やぐら群』かながわ考古学財団調査報告144
92. かながわ考古学財団 2004『薬王寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告176
93. かながわ考古学財団 1997『池子遺跡群Ⅳ』かながわ考古学財団調査報告26
94. かながわ考古学財団 1999『池子遺跡群Ⅶ』かながわ考古学財団調査報告43
95. かながわ考古学財団 1999『逗子市げんじが谷横穴墓群及びやぐら群』『平成10年度三浦・逗子・横須賀市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告62
96. かながわ考古学財団 2002『正覚寺やぐら群遺跡』かながわ考古学財団調査報告132
97. 急傾斜地区埋蔵文化財調査団 1997『逗子市小坪５丁目やぐら群の第２次調査』
98. かながわ考古学財団 2003『竹の谷戸やぐら』かながわ考古学財団調査報告145
99. 三浦市急傾斜地区埋蔵文化財調査団 1989『三浦市和田やぐらの第３次調査』
100. かながわ考古学財団 2004『間口またやぐら群』かながわ考古学財団調査報告172

第2表　神奈川県内「やぐら」集成一覧（集成遺漏分）

番号	遺跡名	所在地	基数	立地	調査年月日	備考	文献番号
126	浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡	鎌倉市浄明寺字釈迦堂621番	2	崖裾	1987年6月22日～8月22日、1987年8月24日～1988年5月5日	斜面中腹を造成した平場に面する	188

※新番号付与

第3表　神奈川県内「やぐら」集成一覧（2003年4月以降刊行分）

番号	遺跡名	所在地	基数	立地	調査年月日	備考	文献番号
37	山王堂東谷やぐら群	鎌倉市大町3丁目1378番、1381番3	3	崖裾	2002年12月26日～2003年2月6日		189
		鎌倉市大町3丁目1338番	1	崖裾	2003年9月1日～9月29日		190
		鎌倉市大町3丁目1339番	1	崖裾	2004年6月30日～7月12日		191
127	西御門東やぐら群	鎌倉市西御門1丁目22番1、23番、25番1、2	9	崖裾	2001年7月5日～8月1日・10月19日～10月24日・11月8日～11月19日、2002年7月15日～8月12日・12月2日～12月25日、2003年2月7日～3月31日	他に造成遺構2基	192
		鎌倉市西御門1丁目31番	1	崖裾	2003年8月29日～9月8日・9月29日～10月23日		193
128	旗立山やぐら群	三浦郡葉山町堀内40、41－1	2	崖裾	2004年6月14日～6月29日		194
129	矢作第2やぐら群	三浦市初声町和田3324～3326番	5	崖裾	2004年3月11日～3月26日		195

※37は追加、他は新番号付与

文献

188. 浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡発掘調査団 1989『浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡』
189. かながわ考古学財団 2005『山王堂東谷やぐら群Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告182
190. かながわ考古学財団 2005『山王堂東谷やぐら群Ⅳ』かながわ考古学財団調査報告184
191. かながわ考古学財団 2005『山王堂東谷やぐら群Ⅴ』かながわ考古学財団調査報告186
192. かながわ考古学財団 2005『西御門東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告181
193. かながわ考古学財団 2005『西御門東やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告187
194. かながわ考古学財団 2005『旗立山やぐら群』かながわ考古学財団調査報告183
195. かながわ考古学財団 2005『矢作第2やぐら群』かながわ考古学財団調査報告188

※文献番号は前回（『研究紀要10 所収』）番号から続く

近世民家の集成（3）

近世研究プロジェクトチーム

はじめに

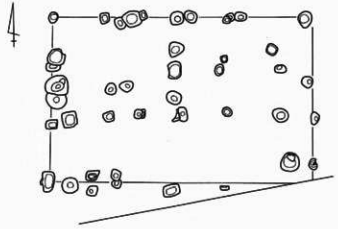
県内の近世民家の集成の第3回目である。前2回は本プロジェクトチームがまとめた「県内の近世遺跡集成表」に基づいて、横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、逗子市の順に実施してきたが、今回は紙面の都合上小田原市、相模原市、綾瀬市の3市を対象とした。

なお、すでに集成を終えた市において、報告されているにもかかわらず見落としていた事例や近年刊行された報告書に記載されている事例があることが明らかとなった。今後もこのようなケースが出てくると思われるが、それらについては補遺で扱うことにする。

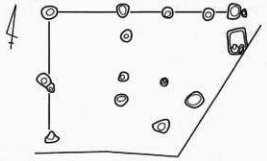
凡例

・資料No.は近世民家の集成（1）からの続き番号である。
・遺構名は報告書の記載に基づく。
・建物の縮尺は1/100とし、スケールを省略したが、規模の大きいものについては適宜縮尺を変え、図面ごとにスケールを示した。
・梁間、桁行の間数は単に柱穴の数ではなく、柱間距離から概略割り出した1間の梁間及び桁行寸法で換算した数値を示している。
・坪数は梁間×桁行の面積を、現行の一坪3.3㎡で除したものである。
・建物の機能・構築時期については、報告書の記載に準じているが、母屋と付属建物の別が明確なもの、出土遺物から時期が推定できるものについては記載した。

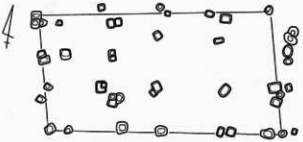
資料No.	60	遺跡名	御組長屋遺跡第Ⅱ地点			所在地	小田原市南町		
遺構名		1号掘立柱建物址	構築場所	丘陵縁辺から低地への移行部					
規模	梁間	4.5m	桁行	6.6m	3 × 4 間	面積	29.7㎡	坪数	9坪
柱穴の形状	隅丸方形、長方形	柱間距離	梁	1.1～1.6m	桁	1.5～1.9m	主軸方位	N−90°−E	
出土遺物				付属施設					
建物の機能	弓矢・鉄砲方足軽の居住棟			構築時期	18世紀～19世紀				
備考									



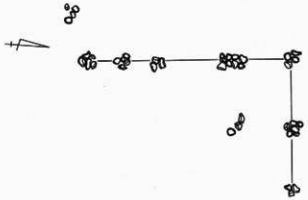
資料No.	61	遺跡名	御組長屋遺跡第Ⅱ地点			所在地	小田原市南町		
遺構名		2号掘立柱建物址	構築場所	丘陵縁辺から低地への移行部					
規模	梁間	3.5m～	桁行	5m	2～	× 3	間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	円形・楕円形主体	柱間距離	梁	1.6、1.9m	桁	1.2～1.9m	主軸方位	N−83°−E			
出土遺物			付属施設								
建物の機能	弓矢・鉄砲方足軽の居住棟		構築時期	18世紀～19世紀							
備考	南側及び東側は調査区外に続いている可能性あり、1号掘立柱建物址よりもやや古い										



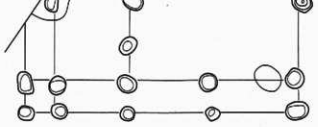
資料No.	62	遺跡名	御組長屋遺跡第Ⅱ地点			所在地	小田原市南町		
遺構名		3号掘立柱建物址	構築場所	丘陵縁辺から低地への移行部					
規模	梁間	3.3m	桁行	6m	1.5	× 3	間	面積	19.8㎡	坪数	6坪
柱穴の形状	方形、長方形	柱間距離	梁	1.3、2.0m	桁	1.7～2.7m	主軸方位	N−83°−E			
出土遺物			付属施設								
建物の機能	弓矢・鉄砲方足軽の居住棟		構築時期	18世紀後半～19世紀前半							
備考	梁がずれているのは地震の影響か										



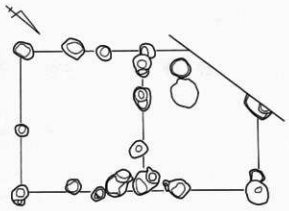
資料No. 63	遺跡名	小田原城三の丸藩校集成館第Ⅲ地点			所在地	小田原市本町		
遺構名	1号礎石建物址	構築場所						
規模	梁間	3.9m	桁行	6.6m	2 × 3 間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状		柱間距離	梁	1.7、1.9m	桁	1.6、2.0m	主軸方位	N−13°−W	
出土遺物			付属施設						
建物の機能			構築時期	19世紀前半以降					
備考	藩校集成館に関連した礎石建物址、礎石は20cm前後の扁平な河原石3～9個からなる								



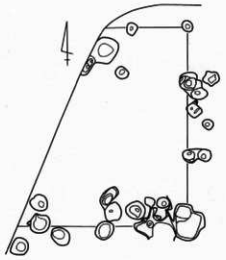
資料No. 64	遺跡名	中村遺跡			所在地	相模原市上鶴間		
遺構名	1号掘立柱建物址	構築場所	台地裾部					
規模	梁間	3.5m	桁行	6.7m	1.5 × 3 間	面積	23.5㎡	坪数	7.1坪
柱穴の形状	円形、楕円形	柱間距離	梁	1.2、2.2m	桁	2.1～2.4m	主軸方位	N−80°−E	
出土遺物			付属施設	西側及び南側に庇有り					
建物の機能	母屋		構築時期	中世末～近世前半					
備考	報告書では、梁間6.3m・桁行8.8mの3×4間の建物址とされているが、西側と南側は付属施設と判断した								



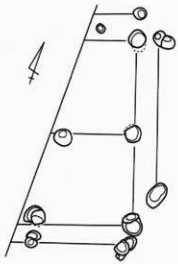
資料No.	65	遺跡名	中村遺跡			所在地	相模原市上鶴間		
遺構名		3号掘立柱建物址	構築場所	台地縁部					
規模	梁間	3.9m	桁行	6.6m	2 × 3 間	面積	25.7㎡	坪数	7.8坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.7、2.2m	桁	2.2m	主軸方位	N−45°−W	
出土遺物	瀬戸・美濃系擂鉢等			付属施設					
建物の機能	母屋			構築時期	江戸時代前期頃				
備考	江戸時代中期頃に廃絶								



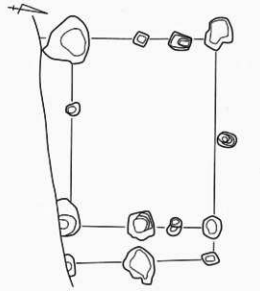
資料No.	66	遺跡名	中村遺跡			所在地	相模原市上鶴間		
遺構名		4号掘立柱建物址	構築場所	台地縁部					
規模	梁間	4.2m	桁行	5.1m	2~ × 3 間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	2.1m	桁	1.5~2.0m	主軸方位	N−0°	
出土遺物				付属施設					
建物の機能	物置または小屋			構築時期					
備考	調査区外に延びており全体は明らかでない								



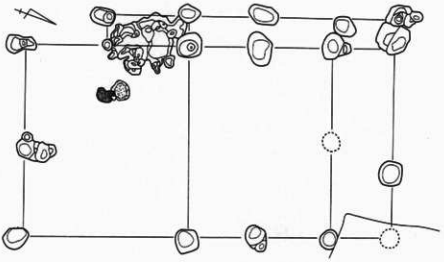
資料No.	67	遺跡名	五社神社遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	1号掘立柱建物址	構築場所	丘陵縁辺部の段切り造成面						
規模	梁間	4.9m	桁行	3.0～m	2 × 1～間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	2.5 m	桁	2.6m	主軸方位	N−69°−E	
出土遺物		付属施設	北・南・東側に庇　間仕切り用の柱穴1穴						
建物の機能	母屋	構築時期	18世紀代						
備考									



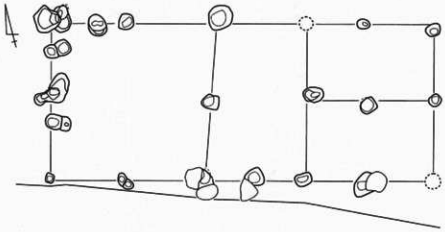
資料No.	68	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB01	構築場所	北側緩斜面の段丘上の削平面						
規模	梁間	5.5m	桁行	6.3～m	2 × 3～間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	不整形	柱間距離	梁	2.6、2.9m	桁	2.1m	主軸方位	N−10°−W	
出土遺物	陶磁器片僅少	付属施設	東側に0.5間の庇						
建物の機能	母屋	構築時期							
備考	遺存部は土間部分と推定								



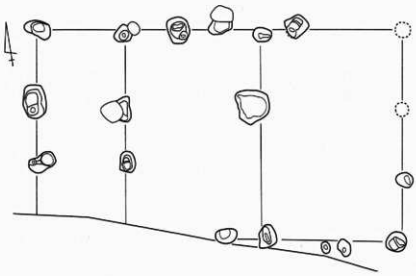
資料No.	69	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB02	構築場所	段丘北東緩斜面の削平・造成面								
規模	梁間	5.1 m	桁行	9.9 m	3 × 6	間	面積	50.5 ㎡	坪数	15.3坪	
柱穴の形状	楕円形主体	柱間距離	梁	2.3、2.8 m	桁	1.6~2.0 m	主軸方位	N−18°−W			
出土遺物	陶磁器片				付属施設	竈 流し 西側に0.5間の庇					
建物の機能	母屋				構築時期	17世紀後半					
備考	西側には井戸址が近接し、南側には全形不明ながらナヤとみられるSB03が所在する										



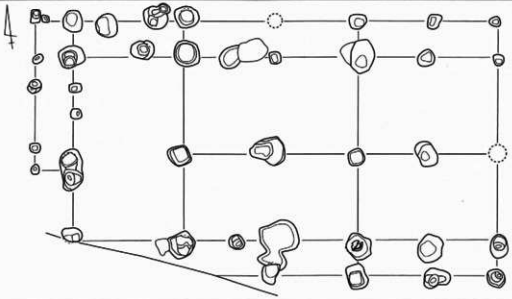
資料No.	70	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB04	構築場所	丘陵裾部を大規模に段切り造成								
規模	梁間	4.15 m	桁行	10.1 m	2 × 5	間	面積	41.9 ㎡	坪数	12.7坪	
柱穴の形状	円~楕円形	柱間距離	梁	2.1 m	桁	1.5~2.4 m	主軸方位	N−76°−W			
出土遺物	陶磁器片				付属施設	間仕切り用の柱穴3穴					
建物の機能	母屋				構築時期	17世紀後半					
備考	ヒロマ型の間取り SB05より古い										



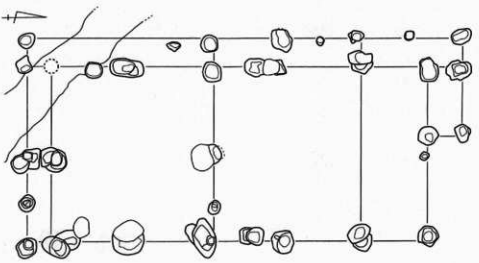
資料No.	71	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川				
遺構名	SB05	構築場所	丘陵裾部を大規模に段切り造成								
規模	梁間	5.5 m	桁行	9.8 m	3 × 5 間	面積	53.9 ㎡	坪数	16.3坪		
柱穴の形状	楕円形主体	柱間距離	梁	1.5～2.1 m	桁	1.0～2.9 m	主軸方位	N－82°－W			
出土遺物				付属施設							
建物の機能	母屋			構築時期	18世紀前半						
備考	SB04より新しい										



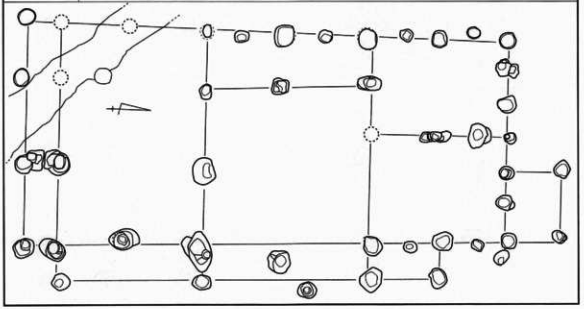
資料No.	72	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川				
遺構名	SB06	構築場所	丘陵裾部を大規模に段切り造成								
規模	梁間	6.8 m	桁行	11.3 m	3 × 5.5 間	面積	76.8 ㎡	坪数	23.3坪		
柱穴の形状	楕円～長方形	柱間距離	梁	2.2～2.6 m	桁	1.8～2.1 m	主軸方位	N－87°－W			
出土遺物				付属施設	西側に0.5間の庇　間仕切り用の柱穴4穴						
建物の機能	母屋			構築時期	18世紀後半						
備考	南北半間部分は下屋造り　整形四つ間取り型式　SB05より新しい										



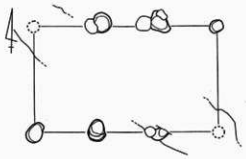
資料No.	73	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB07	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成						
規模	梁間	4.6 m	桁行	9.9 m	2 × 5 間	面積	45.5 ㎡	坪数	13.8坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.8~2.6 m	桁	1.7~2.3 m	主軸方位	N−0°	
出土遺物				付属施設	南・西側と北側一部に0.5間の庇				
建物の機能	母屋			構築時期	18世紀前半				
備考	SB08より古い								



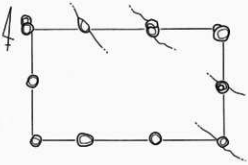
資料No.	74	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB08	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成						
規模	梁間	5.3·5.9 m	桁行	11.9 m	3 × 6 間	面積	69.5 ㎡	坪数	21.1坪
柱穴の形状	楕円形主体	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.6~2.4 m	主軸方位	N−4°−W	
出土遺物				付属施設	南·東側に0.5間の庇　北側の張り出しは建物に付属				
建物の機能	母屋			構築時期	19世紀前半				
備考	SB07を改築か　主柱穴の間に補助柱穴　喰違い四つ間取り型式								



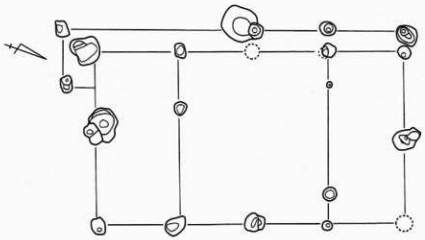
資料No.	75	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB09	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成								
規模	梁間	2.8 m	桁行	4.85 m	2 × 3	間	面積	13.6 m²	坪数	4.1坪	
柱穴の形状	不整円形	柱間距離	梁	2.8 m	桁	1.35～1.9 m	主軸方位	N−87°−E			
出土遺物				付属施設							
建物の機能	ナヤ			構築時期							
備考	主軸方位が直交するSB07に付属										



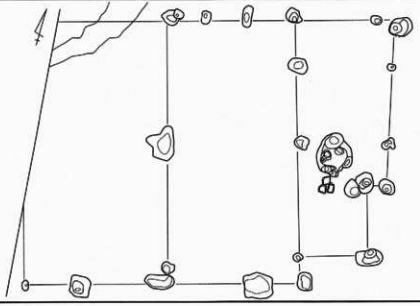
資料No.	76	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB10	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成								
規模	梁間	2.95 m	桁行	5.1 m	2 × 3	間	面積	15.0 m²	坪数	4.6坪	
柱穴の形状	円・楕円形	柱間距離	梁	1.35·1.55 m	桁	1.4～1.9 m	主軸方位	N−86°−E			
出土遺物				付属施設							
建物の機能	ナヤ			構築時期							
備考	建物の配置からSB08に付属										



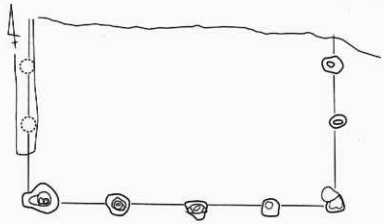
資料No.	77	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB11	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成								
規模	梁間	4.6 m	桁行	8.15 m	2 × 4	間	面積	37.5 ㎡	坪数	11.4坪
柱穴の形状	円～楕円形	柱間距離	梁	1.4～2.7 m	桁	1.9～2.2 m	主軸方位	N−17°−W		
出土遺物				付属施設	西側と南側一部に0.5間の庇 間仕切り用の柱穴3穴					
建物の機能	母屋			構築時期	17世紀中半					
備考										



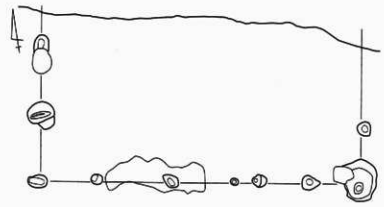
資料No.	78	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB12	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成								
規模	梁間	8.25 m	桁行	11.3 m	3.5 × 5	間	面積	93.2 ㎡	坪数	28.3坪
柱穴の形状	楕円形主体	柱間距離	梁	2.1～2.4 m	桁	1.4～3.0 m	主軸方位	N−74°−E		
出土遺物				付属施設	庇					
建物の機能	母屋			構築時期						
備考	西側は一部調査区外 平面形は変則的									



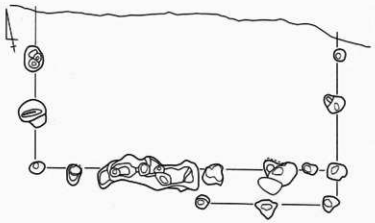
資料No.	79	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB14	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成						
規模	梁間	8.2m	桁行	4.4～m	4 × 5～間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	楕円形主体	柱間距離	梁	1.75～2.4m	桁	1.55、2.2m	主軸方位	N－7°－E	
出土遺物				付属施設					
建物の機能	母屋			構築時期					
備考	西・南側を段切りしており、建物は東側が正面の南北棟と推定								



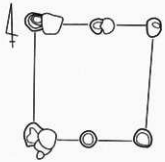
資料No.	80	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB15	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成						
規模	梁間	8.5m	桁行	4.5～m	4 × 5～間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	円～長楕円形	柱間距離	梁	1.4～2.0m	桁	1.8m	主軸方位	N－7°－E	
出土遺物				付属施設					
建物の機能	母屋			構築時期					
備考	SB14より新しく、東へ1.2mずれて構築されており、建替えと判断される								



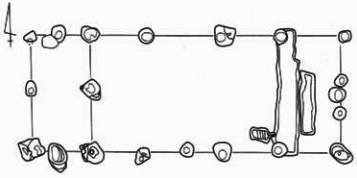
資料No.	81	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB16	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成						
規模	梁間	7.9m	桁行	3.4～m	4 × 5～ 間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	円～不整形	柱間距離	梁	0.7～1.5m	桁	1.5m	主軸方位	N－7°－E	
出土遺物				付属施設	南側2間分に0.5間の庇				
建物の機能	母屋			構築時期					
備考	SB15の北西側に僅かにずれて構築されており、建替えと推定								



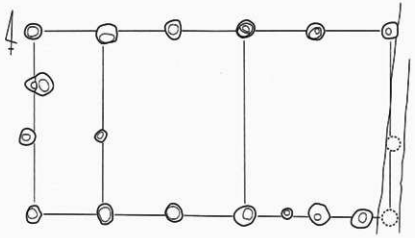
資料No.	82	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB17	構築場所	SB14～16の東側約6m						
規模	梁間	3.1m	桁行	2.9･3.1m	2 × 2 間	面積	9.3㎡	坪数	2.8坪
柱穴の形状	円～楕円形	柱間距離	梁	3.1m	桁	1.5～1.6m	主軸方位	N－88°－W	
出土遺物				付属施設					
建物の機能	ナヤ			構築時期					
備考	梁間は2間吹き放ち								



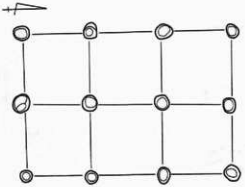
資料No.	83	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB18	構築場所	SB14～16の東側約6m						
規模	梁間	3.1m	桁行	6.6m	2 × 4 間	面積	20.5㎡	坪数	6.2坪
柱穴の形状	円～楕円形	柱間距離	梁	1.5m	桁	1.5m	主軸方位	N−88°−W	
出土遺物				付属施設	西側に1間の庇　梁に平行して長方形の溝2本				
建物の機能	ナヤ			構築時期					
備考	SB17の建替え・拡張								



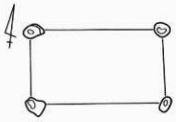
資料No.	84	遺跡名	宮久保遺跡			所在地	綾瀬市早川		
遺構名	SB19	構築場所	段丘の北東緩斜面を段切り造成						
規模	梁間	4.8m	桁行	9.4m	3 × 5 間	面積	45.1㎡	坪数	13.7坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.4～2.0m	桁	1.8･1.9m	主軸方位	N−86°−E	
出土遺物				付属施設	間仕切り用柱穴1穴				
建物の機能	母屋			構築時期					
備考	建物配置等から北側が正面と推定								



資料No.	85	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名		SB20		構築場所	SB19の北約4m						
規模		梁間	3.1m	桁行	5.5m	2 × 3	間	面積	17.1㎡	坪数	5.2坪
柱穴の形状		円~楕円形		柱間距離	梁	1.7~1.9m	桁	1.7~1.9m	主軸方位	N−0°	
出土遺物						付属施設					
建物の機能		ナヤ				構築時期					
備考		総柱式建物									



資料No.	86	遺跡名	宮久保遺跡					所在地	綾瀬市早川		
遺構名		SB21		構築場所	SB19の西約2m						
規模		梁間	2.0m	桁行	3.5·3.6m	1 × 2	間	面積	7.1㎡	坪数	2.2坪
柱穴の形状		楕円形主体		柱間距離	梁	2.0m	桁	1.75·1.8m	主軸方位	N−83°−E	
出土遺物						付属施設					
建物の機能		ナヤ				構築時期					
備考		梁間は2間吹き放ち									



研究紀要11

かながわの考古学

発 行 日　2006(平成18)年３月10日
発　　行　財団法人かながわ考古学財団
〒232－0033 横浜市南区中村町３－191－１
tel (045)－252－8661　fax (045)－262－8162
http://www.planet.pref.kanagawa.jp/city/koukogaku/zaidan.htm
印　　刷　野崎印刷紙器株式会社

KANAGAWA NO KÔKOGAKU

Vol. 11

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

CONTENTS

Project Team for Palaeolithic Studies: Palaeolithic Remains in Kanagawa Prefecture (5): After Layer L3 1

Project Team for Jômon Period Studies: Change of the Jômon Culture in Kanagawa Prefecture (Ⅷ): An Example in the earliest Late Period. An Aspect of the Shômyoji-Type Pottery Period, Part 1: The Corpus of Main Sites and Examples of collectively unearthed artifacts 11

Project Team for Yayoi Period Studies: A Study of the Miyanodai-Type Pottery (5) 27

Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr. Naotada Akaboshi, A Pioneer of Archaeological Research in Kanagawa Prefecture (3): A Report of Materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note" 41

Project Team for Nara-Heian Period Studies: Farm Implements of the Nara-Heian Period in Kanagawa Prefecture 57

Project Team for Medieval Age Studies: The Corpus of "Yagura" (horizontal loam-cut cave burial chamber of the Kamakura period) in Kanagawa Prefecture (4): Potteries, Ceramics from "Yagura" 75

Project Team for Early Modern Age Studies: The Corpus of Common Houses in the Early Modern Age (3). 89

March, 2006

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan